

### 第150C号住居跡（第150区）

位置 調査区の西部、E 2 b3区。

重複関係 本跡が、第150B号住居跡の南部を掘り込んでいる。また、本跡は、第150D号住居跡の上部に構築されている。

規模と平面形 長軸3.96m、短軸3.82mの方形である。

主軸方向 N-66°-E

壁 壁高は29~32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅17~33cm、下幅5~12cm、深さ4~8cmで、断面形はじ字状である。

床 平坦で、竈前から中央部やや南寄りにかけて踏み固められている。

竈 2か所。東壁中央部と東壁南側に付設され、中央部の竈1が古く、南側の竈2へ造り替えをしている。どちらも砂混じりの褐色粘土で構築されている。竈1は、両袖の焚き口部付近が壊されており、遺存状況はよくない。天井部は崩落している。規模は、竈道部から焚き口部まで99cm、両袖最大幅（72）cm、壁外への掘り込みは65cmである。火床部は、床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けわずかに赤変している。煙道部は、緩やかに立ち上がる。竈2は、天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、竈道部から焚き口部まで128cm、両袖最大幅100cm、壁外への掘り込みは78cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変している。須恵器高台の脚部が1点、土師器杯が1点、土師器高台付輪が3点、合計5点を逆位にして重ねたものが、支脚として転用されている。重ねられた遺物の間からは、赤変した焼土が確認された。煙道部は最初緩やかに立ち上がり、のち角度を変えてほぼ垂直に立ち上がる。

#### 竈1土層解説

- 1 灰褐色 焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 灰褐色 焼土粒子中量、炭化・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子少量、炭化・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

#### 竈2土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量
- 2 に近い赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量

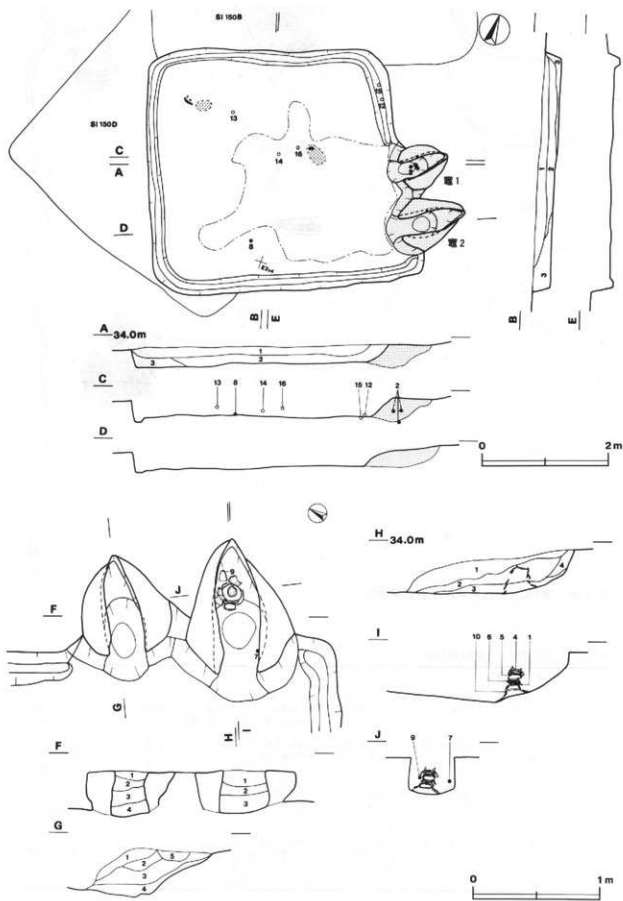
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

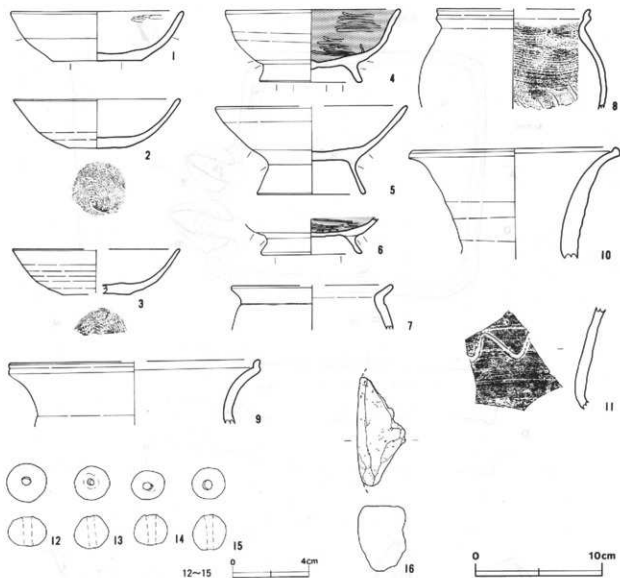
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化材・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片696点（坏片101点、甕片595点）、須恵器片32点（坏片13点、甕片2点、甕片17点）、土製品4点、鉄滓893.1g、含鉄滓620.8gが出土している。覆土上層では、第151区13の上玉が中央部北側から、16の軽石が中央部から出土している。覆土下層では、12の上玉が東壁付近から、14の上玉が中央部から出土している。床面では、8の土師器甕が中央部南側から、15の上玉が東壁付近から出土している。竈1からは、2の土師器杯が出土している。竈2からは、火床部に下から順に10の須恵器蓋、1の土師器杯、6、5、4の土師器高台付輪が逆位で重ねられた状態で出土している。支脚として使用されたと考えられる。その他に、竈2からは3の土師器杯、7、9の土師器甕が出土している。11は須恵器甕の頸部片で、1本の波状文が施されている。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から10世紀前後と考えられる。



第150图 第150C号住居跡実測図



第151図 第150C号住居跡出土遺物実測図

第150C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第151図 1	坏 土器	A 13.6	底部から口縁部片。平底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部に至 る。	口縁部、体部外面ロクロナデ、内 面へう磨き。体部下端回転ヘラ削 り。底部回転ヘラ削り。器面荒れ。	雲母・スコリア 明褐色 普通	P447 55% 壺内 PL120 二次焼成
		B 3.9				
		C 6.8				
2	坏 土器	A 13.2	底部から体部片。平底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 底部回転糸切り。	雲母・スコリア にふい赤褐色 普通	P448 40% 壺内 PL120 二次焼成
		B 3.9				
		C 4.6				
3	坏 土器	A [13.2]	底部から体部片。平底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 底部回転糸切り。	雲母・スコリア にふい赤褐色 普通	P449 30% 壺内 二次焼成
		B 3.5				
		C [5.4]				
4	高台付筒 土器	A 14.0	体部、口縁部一部欠損。高台はハ の字状に開く。体部は内壁して立 ち上がり、口縁部はわずかに外反 する。	口縁部、体部外面ロクロナデ、内 面へう磨き。体部下端回転ヘラ削 り。底部回転ヘラ削り後、高台貼 付け。内面黒色処理。	石英・雲母 にふい褐色 普通	P450 90% 壺内 PL120 二次焼成
		B 5.8				
		D 7.9				
		E 1.5				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151号	高台付坏土師器	A [15.2] B 7.0 D 8.6 E 2.4	高台部から口縁部片。高台はハの字状に長く開く。体部は緩やかに内傾して、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。高台貼付け。	赤黄・スコリアに多い褐色普通	P451 50% 壺内 PL120 二次焼成
6	高台付坏土師器	A (2.8) D 8.0 E 1.5	高台部から口縁部片。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼付け。内面黒色処理。	灰石・石英・雲母に多い褐色普通	P452 30% 壺内 二次焼成
7	壺土師器	A [12.8] B (3.5)	体部から口縁部片。体部と口縁部との境にわずかに境を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア 淡黄褐色 普通	P454 5% 壺内
8	壺土師器	A [12.2] B (7.8)	体部から口縁部片。体部は内傾して立ち上がり。口縁部は外反する。基部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	灰石・石英・雲母 剛赤褐色 普通	P455 10% 灰面
9	壺土師器	A [20.0] B (5.0)	頸部から口縁部片。口縁部は外反し、肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・雲母・スコリア に多い褐色 普通	P453 5% 壺内
10	壺土師器	A 16.0 B (8.7)	口縁部片。口縁部は外反し、基部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ	石英・雲母 に多い黄褐色 普通	P456 10% 壺内 PL170

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	土 師 器	1.5	2.1	0.5	5.2	塚 上 中	DP58 100% PL167
13	土 師 器	1.7	1.9	0.4	4.8	塚 上 中	DP59 100% PL167
14	土 師 器	1.6	1.8	0.5	3.6	塚 上 中	DP60 100% PL167
15	土 師 器	1.9	1.8	0.4	3.0	塚 上 中	DP61 100% PL167

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
16	鉢 石	(8.6)	2.8	3.2	(78.2)	流 紋 岩	塚 上 中	Q13

### 第150D号住居跡 (第152図)

位置 調査区の西部，E2 b3区。

重複関係 本跡は，第150B号住居跡によって掘り込まれ，第150C号住居跡の下部に構築されている。また，第53号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.21m，短軸4.08mの方形である。

主軸方向 N-21°-E

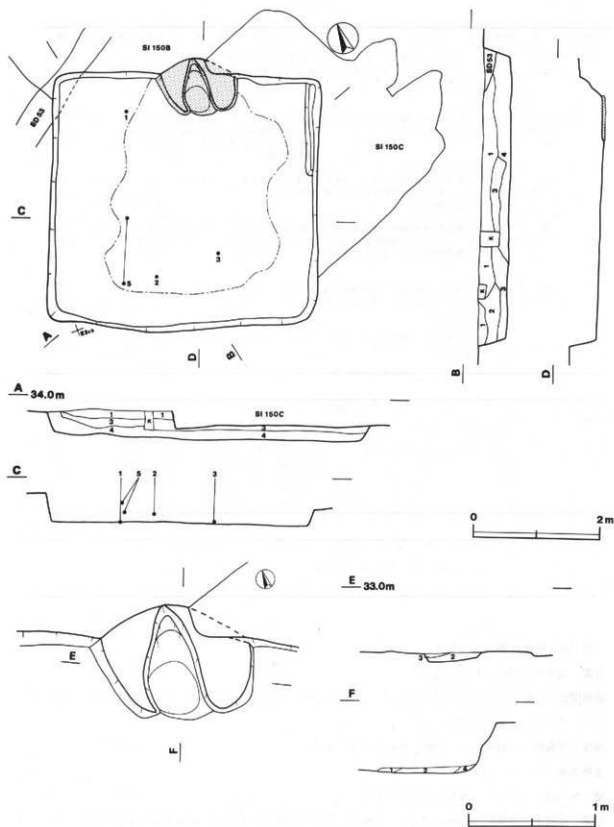
壁 壁高は25～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下の北側に一部残っている。上幅18～25cm，下幅6～9cmで，断面形はJ字状である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

竈 北壁中央部やや東寄りに，砂泥じりの褐色粘土で構築されている。袖部の遺存状態は悪く，わずかに下部が残存しているだけである。規模は，煙道部から吹き口部まで91cm，内袖最大幅130cm，壁外への掘り込みは21cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受け変色している。煙道部は外傾して立ち上がる。





第152图 第150D号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子小ブロック・焼土・粘土粒子微量, 炭化粒子微量
- 3 灰褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量

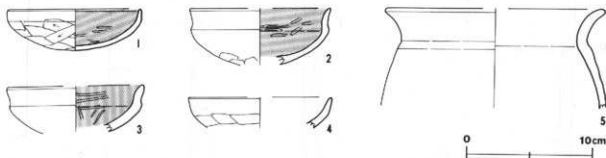
覆土 4層からなり、ローム小ブロックを多く含む不自然な堆積を示していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片111点(坏片23点, 甕片88点), 須恵器片1点(甕片1点)が出土している。覆土下層では, 第153図2の土師器坏が中央部南側から, 3の土師器坏が中央部南寄りから出土している。床面では, 1の土師器坏が甍付近から出土している。5の土師器甕は, 中央部西寄りの覆土上層の破片と中央部南側の覆土下層の破片が接合している。その他, 覆土中から4の土師器坏が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。



第153図 第150D号住居跡出土遺物実測図

第150D号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	坏 土師器	A 10.5 B 3.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母・スコリアにふい・橙褐色 普通	P457 95% 床面 PL120 二次焼成
2	坏 土師器	A [11.1] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後, ナデ, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母・スコリアにふい・橙褐色 普通	P458 20% 覆土中 二次焼成
3	坏 土師器	A [10.7] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後, ナデ, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母にふい・褐色 普通	P459 15% 覆土中 二次焼成
4	坏 土師器	A [11.3] B (2.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	石英・雲母にふい・褐色 普通	P460 10% 覆土中 二次焼成
5	甕 土師器	A [17.6] B (7.7)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母にふい・褐色 普通	P461 5% 覆土中

第151号住居跡 (第154図)

位置 調査区の西部, E 1 b 0 区。

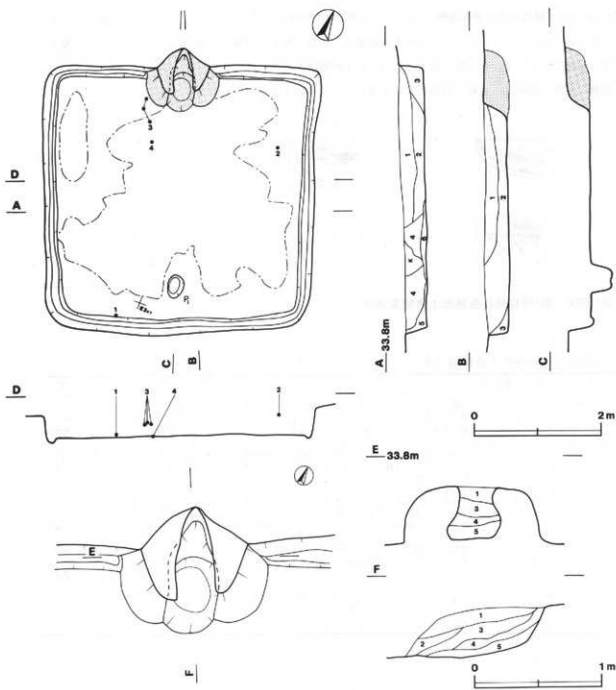
規模と平面形 長軸4.27m, 短軸4.25m の方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は35~42cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅16~26cm, 下幅2~13cm, 深さ4~6cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 竈前面から出入り口施設に伴うピット付近にかけて踏み固められている。



第154図 第151号住居跡実測図

ビット P1は長径35cm、短径27cmの楕円形、深さ34cmである。位置から出入り口施設に伴うビットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から吹き口部まで101cm、両袖最大幅116cm、壁外への掘り込みは32cmである。火床部は、火熱を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がる。

**竈土層解説**

- 1 灰 褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 粘土粒子少量、炭化物微量
- 4 暗 褐色 炭化・粘土粒子少量、炭化物微量
- 5 暗 赤 褐色 炭化粒子少量、焼土・粘土粒子微量

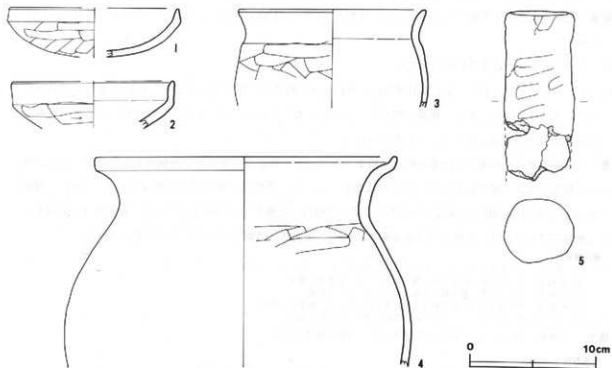
覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 6 褐 色 ローム粒子多量

遺物 土師器片425点(坏片175点、甕片250点)、須恵器片1点(甕片1点)、土製品1点が出土している。覆土上層では、第155図2の土師器坏が東壁付近から、3の土師器甕が竈西袖部付近から出土している。覆土下層では、1の土師器坏が南壁際から出土している。床面では、4の土師器甕が中央部北寄りから正位で出土している。竈内では、5の土製支脚が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第155図 第151号住居跡出土遺物実測図

第151号住居跡出土遺物観察表

区画番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・造成	備考
第151区	1 七部器	A [13.4 B (3.9)]	体部から口縁部片、体部は内増して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツリ、内面ナデ。	石英・雲母にふい橙褐色 普通	P462 30% 覆土中 二次造成
		A 12.8 B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内増し気味に立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツリ、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スクリヤ 灰黄褐色 普通	P463 30% 覆土中 二次造成
3	3 上部器	A 14.8 B (7.7)	体部から口縁部片。体部は内増して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツリ、内面ナデ。器面荒れ。	石英・雲母にふい橙褐色 不良	P465 30% 覆土中 PL120
		A 23.9 B (16.6)	体部から口縁部片。体部は内増して立ち上がり、口縁部は外反する。胎部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へツリナデ。器面荒れ。	長石・石英・雲母・スコリアにふい黄褐色 普通	P464 45% 床面 PL120

区画番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	支脚	(13.3)	5.6		(325.3)	堀内 DP62	75% PL172

第152号住居跡 (第156区)

位置 調査区の西部、D 2 h1 区。

規模と平面形 長軸5.25m、短軸5.17m の方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は25~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁東側の壁下を除いて走っている。上幅17~39cm、下幅4~11cm、深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 平埦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1は長径59cm、短径48cmの楕円形、深さ70cmである。P2~P4は、径41~47cmの円形、深さ60~68cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径35cmの円形、深さ51cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部の先端及び西袖部と火床部の一部は、耕作により擾乱を受けて壊されている。天井部は崩落している。規模は、煙道部から焚き口部まで120cm、両袖最大幅145cm、壁外への掘り込みは26cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がると考えられる。

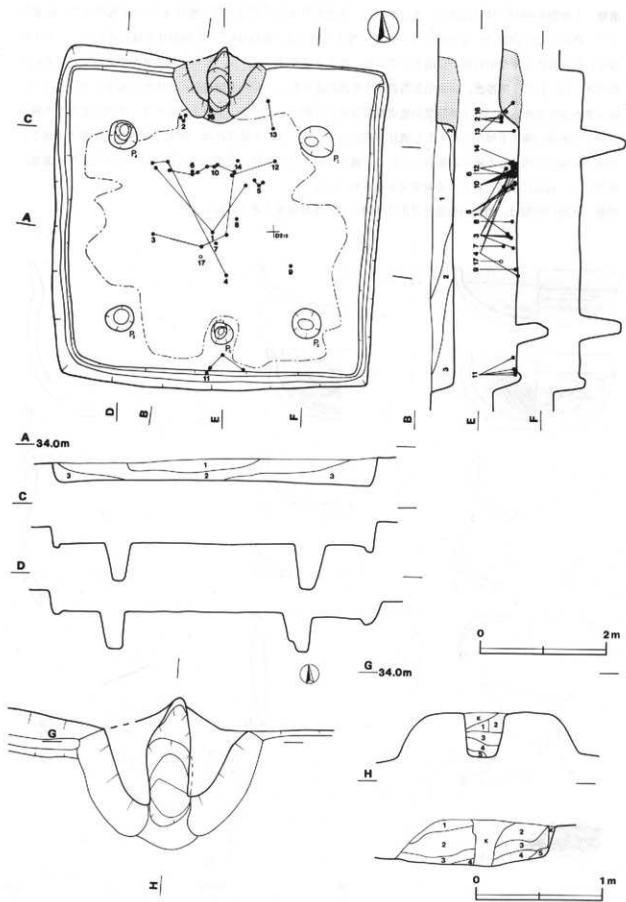
土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土中ブロック・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

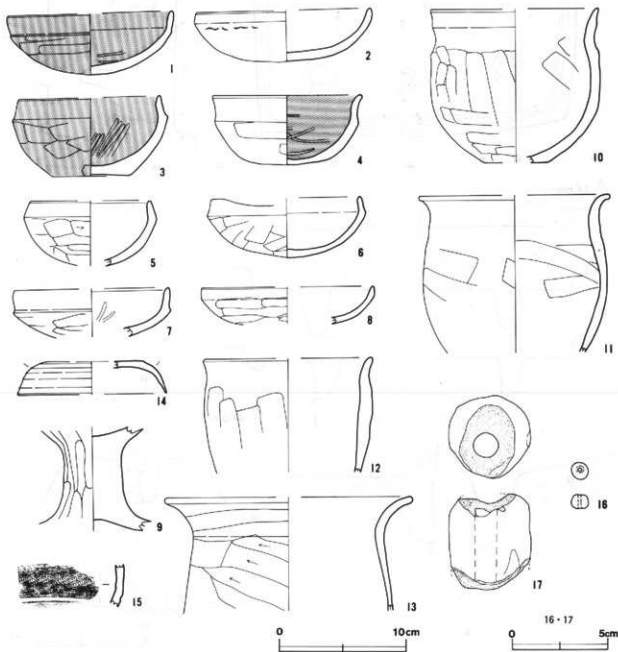
- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量



第156图 第152号住居跡実測图

遺物 土師器片920点(坏片320点, 甕片600点), 須恵器片6点(坏片2点, 甕片4点), 土製品2点, 石製品1点, 鉄滓7.7g, 含鉄滓0.5gが出土している。覆土上層では, 第157図2の土師器坏が竈付近から, 7の土師器坏, 17の管状土鉢が中央部から出土している。覆土下層では, 3, 5, 8の土師器坏が中央部から, 6の土師器坏, 10, 12の土師器甕, 14の須恵器蓋が中央部北寄りから, 9の土師器高坏が中央部東寄りから, 11の土師器甕が南壁際から, 13の土師器甕が竈東袖部付近から出土している。1の土師器坏は, 中央部北寄りの覆土上層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合している。4の土師器坏は, 中央部北西寄りの覆土下層と中央部の床面から出土した破片が接合している。竈内では, 16の土製小玉が出土している。15は須恵器長頸瓶の体部片で, 外面に串状工具による刺突文が施されている。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第157図 第152号住居跡出土遺物実測図

第152号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157四 1	坏土師器	A [13.0]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	雲母 にぶい黄褐色 普通	P466 65% 覆土中 二次焼成
		B 4.8				
2	坏土師器	A [13.7]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。輪縁み成。	雲母・スコリア にぶい棕色 普通	P467 63% 覆土中 PL120 二次焼成
		B 4.0				
3	坏土師器	A [11.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、磨き。内面へラ磨き。底部へラナデ。内・外面黒色処理。	雲母 にぶい棕色 普通	P468 60% 覆土中 PL120 二次焼成
		B 5.3 C 6.0				
4	坏土師器	A 11.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母・スコリア 棕色 普通	P469 40% 覆土中・灰面 二次焼成
		B 5.5				
5	坏土師器	A [9.6]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。器面光沢。	雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P470 60% 覆土中 二次焼成
		B (5.1)				
6	坏土師器	A [11.8]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	雲母 明赤褐色 普通	P471 40% 覆土中 PL120 二次焼成
		B 4.7				
7	坏土師器	A [12.2]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	石英・雲母・スコリア 棕色 普通	P472 20% 覆土中 二次焼成
		B (3.8)				
8	坏土師器	A [13.7]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 棕色 良好	P473 20% 覆土中
		B (2.9)				
9	高坏土師器	B (8.2)	胴部片。胴部は円筒状で、下位でハの字状に大きく開く。	胴部外面縦位のへラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい棕色 普通	P474 20% 覆土中 二次焼成
		E (8.0)				
10	甕土師器	A [13.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい黄棕色 普通	P475 40% 覆土中
		B 12.2				
		C [4.8]				
11	甕土師器	A [15.2]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。器面光沢。	石英 にぶい赤褐色 普通	P476 40% 覆土中
		B (12.4)				
12	甕土師器	A [13.4]	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	石英・雲母 棕色 普通	P477 20% 覆土中
		B (9.0)				
13	甕土師器	A [10.7]	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい棕色 普通	P478 20% 覆土中
		B (9.0)				
14	甕引志器	A [11.8]	大井部から口縁部片。大井部は平底で体部から口縁部にかけて内彎して下降する。	口縁部。体部内・外面口口ロナア井部。体部上位にかけて回転へラ削り。	長石 灰オリーブ色 良好	P479 15% 覆土中
		B 2.6				
		C [7.2]				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
16	小	E	0.8	0.9	0.2	0.6	甕内 DP63 100%	PL171
17	管状土甕	(5.1)	4.3	1.3	(90.0)		甕土中 DP64 80%	PL170



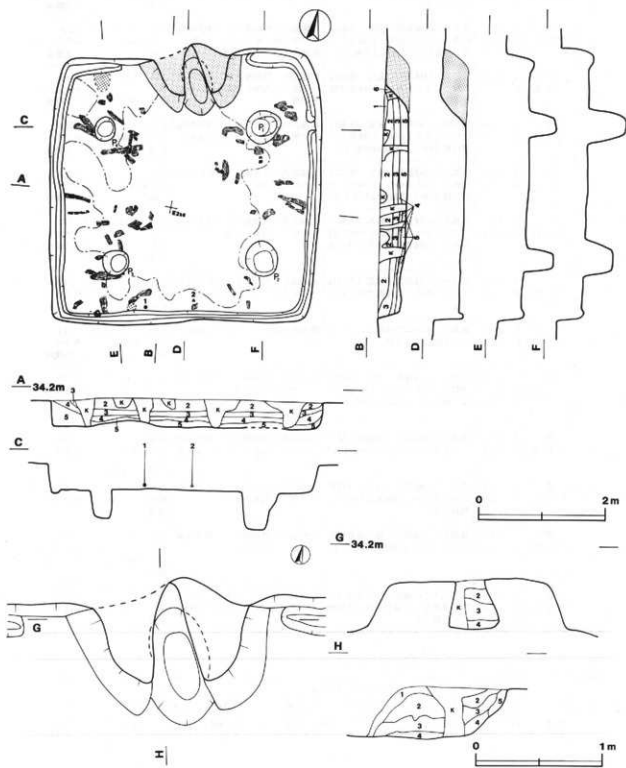
第153号住居跡 (第158図)

位置 調査区の中央部, E 2 a 8 区。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.28mの方形である。

主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は35~45cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。



第158図 第153号住居跡実測図

壁溝 ほぼ全周する。上幅12~25cm, 下幅4~11cm, 深さ2~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P4は、径33~57cmの円形、深さ43~51cmである。規模と配列から柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落し、両袖部は耕作による乱れを受けている。規模は、竈道部から焚き口部まで113cm, 両袖最大幅160cm, 壁外への掘り込みは20cmである。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 灰 褐色 ローム・粘土粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量, 焼土・ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量
- 5 しぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 5 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, 炭化材・ローム中・小ブロック微量
- 6 明褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片171点 (坏片31点, 甕片140点), 須恵器片9点 (坏片3点, 甕片6点), 鉄製品1点, 鉄滓24.6g, 含鉄滓97.5gが出土している。第159図1の土師器坏, 2の不明鉄製品が, 南壁際の覆土下層から出土している。1は逆位の状態で出土している。

所見 本跡は、覆土下層から床面にかけて焼土塊や炭化材がみられることから、焼失家屋と考えられる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀後半と考えられる。



第159図 第153号住居跡出土遺物実測図

#### 第153号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第159図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.5	丸底。体部は内壁して立ち上がり、 口縁部に生る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り、内面放射状のヘラ削き。	赤土・スコリア しぶい褐色 普通	P480 100% 覆土中 PL120 二次焼成

図版番号	器種	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm) 重量(g)		
2	不明鉄製品	(20.9)	0.8	0.8 (38.7)	覆土中	M52

第154号住居跡（第160図）

位置 濁交区の北西部，D2i7区。

重複関係 本跡は，第39・53号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.95m，短軸5.90mの方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は26~38cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅17~31cm，下幅6~13cm，深さ4~7cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット 5か所（P1~P5）。P1~P4は，長径35~53cm，短径32~44cmの楕円形，深さ54~67cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径25cmの円形，深さ12cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで102cm，両袖最大幅109cm，壁外への掘り込みは23cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を4cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 5 赤褐色 焼土粒子少量
- 6 赤褐色 粘土粒子多量
- 7 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量

覆土 5層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

土層解説

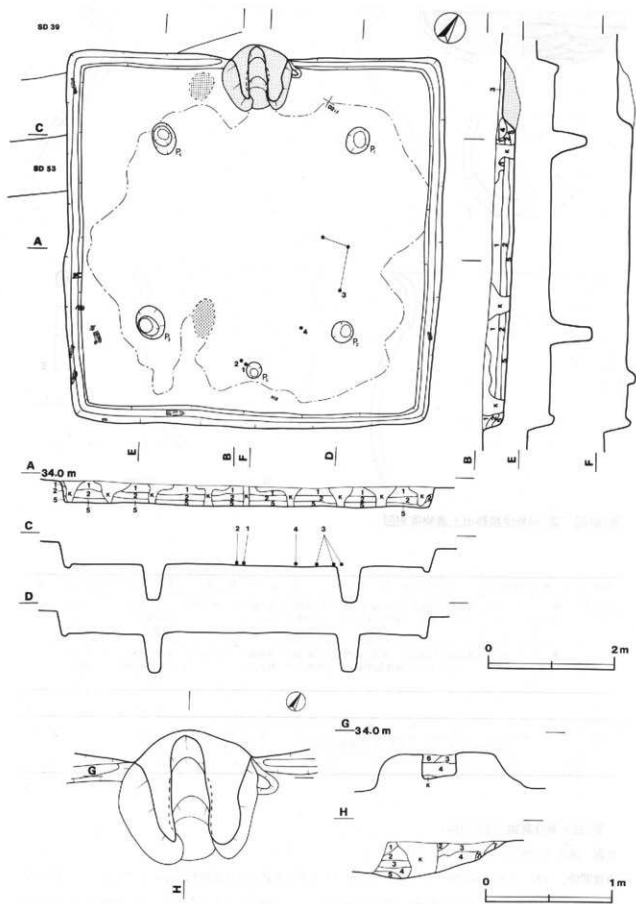
- 1 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 にぶい褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 にぶい褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 5 褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片266点（坏片26点，壺片240点），須恵器片4点（坏片1点，壺片3点），管玉1点，含鉄萍181.3gが出土している。覆土下層では，第161図1の土師器坏，4の土師器壺が中央部南東寄りから，3の土師器壺が中央部東寄りから出土している。床面では，2の土師器碗が中央部南東寄りから正位で出土している。その他，覆土中から5の土師器壺，6の管玉が出土している。

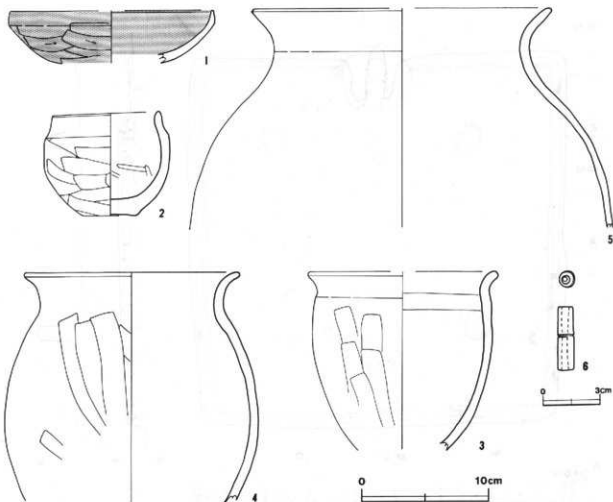
所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

第154号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	土師器 坏	A [15.1]	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツリ，内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 褐色 青透	P481 20% 覆土中 二次焼成
		B [4.2]				
2	土師器 碗	A 8.6	平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に横ナデ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツリ，内面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい赤褐色 青透	P482 100% 床面 二次焼成
		B 8.2				
		C 4.2				
3	土師器 壺	A [15.0]	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツリ，内面へツラナデ。器面光れ。	雲母 にぶい赤褐色 青透	P483 40% 覆土中
		B [14.0]				



第160图 第154号住居跡实测图



第161図 第154号住居跡出土遺物実測図

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 4	土師器	A 17.1 B (18.0)	体部から口縁部片。体部は内埋して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P484 20% 覆土中
5	土師器	A [23.5] B (17.3)	体部から口縁部片。体部は内埋して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。器面荒れ。	石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P485 20% 覆土中

図取番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
6	管玉	3.4	0.9	0.4	4.1	滑石	覆土中	Q47 100% PL173

### 第155A号住居跡 (第162図)

位置 調査区の西部、D 2 g 5 区。

重複関係 当初、1軒の住居跡として調査したが、床下からも新たに床面が検出されたことから、上位のものを第155A号住居跡、下位のものを第155B号住居跡とした。主柱穴のうち3か所は、すぐ外側にもそれぞれ柱穴が掘られていた。内側の柱穴内の覆土はロームブロックが多く、埋め戻されたと考えられることから、外側

のものを第155A号住居跡に伴う主柱穴、内側のものを第155B号住居跡に伴う主柱穴とした。また、第40号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.95m、短軸5.70mの方形である。

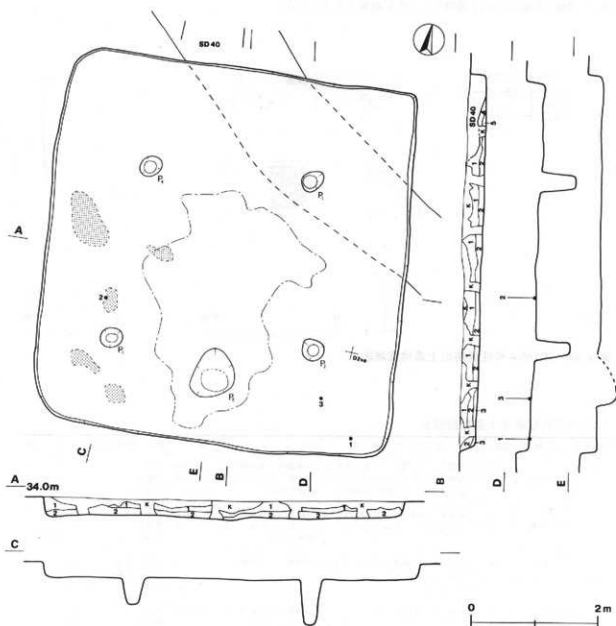
主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は18~25cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部から出入口施設に伴うピットにかけて踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径34~37cm、短径30~33cmの楕円形、深さ55~71cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径81cm、短径66cmの楕円形、深さ33cmである。位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。



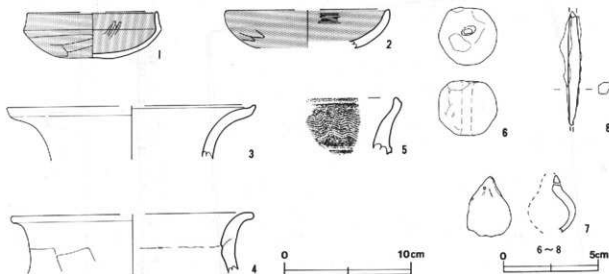
第162図 第155A号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量

**遺物** 土師器片216点(坏片36点, 甕片180点), 須恵器片4点(甕片4点), 土製品2点, 鉄製品1点, 鉄洋39.2g, 合鉄洋1.8gが出土している。第163図1の土師器坏が南東コーナー部付近, 2の土師器坏が中央部西寄り, 3の土師器甕が中央部南東寄りの床面から出土している。その他, 覆土中から4の土師器甕, 6の土玉, 7の土鈴, 8の釘が出土している。5は須恵器甕の口縁部片で, 外面に1本10条の櫛掻波状文が施されている。

**所見** 本跡は, 中央部やや南西寄りの覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることから, 焼失家屋と考えられる。竈は, 第40号溝によって掘り込まれた際に壊されたと考えられる。また, 下位に第155B号住居跡が確認されたことから, 本跡は第155B号住居跡の上部に貼床をし, 壁を四方に拡張して構築したものと考えられる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第163図 第155A号住居跡出土遺物実測図

第155A号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第163図 1	坏 土師器	A [10.4] B 3.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	雲母 黒褐色 普通	P486 30% 床面
2	坏 土師器	A [13.0] B (3.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	雲母 淡黄色 普通	P487 20% 床面 二次焼成
3	甕 土師器	A [19.6] B (4.2)	口縁部片。口縁部は外反し, 端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P488 5% 床面
4	土 師器	A [19.2] B (4.7)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位ヘラ削り。輪杭み面。	雲母・スコリア 黒褐色 普通	P489 5% 覆土中

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第153図 6	上 玉	2.9	3.1	0.5	27.5	覆土中	DP65 100% PL167
7	上 鉢	(3.2)	(2.4)	-	(3.6)	覆土中	DP66 20% PL171

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	釘	(6.0)	0.8	0.7	(7.9)	覆土中	M53

### 第155B号住居跡(第164図)

位置 調査区の西部、D2g5区。

重複関係 第155A号住居跡が本跡の上部に構築されているため、本跡が古い。また、第40号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.60m、短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は5~13cmで、外傾して立ち上がる。

床 平床で、竈前から出入り口施設に伴うピットにかけて踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径49~75cm、短径[38]~60cmの楕円形、深さ55~64mである。

規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は、長径81cm、短径64cmの楕円形、深さ29cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。第155A号住居跡の構築の際に竈が壊され、わずかに火床部と煙道部の立ち上がりが残存しているだけである。規模は、煙道部から焚き口部まで84cm、壁外への掘り込みは17cmである。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けてわずかに赤変している。煙道部の立ち上がりは明確でない。

#### 竈土層解説

- 1 暗 褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗 赤 褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗 赤 褐色 焼土粒子多量、粘土粒子少量
- 5 暗 褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子微量

覆土 5層からなるが、覆土が薄いため、堆積状況は明確でない。

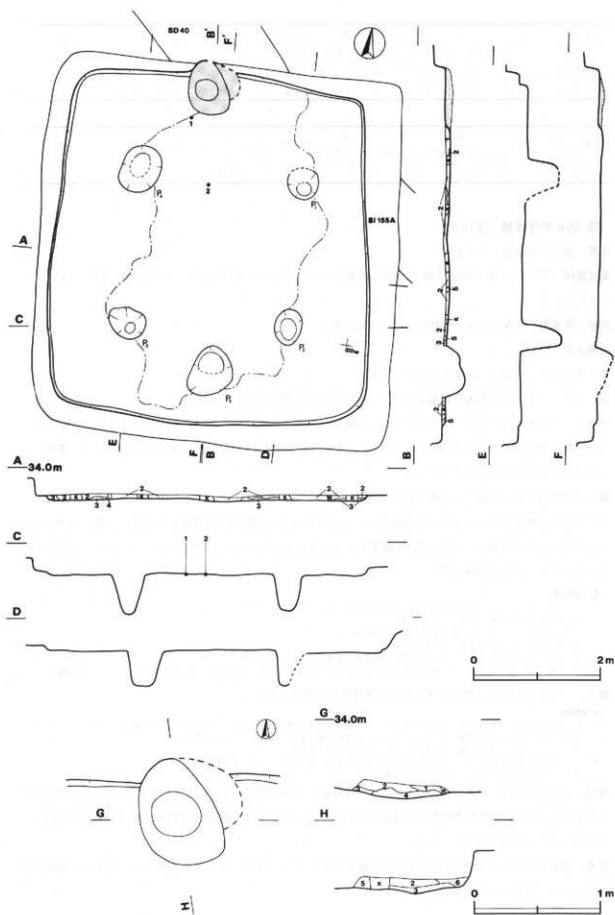
#### 土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 暗 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片64点(坏片13点、甕片51点)、須恵器片3点(甕片3点)が出土している。第165図1の土師器坏が竈付近、2の土師器坏が中央部の床面から出土している。3は須恵器壺の体部片で、外面縦位の平行叩き、内面同心円当て具痕が施されている。

所見 本跡を拡張したものが第155A号住居跡であることと、検出された出土遺物から、時期は6世紀後半のなかでも古い時期のものと推定される。





第164图 第155B号住居跡实测图



第165図 第155B号住居跡出土遺物実測図

第155B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第165図 1	坏 土 師 器	A [13.4] B (2.8)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面放射状のへう磨き。	雲母にふい橙色 普通	P 490 5% 床面 二次焼成
2	坏 土 師 器	A [12.8] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内軸する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り、内面へう磨き。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 灰褐色 普通	P 491 5% 床面

### 第156号住居跡 (第166・167図)

位置 調査区の北西部、D 2 g 8 区。

重複関係 本跡は、第39・53号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.97m、短軸5.66mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は45~65cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅20~39cm、下幅7~21cm、深さ8~13cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径41~52cmの円形、深さ42~50cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は径45cmの円形、深さ14cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。東袖部内から土師器薬片が検出され、袖部の補強材として使用されたと考えられる。規模は、煙道部から焼き口部まで141cm、両袖最大幅159cm、壁外への掘り込みは71cmである。袖の内壁と火床部は火熱を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がる。

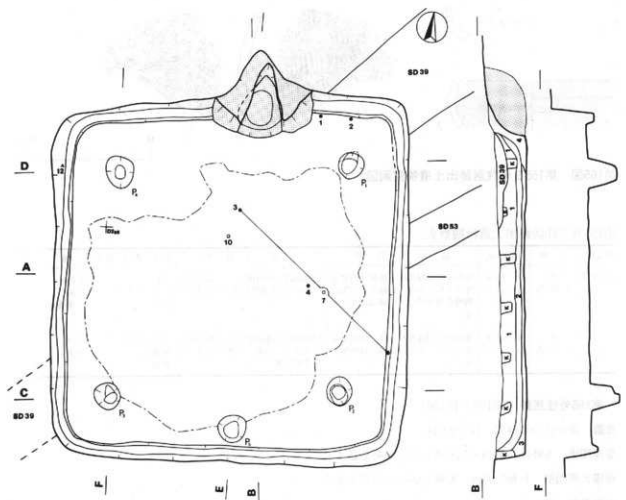
#### 甕土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、焼土中・小ブロック・炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

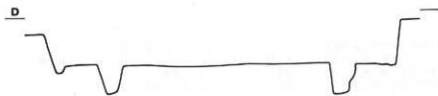
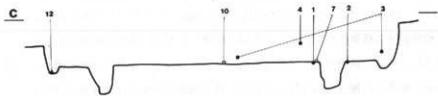
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土・粘土粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化・粘土粒子少量、炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量

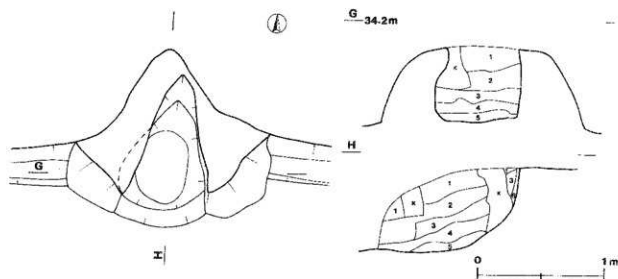


A 34.2m



0 2m

第166图 第156号住居跡实测图(1)



第167図 第156号住居跡実測図(2)

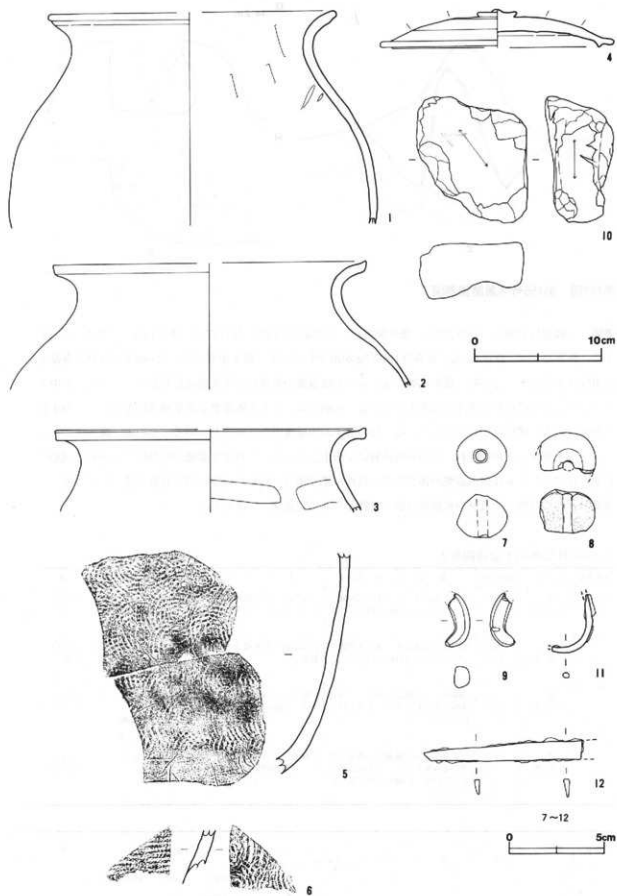
遺物 土師器片1188点(坏片225点, 甕片963点), 須恵器片114点(坏片87点, 甕片19点, 蓋片8点), 土製品3点, 鉄製品1点, 鉄滓45.2g, 含鉄滓1019.7gが出土している。覆土中層では, 第168図4の須恵器蓋が中央部東寄りから出土している。覆土下層では, 3の土師器甕が東端際と中央部北寄りから, 7の土玉が中央部東寄りから, 10の砥石が中央部から出土している。床面では, 1の土師器甕が東端袖部付近から, 2の土師器甕が北東コーナー部付近から出土している。12の刀子が西壁溝内から出土している。その他, 覆土中から8の土玉, 9の上製勾玉, 10の砥石, 11の不明鉄製品が出土している。5は須恵器甕の体部片で, 外面に同心円叩きが施されている。6は須恵器甕の体部片で, 外面に格子叩き, 内面に同心円当て具痕が施されている。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。

第156号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色割・焼成	備考
第168図 1	土師器 蓋	A 22.9 B (17.1)	体部から1縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 1縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母に多い黄棕色 普通	P492 15% 床面
2	土師器 甕	A 24.8 B (10.0)	体部から1縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 1縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母に多い黄棕色 普通	P493 10% 床面
3	土師器 蓋	A 24.6 B (6.6)	1縁部片。1縁部は外反し, 端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 内面ヘラナデ。	石英・雲母・スコリアに多い黄棕色 普通	P494 5% 覆土中
4	須恵器 蓋	A 18.6 B 3.1 F 3.1 G 0.5	つまみ部から1縁部片。擬宝珠状のつまみを有する。大井部は圓形をしている。口縁部内面に知いかけが付く。	口縁部, 大井部内・外面クロコナデ。大井部回転ヘラ開り。	長石・石英 灰黄色 良好	P495 30% 覆土中

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土	2.3	2.6	0.6	12.7	覆土中 DP67	100% PL167
8	土	2.3	(2.9)	0.5	(10.9)	覆土中 DP68	30%



第168图 第156号住居跡出土遺物実測図

採取番号	器 種	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第168図3	勾 玉	( 2.8)	0.8	1.1	-	( 3.5)	覆 土 中	D169 80% PL171

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
10	紙 石	10.0	8.8	5.3	522.8	砂 岩 床	崗 Q48 PL175	

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	不明鉄製品	( 3.1)		0.3	( 1.3)	覆 土 中	M54
12	刀 子	( 8.3)	1.0	0.3	( 5.1)	覆 土 中	M72 PL178

### 第157号住居跡 (第169・170図)

位置 調査区の中央部，E 2 a 0 区。

規模と平面形 長軸6.08m，短軸5.93mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は26～37cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁と南東コーナー部付近を除いて壁下を巡っている。上幅12～26cm，下幅4～13cm，深さ3～6cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット 6か所 (P1～P6)。P1～P4は，径35～45cmの円形，深さ72～97cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は径47cmの円形，深さ27cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径30cm，短径24cmの楕円形，深さ13cmであり，位置から梯子を支えるための補助柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで121cm，両袖最大幅117cm，壁外への掘り込みは24cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を3cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

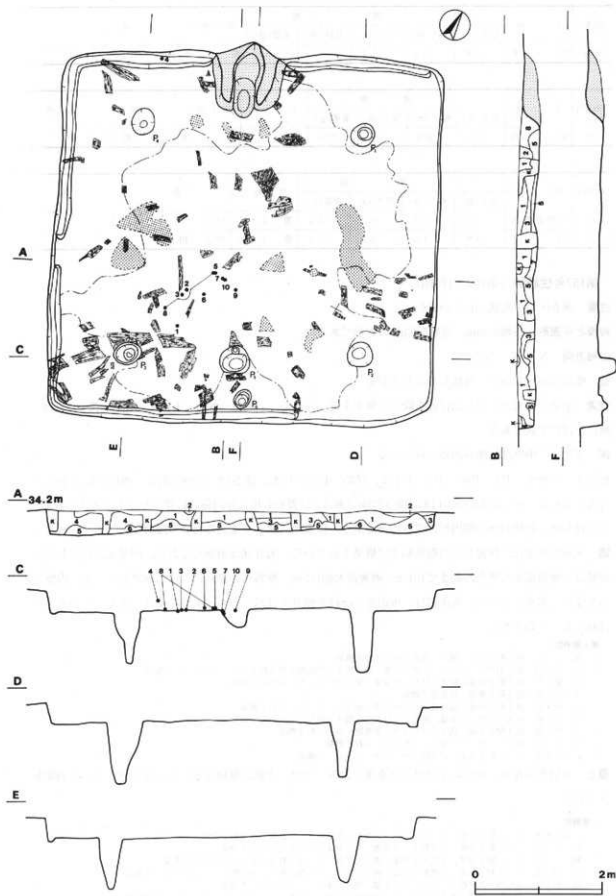
#### 竈土層解説

- 1 褐色 粘土粒子少量，焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子微量
- 5 赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 6 明褐色 焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 7 赤褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 8 明褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 9 におい褐色 ローム粒子少量，炭化物・ローム中・小ブロック微量

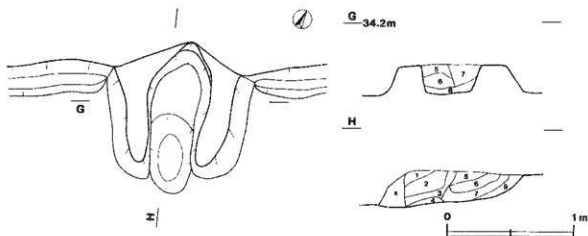
覆土 8層からなり，ローム小ブロックを多く含み，ブロック状の堆積を示していることから，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 におい褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 6 赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 炭化・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 8 明褐色 焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子微量



第169图 第157号住居跡实测图(1)



第170図 第157号住居跡実測図(2)

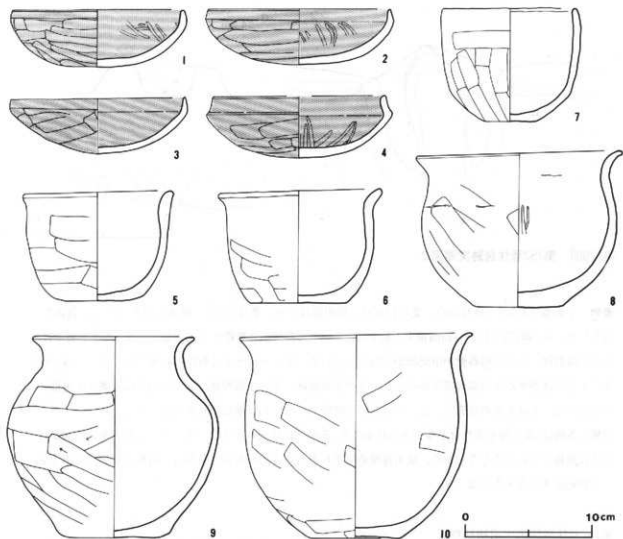
遺物 土師器片155点(坏片35点, 甕片120点), 須恵器片2点(甕片2点), 縄文土器片1点, 含鉄滓7.2gが出土している。第171・172・173図覆土と層では, 4の土師器坏が北岸際から出土している。覆土下層では, 5・6の土師器鉢, 8の土師器甕が中央部から出土している。5, 6はともに横位の状態出土している。床面では, 1の土師器坏が中央部南寄りから, 2, 3の土師器坏, 7の土師器鉢, 9, 10の土師器甕が中央部から出土している。1は正位の状態で, 2, 3は逆位の状態で, 9, 10は横位の状態出土している。

所見 本跡は, 焼上壤や炭化材が多くみられること, その上にローム小ブロック・ローム粒子を含む層がブロック状に堆積していることなどから, 焼失後埋め戻されたものと思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。

第157号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	坏 土師器	A 13.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内・外 面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア にふい赤褐色 普通	P496 100% 床面 PL121 二次焼成
		B 4.6				
2	坏 土師器	A 14.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内・外 面黒色処理。	石英・雲母・スコ リア 黒褐色 普通	P497 95% 床面 PL121 二次焼成
		B 4.4				
3	坏 土師器	A 13.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり, 口縁部は直立 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り, 内面ナデ。内・外面 黒色処理。	雲母・スコリア 黒褐色 普通	P498 95% 床面 PL121 二次焼成
		B 4.4				
4	坏 土師器	A 13.8	底部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり, 口縁部との 境に稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内・外 面黒色処理。	石英・雲母 黒褐色 普通	P499 75% 覆土中 PL121 二次焼成
		B 4.9				
5	鉢 土師器	A 11.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り, 内面ナデ。底部ヘラ削 り。	雲母・スコリア にふい赤褐色 普通	P500 95% 覆土中 PL121 二次焼成
		B 8.6				
		C 7.1				
6	鉢 土師器	A 13.0	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がり, 口縁部は外 反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り, 内面ナデ。底部ヘラ削 り。器面荒れ。	雲母 にふい赤褐色 普通	P501 70% 覆土中 PL121 二次焼成
		B 9.1				
		C 7.6				
7	鉢 土師器	A 10.6	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がり, 口縁部はわ ずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り, 内面ナデ。底部ヘラ削 り。	雲母 黒褐色 普通	P502 60% 床面 PL121 二次焼成
		B 8.9				
		C 4.0				





第171図 第157号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 8	壺 土師器	A 16.4	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内嚙して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。輪痕みぬ。	石英・雲母にふい黄褐色 普通	P505 80% 覆土中 PL121
		B 12.4				
		C 7.0				
9	壺 土師器	A 13.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内嚙して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。底部へラ削り。	長石・雲母・スコリアにふい褐色 普通	P504 95% 床面 PL121
		B 16.0				
		C 8.8				
10	壺 土師器	A 18.4	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内嚙して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。底部へラ削り。	石英・雲母にふい黄褐色 普通	P503 95% 床面 PL121
		B 18.3				
		C 7.0				

第158号住居跡（第172・173図）

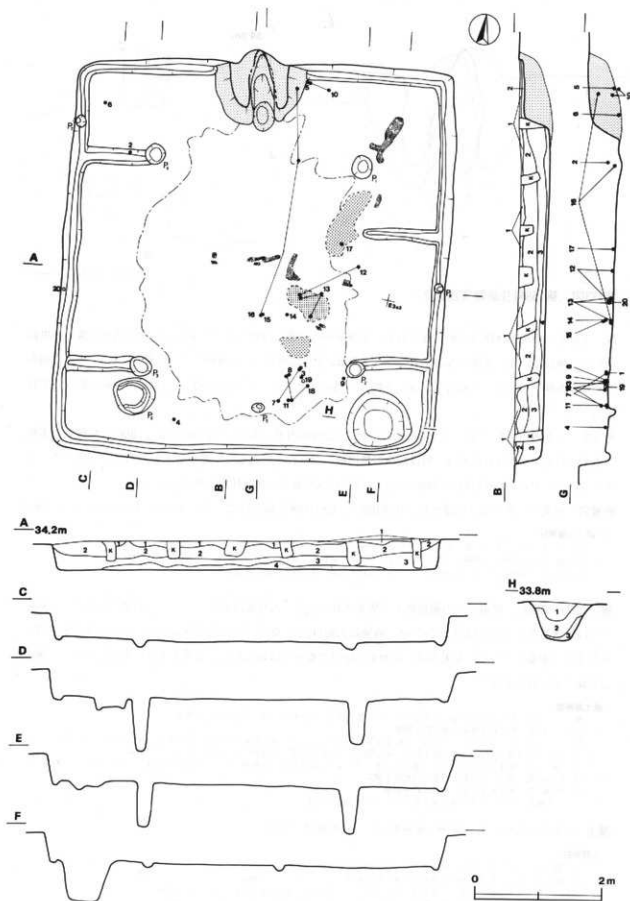
位置 調査区の中央部、D3j2区。

規模と平面形 長軸6.35m、短軸6.15mの方形である。

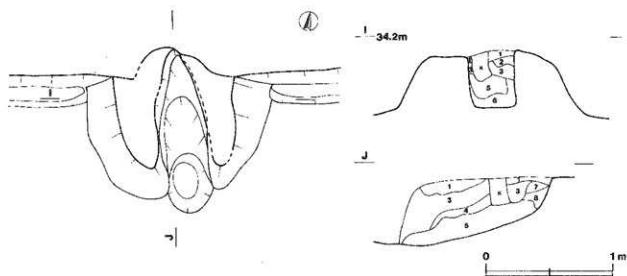
主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は40~53cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~29cm、下幅3~11cm、深さ3~7cmで、断面形はU字状である。



第172图 第158号住居跡実測图(1)



第173図 第158号住居跡実測図(2)

床 平坦で、中央部は踏み固められている。東壁下から2条、西壁下から2条のいわゆる間仕切溝が中央部に向かって伸びている。東壁からの2条のうち1条は、P2に向かって、西壁からの2条は、P3、P4に向かってそれぞれ伸びている。上幅17~24cm、下幅3~12cm、深さ6~8cm、長さ102~115cmで、断面形はU字状である。

ピット 8か所(P1~P8)。P1~P4は、径25~37cmの円形、深さ62~72cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径20cm、短径12cmの楕円形、深さ13cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6~P8は径13~38cmの円形、深さ15cmであり、補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設され、長径103cm、短径90cmの楕円形で、深さは66cm、断面形はU字状である。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 褐色 rome 粒子中量、炭化物・炭化粒子少量、rome 小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物・炭化粒子・rome 小ブロック・rome 粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・rome 小ブロック・rome 粒子少量、焼土粒子・炭化材微量

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで131cm、両袖最大幅147cm、壁外への掘り込みは23cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がる。

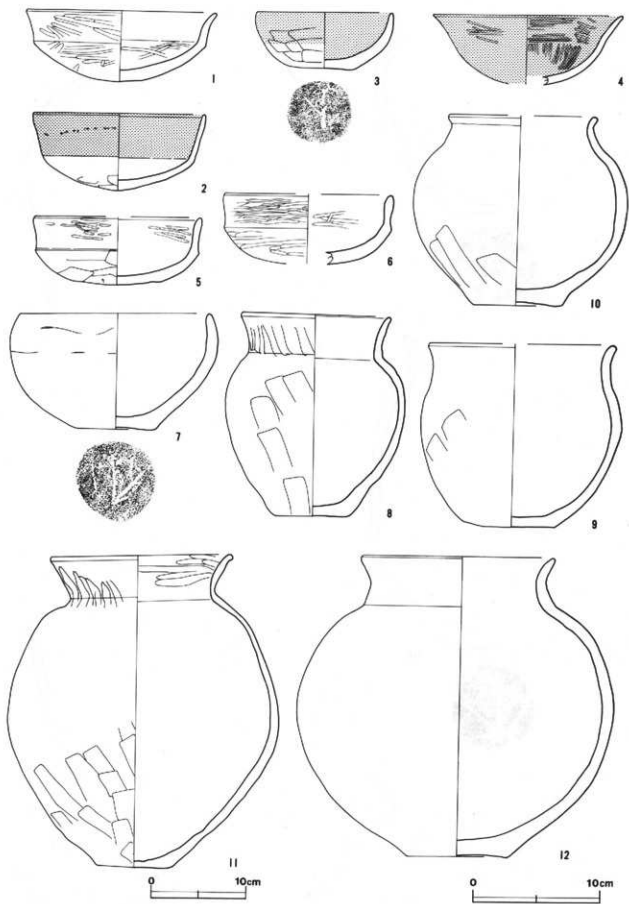
**竈土層解説**

- 1 褐色 rome 粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・rome 小ブロック微量
- 2 にぶい褐色 粘土粒子多量、焼土粒子微量
- 3 褐色 rome 小ブロック・rome 粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・rome 中ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・rome 粒子少量、炭化物・rome 小・小ブロック微量
- 5 赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土大・中・ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・粘土粒子少量、rome 小ブロック微量
- 6 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子少量、rome 粒子微量
- 8 にぶい赤褐色 rome 粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量

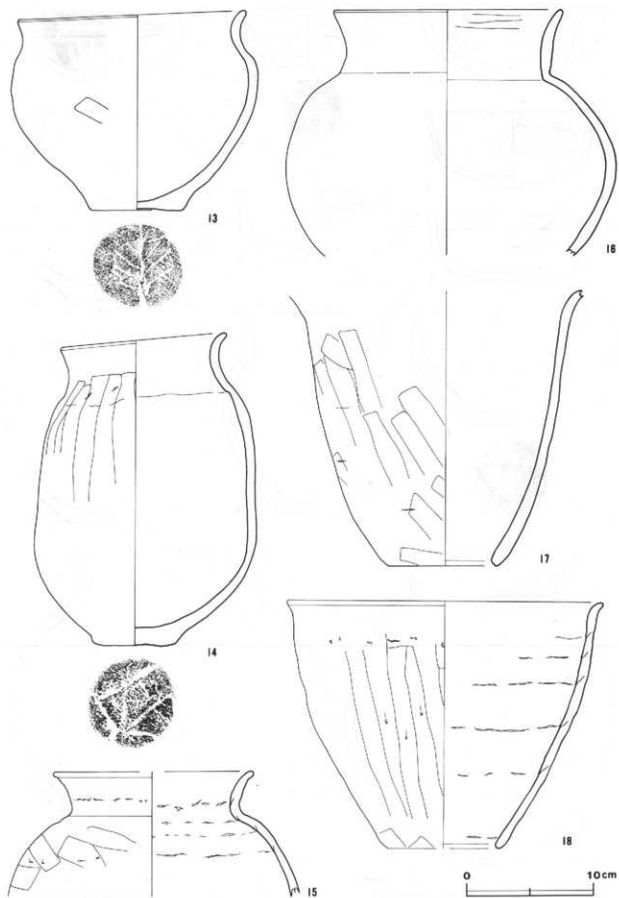
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 rome 粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 明褐色 rome 粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・rome 小ブロック微量
- 3 褐色 rome 粒子中量、炭化粒子・rome 小ブロック少量、焼土粒子・rome 中ブロック微量
- 4 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・rome 粒子中量、rome 小ブロック微量

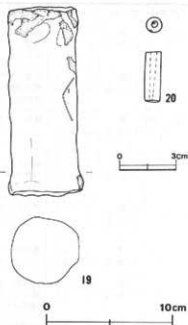


第174图 第158号住居跡出土遺物実測図(1)



第175图 第158住居跡出土遺物実測図(2)

遺物 土師器片277点(坏片37点, 甕片240点), 須恵器片6点(坏片3点, 甕片3点), 土製品1点, 管玉1点, 縄文土器片2点, 鉄滓28.8g, 含鉄滓8.3gが出土している。第174・175・176国覆土下層では, 1, 3の土師器坏, 8の土師器甕, 18の土師器瓶, 19の土製支脚が中央部南寄りから, 2の土師器坏が西壁付近から, 4の土師器坏, 11の土師器甕が南壁付近から, 5の土師器坏が竈東袖部付近から, 6の土師器坏が北西コーナー部付近から, 12, 13, 14, 15の土師器甕が中央部から, 9の土師器甕が中央部南東寄りから, 17の土師器瓶が中央部東寄りから, 20の管玉が西壁際から出土している。1, 3は斜位の状態で, 2は正位の状態で出土している。7の土師器鉢は, 中央部南寄りの覆土下層と南壁付近から出土した破片が接合している。10の土師器甕は, 覆土下層と北壁際の床面から出土した破片が接合している。16の土師器甕は, 竈付近の覆土上層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合している。



第176図 第158号住居跡出土遺物実測図(3)

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

#### 第158号住居跡出土遺物観察表

国庫番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第174国	1 土師器坏	A 15.1 B 5.7	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ, 外面ヘラ磨き, 体部内・外面ヘラ磨き。	石英・雲母にふい褐色普通	P506 100% 覆土中 PL121 二次焼成
2	土師器坏	A 13.8 B 6.2	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部との境にわずかに稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラ磨り後, ナデ, 内面ナデ, 内・外面赤彩。輪積み痕。	長石・石英・雲母にふい黄褐色普通	P507 100% 覆土中 PL121 二次焼成
3	土師器坏	A 11.0 B 4.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨り, 内面ナデ。底部ヘラ磨り。内・外面赤彩。底部本葉痕。	石英・雲母にふい橙褐色普通	P508 95% 覆土中 二次焼成
4	土師器坏	A 15.3 B (5.6)	底部, 体部, 口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部。体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。器面剥離。	石英赤褐色普通	P509 90% 覆土中 PL121 二次焼成
5	土師器坏	A 13.4 B 5.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨り後, ナデ, 内面ナデ。	雲母にふい橙褐色普通	P510 50% 覆土中 二次焼成
6	土師器坏	A [12.2] B (5.5)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨り後, 磨き, 内面ナデ。	石英・雲母にふい橙褐色普通	P511 40% 覆土中 二次焼成
7	土師器鉢	A 15.2 B 9.2 C 6.0	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部本葉痕。輪積み痕。	石英・雲母にふい赤褐色普通	P512 95% 覆土中 二次焼成
8	土師器甕	A 12.0 B 16.2 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後, 外面ヘラナデ。体部外面ヘラ磨り, 内面ナデ。	長石・雲母にふい赤褐色普通	P517 70% 覆土中 PL122
9	土師器甕	A [14.9] B 14.5 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母・スズコリにふい橙褐色普通	P519 70% 覆土中 PL122
10	土師器甕	A [11.9] B 15.0 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨り, 内面ナデ。	石英・雲母明赤褐色普通	P518 65% 覆土中 PL122 床面

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色高・焼成	備 考	
		A	B	C					
第174図	壺 土師器	A 19.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。			口縁部内・外面横ナデ。ヘラナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。底部へラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい棕色 普通	P513 50% 覆土中 PL122	
		B 33.3							長石・石英・雲母 にぶい棕色 普通
		C 8.2							
12	壺 土師器	A 15.8	体部。口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。			口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部へラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい棕色 普通	P514 80% 覆土中 PL122	
		B 24.0							
		C 7.9							
第175図	光 土師器	A 18.3	体部 短欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。			口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。底部木炭灰。	雲母 にぶい赤褐色 普通	P515 80% 覆土中 PL122	
		B 15.9							
		C 7.3							
14	壺 土師器	A 13.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出している。			口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。底部木炭灰。輪積み痕。	石英・雲母 褐色 普通	P516 70% 覆土中 PL122	
		B 24.9							
		C 6.4							
15	壺 土師器	A 15.8	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。			口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい棕色 普通	P521 20% 覆土中 PL122	
		B (9.7)							
16	壺 土師器	A 18.4	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。			口縁部外面横ナデ。内面へラナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P520 30% 覆土中	
		B (19.6)							
17	瓶 土師器	B (21.6)	口縁部一部欠損。無底式。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。			口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。器面乾れ。輪積み痕。	石英 褐色 普通	P522 95% 覆土中 PL122	
		C 8.5							
18	瓶 土師器	A 25.1	底部から口縁部片。無底式。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。			口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P523 65% 覆土中 PL122	
		B 19.6							
		C 8.9							

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第174図	壺	13.2	5.9	-	611.7	覆土中 DP70	100% PL172

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
20	管	2.7	0.8	0.3	3.6	砕土	覆土中 Q49	100% PL173

### 第159号住居跡 (第177図)

位置 調査区の中央部、D3 j4区。

規模と平面形 長軸 [6.45]m、短軸 [6.05]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-11°-W]

壁 上面は削平され、窓両側の壁を確認したのみである。壁高は5cmで緩やかに立ち上がる。

床 平坦で、竈前から主柱穴P3にかけて踏み固められている。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P4は、径23~30cmの円形、深さ24~48cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。大部分は削平されており、袖部の遺存状態はよくない。規模は、煙道部から焚き口部まで115cm、向袖最大幅145cm、壁外への掘り込みは48cmである。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒少量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒中量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量
- 3 にぶい赤褐色 粘土粒少量、焼土・炭化粒子微量

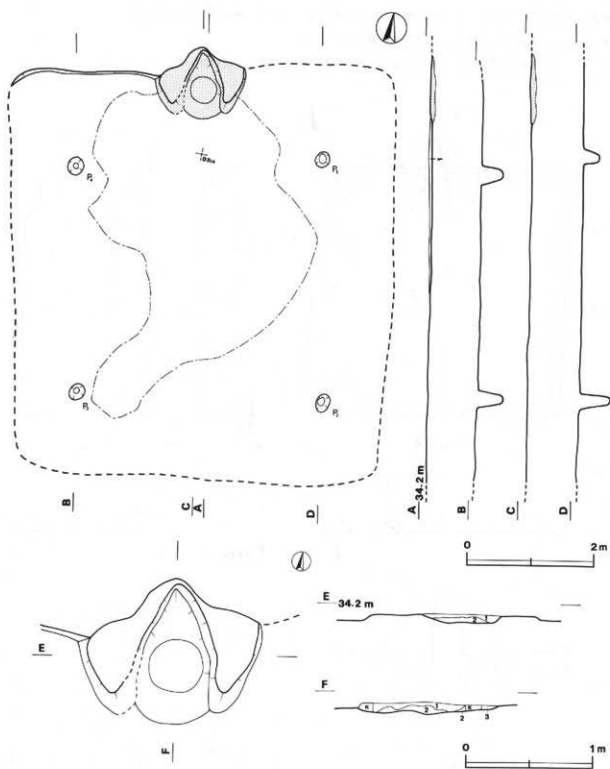
覆土 単一層であり、覆土が薄いため、地積状況は明確でない。

土層解説

1 層 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片4点(甕片4点)が出土しているのみで, 図示できるものはない。

所見 出土遺物が少なく遺構の遺存状態もよくないため, 時期不明である。



第177図 第159住居跡実測図



第160号住居跡 (第178図)

位置 調査区の中央部, D 3 g 2 区。

規模と平面形 長軸4.05m, 短軸3.95m の方形である。

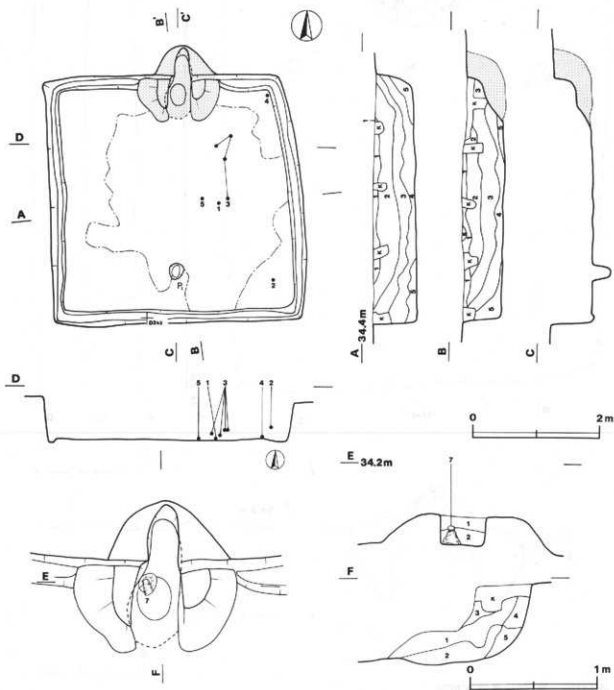
主軸方向 N - 3° - W

壁 壁高は60~65cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅14~25cm, 下幅3~13cm, 深さ4~6cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 竈前から南壁下にかけて踏み固められている。

ピット P1 は径24cmの円形, 深さ28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第178図 第160号住居跡実測図

■ 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両軸部の上部は削平されており、遺存状態はよくない。規模は、煙道部から突き11部まで118cm、内輪最大幅131cm、壁外への掘り込みは18cmである。火床部は、床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けても変質している。火床部奥から、上部が折れた土製支脚が横位で出土している。煙道部は外傾して立ち上がる。

■ 覆土層構成

- 1 灰 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 粘土粒子多量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土・炭化粒子微量

■ 覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

■ 土層解説

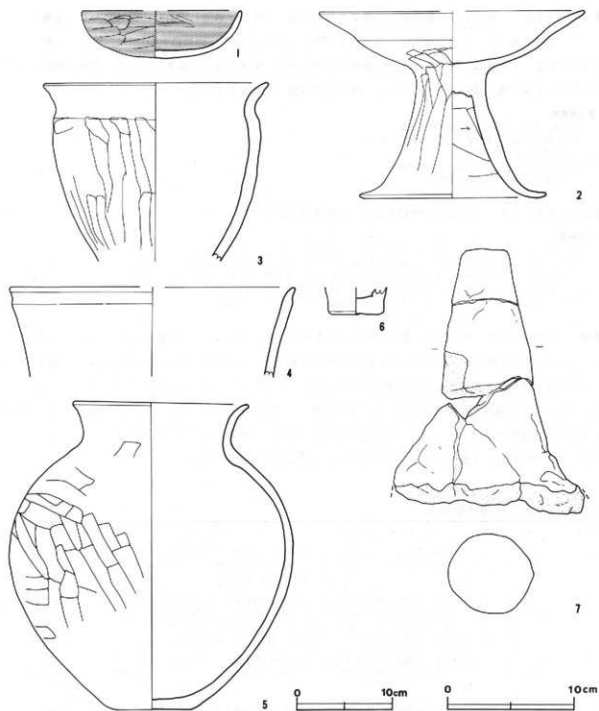
- 1 明 褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 明 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 5 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量

■ 遺物 土師器片141点（坏片21点、甕片120点）、須恵器片1点（蓋片1点）、土製品1点、含鉄滓116.1gが出土している。覆土下層では、第179号2の土師器高坏が南東コーナー部付近から、5の土師器甕が中央部から、3の土師器甕が中央部北東寄りと中央部東寄りから出土している。2、5はともに逆位の状態で出土している。床面では、1の土師器坏が中央部から、4の土師器甕が北東コーナー部から出土している。甕内では、7の土製支脚が火床部奥から出土している。その他、覆土中から6の土師器ミニチュア土器が出土している。

■ 所見 本跡の時期は、造構の形態及び出土遺物から6世紀後半と考えられる。

第160号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第179号 1	土師器 坏	A 119.6 B 3.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面へう巻き。内・外面黒色処理。器面荒れ。	長石・石英・雲母を含む褐色普通	P521 床面 PL123
2	高土師器 坏	A 21.1 B 14.9 D 14.9 E 10.0	脚部から坏部片。脚部は下位でハの字状に大きく開く。坏部は中位に鋭い稜を持つ。体部は緩やかに内傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へう割り、内面ナデ。脚部外面縦位のへう割り。内面へう割り。胴部内・外面横ナデ。輪溝みぞ。	石英・雲母にふくむ褐色普通	P525 覆土中 二次成成 PL123
3	土師器 甕	A 18.0 B (14.2)	体部から口縁部片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	石英・スコリアにふくむ褐色普通	P527 覆土中 PL123
4	土師器 甕	A 22.6 B (7.1)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。器面荒れ。	長石・雲母・スコリアを含む褐色不良	P528 床面
5	土師器 甕	A 18.7 B 32.8 C 8.8	体部、口縁部 部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにふくむ褐色普通	P526 覆土中 PL123
6	ミニチュア土師器 甕	B (2.2) C (4.4)	底部から体部片。平底。体部は外傾気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部へう割り。	長石・雲母・スコリアにふくむ褐色普通	P529 覆土中



第179図 第160号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
7	支脚	(21.1)	(15.1)	-	(984.9)	竈内	DP71 65%

第161A号住居跡 (第180・181図)

位置 調査区の北部, D3 d2区。

重複関係 当初, 1軒の住居跡として調査したが, 床下からも床面と壁溝が検出されたことから, 上位のもの

を第161A号住居跡、下位のものを第161B号住居跡とした。4か所の主柱穴は、すぐ外側にもそれぞれ柱穴が掘られていた。内側の柱穴内の覆土はロームブロックが多く、埋め戻されたと考えられることから、外側のものを第161A号住居跡に伴う主柱穴、内側のものを第161B号住居跡に伴う主柱穴とした。第161A号住居跡の竈、壁溝は、第161B号住居跡の竈、壁溝よりも内側に位置する。このことから、第161A号住居跡が、第161B号住居跡を掘り込んでいると考えられる。また、本跡は、第38・39・53号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.81m、短軸7.35mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は37~63cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅14~29cm、下幅4~12cm、深さ3~12cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、北西コーナー部と壁下周辺を除いて踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径53~73cm、短径38~[60]cmの楕円形、深さ73~104cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径64cm、短径52cmの楕円形、深さ40cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。両袖部は、耕作により攪乱を受け一部壊されている。規模は、煙道部から焚き口部まで108cm、両袖最大幅166cm、壁外への掘り込みは14cmである。火床部は、床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 明赤褐色 焼土粒子少量、焼土中・小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム大・中ブロック微量

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

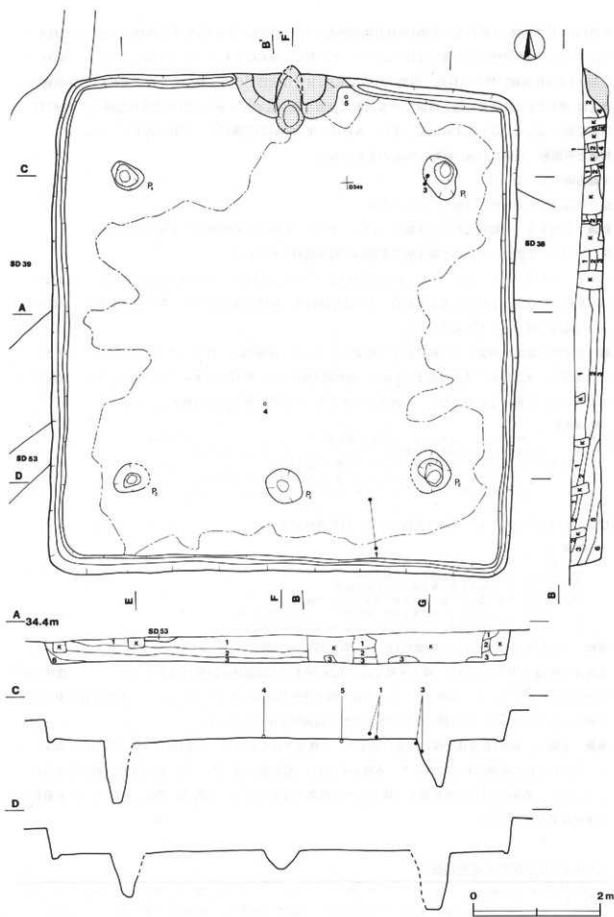
- 1 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 に近い赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片136点(坏片16点、莖片140点)、須恵器片9点(坏片3点、莖片1点、葉片5点)、土製品2点、含鉄滓206.2gが出土している。覆土下層では、第182図1の上師器坏が南壁付近から正位で、4の管状土樋が中央部から直土している。床面では、5の土製支脚が北壁付近から出土している。3の上師器莖はP1の覆土上層から出土している。その他、覆土中から2の上師器坏が出土している。

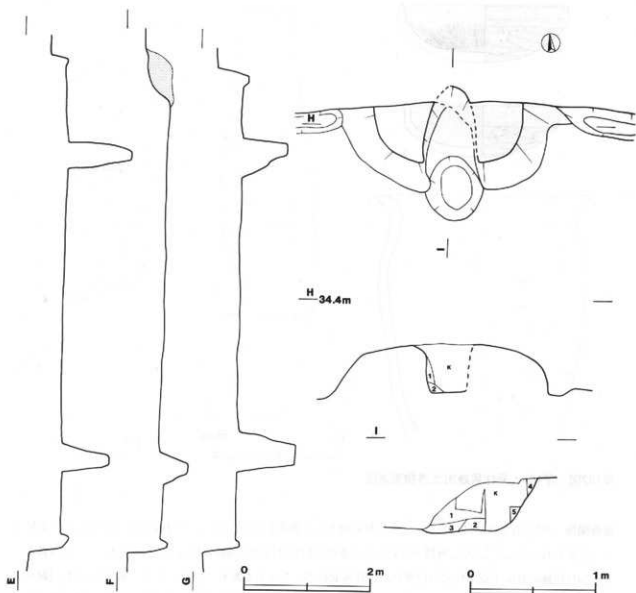
所見 本跡は、第161B号住居跡の上部に貼床をして構築されていること、第161B号住居跡の柱穴のすぐ外側にそれぞれ主柱穴が掘られていること、本跡が第161B号住居跡の東、西、南、北の四方の壁を掘り込んでいることから、第161B号住居を拡張して構築した住居跡と考えられる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

#### 第161A号住居跡出土遺物観察表

探取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第182図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。腰部は内傾して立ち上がり、口縁部は設定する。	口縁部内・外面磁ナテ。腰部外面へラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	石英・雲母にふい褐色普通	P531 覆土中 二次焼成



第180图 第161 A号住居跡实测图(1)



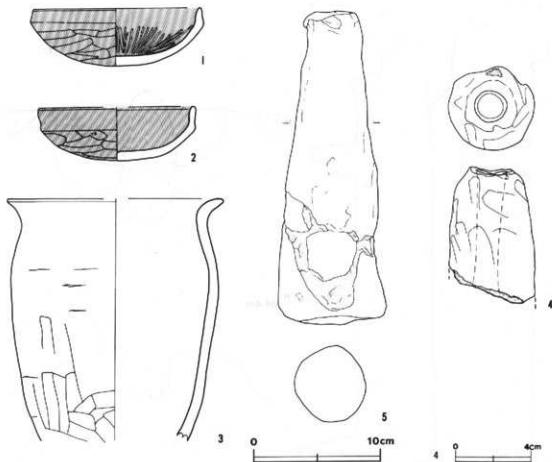
第181図 第161A号住居跡実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 2	坏 土器	A [ 7.6]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へテ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・スコリアにふい・褐色普通	P532 40% 覆土中 PL123 二次焼成
		B 4.3				
3	壺 土器	A [17.2]	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へテ削り。内面ナデ。	雲母・スコリアにふい・褐色普通	P530 45% ピット内PL123
		B (19.4)				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	管状土鉢	(7.3)	(4.6)	1.4	(108.5)	覆土中 DP72	50% PL170
5	支脚	25.0	8.6	-	(1226.1)	床面 DP73	70%

第161B・161C号住居跡 (第183図)

位置 調査区の北部、D3d2区。



第182図 第161A号住居跡出土遺物実測図

**重複関係** 第161B号住居跡は当初、1軒の住居跡として調査したが、4か所の主柱穴のすぐ内側にもそれぞれ柱穴が掘られていることから、外側の柱穴のものを第161B号住居跡、内側の柱穴のものを第161C号住居跡とした。両住居跡の対応する主柱穴の位置は、ほぼ南北に25~75cmしか離れていないこと、第161C号住居跡の竈の痕跡、踏み固められた床面などが検出されないことから、第161B号住居跡は、第161C号住居跡の建て替えの可能性がある。また、両住居跡とも、第161A号住居跡、第37・38・39・53号溝によって掘り込まれている。

**規模と平面形** 第161B号住居跡は、長軸7.05m、短軸6.54mの方形である。第161C号住居跡は、第161C号住居跡の主柱穴が第161B号住居跡の主柱穴より内側であるため、少し小規模であった可能性がある。

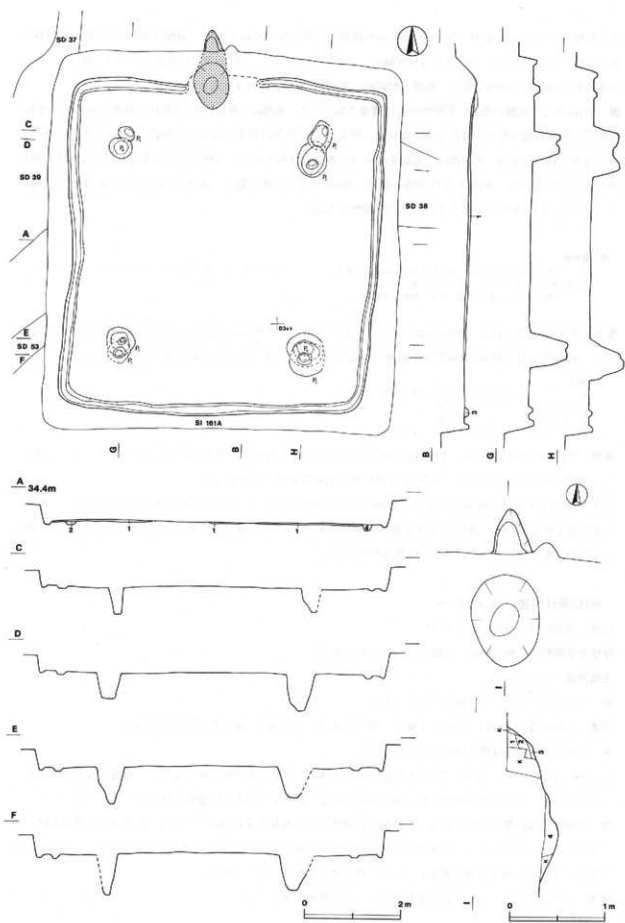
**主軸方向** 第161B号住居跡はN-4°-Eである。第161C号住居跡の主軸方向は厳密には不明であるが、主柱穴の位置から第161B号住居跡とほぼ同じである可能性がある。

**壁** 第161B・161C号住居跡ともに、壁高と立ち上がりは第161A号住居跡に上部を掘り込まれているため、確認されていない。

**壁溝** 第161B号住居跡の壁溝は、全周する。上幅15~27cm、下幅8~16cm、深さ5~13cmで、断面形はU字状である。第161C号住居跡は確認されていない。

**床** 第161B号住居跡の床は、第161A号住居跡の床下2~3cmのところから確認され、平坦である。第161C号住居跡の床面は、第161B号住居跡の床面下位から確認されなかったため、第161B号住居跡とほぼ同じ高さの可能性がある。

**ピット** 覆土の状況と位置からピットの所属を判断した。第161B号住居跡は、4か所(P1~P4)。P1~P4



第183图 第161B·161C号住居跡実測図



は、長径35～(77)cm、短径(32)～(69)cmの楕円形、深さ50～85cmである。規模と配列から第161B号住居跡の主柱穴と考えられる。第161C号住居跡は、4か所(P5～P8)。P5～P8は長径48～78cm、短径41～70cmの楕円形、深さ55～80cmである。規模と配列から第161C号住居跡の主柱穴と考えられる。

**竈** 第161B号住居跡の竈は、北壁中央部に構築されている。袖部は、第161A号住居跡の構築の際に削平され、火床部と壁外の部分だけが残存する。規模は、煙道部から焚き口部まで161cm、両袖最大幅は不明、壁外への掘り込みは45cmである。火床部は、床面を17cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がる。第161C号住居跡の竈は、第161B号住居跡の竈が、第161C号住居跡の段階から使用されていたか、同位置で造り替えが行われた可能性がある。

#### 土層解説

- 1 にぶい赤褐色 熟土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 4 暗赤褐色 熟土粒子多量、粘土粒子中量、焼土小ブロック
- 2 暗赤褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量 微量
- 3 にぶい赤褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量

**覆土** 第161B号住居跡は4層からなり、ローム中・小ブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。第161C号住居跡は第161B号住居跡の床面と同じ高さと考えられるため、覆土は存在しない。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

**遺物** 第161B号住居跡から、土師器片350点(坏片56点、甕片294点)、須恵器片21点(坏片9点、甕片12点)、含鉄洋258.2gが出土している。第161C号住居跡の遺物は検出されなかった。

**所見** 第161B号住居を拡張したものが第161A号住居跡であることから、第161B号住居跡の時期は、6世紀後葉以前と推定される。第161C号住居跡の時期は、第161B号住居跡に建て替えられていることから、6世紀後葉以前と推定される以外に明確な時期は不明である。

### 第162号住居跡(第184図)

**位置** 調査区の北西部、D2b0区。

**規模と平面形** 長軸7.78m、短軸7.70mの方形である。

**主軸方向** N-15°-W

**壁** 壁高は25～55cmで、外傾して立ち上がる。

**壁溝** 全周する。上幅13～25cm、下幅3～13cm、深さ4～7cmで、断面形はU字状である。

**床** 平坦で、中央部は踏み固められている。

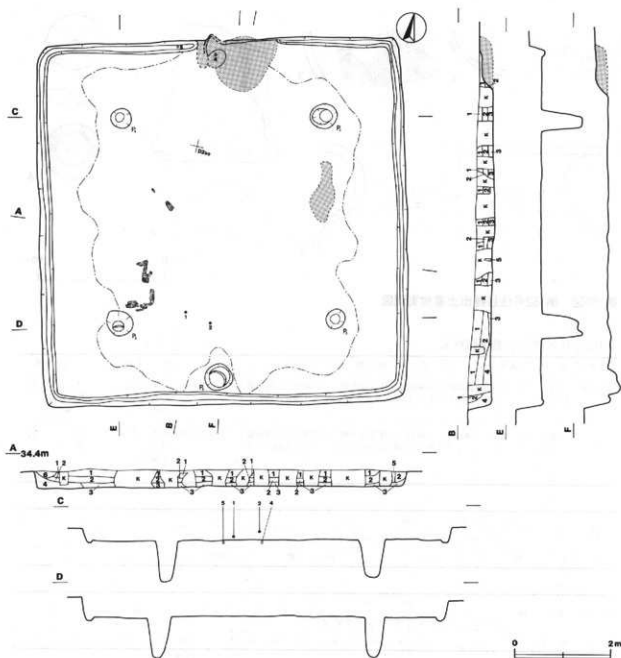
**ピット** 5か所(P1～P5)。P1～P4は、径40～58cmの円形、深さ80～86cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径56cmの円形、深さ24cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**竈** 北壁中央部に構築されている。両袖部は、耕作により攪乱を受け残存していない。火床部と煙道部の一部が残存しているのみである。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。土製支脚が、火床部の中央部奥に置かれている。煙道部は緩やかに立ち上がる。

**覆土** 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐色 焼土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化物中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒7微量

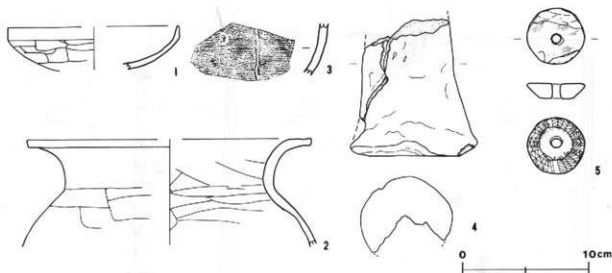


第184図 第162号住居跡実測図

- |   |    |  |
|---|----|--|
| 4 | 褐色 | ローム粒子少量・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量           |
| 5 | 褐色 | 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 6 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・ローム大・中ブロック微量       |

**遺物** 土師器片217点（坏片47点，高坏片2点，甕片168点），須恵器片11点（坏片9点，壺片2点），土製品1点，石製品1点，弥生土器片3点が出土している。覆土上層では，第185図2の土師器甕が中央部南寄りから出土している。覆土下層では，1の土師器坏が中央部南寄りから出土している。床面では，5の石製紡錘車が北壁際から出土している。竈内では，4の土製支脚が覆土下層から出土している。3は須恵器提瓶の体部片で，カキ目調整が施されている。自然軸。

**所見** 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第185図 第162号住居跡出土遺物実測図

第162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 1	坏土 部器	A [13.6] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ張り、内面ナデ。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P533 30% 覆土中 二次焼成
2	甕 土部器	A [22.6] B (8.5)	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面へウナデ。	石英・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P534 10% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	支脚	(11.0)	10.1	-	(494.0)	甕内 DP74	50%

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	紡錘車	4.6	1.3	0.8	36.8	粘板岩床面	Q51 90%	

### 第163号住居跡 (第186図)

位置 調査区の北西部, C 3 j3 区。

重複関係 本跡は、第37号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.56m, 短軸3.52mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

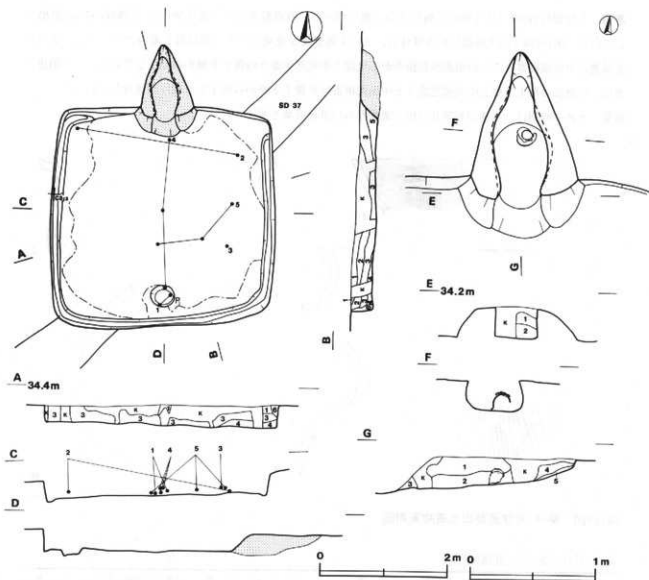
壁 壁高27~32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下を除いて巡っている。上幅12~20cm, 下幅4~10cm, 深さ3~5cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、壁下を除いてほぼ全体に踏み固められている。

ピット P1は長径37cm, 短径34cmの楕円形, 深さ11cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

甕 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両輪部が残存している。



第186図 第163号住居跡実測図

規模は、煙道部から焚き口部まで146cm，両袖最大幅101cm，壁外への掘り込みは99cmである。火床部は，床面を4cmほど掘りくはめており，火熱を受けて赤変している。土師器小形甕と須恵器高台付杯を逆位で重ねたものが支脚として転用され，火床部奥に置かれている。煙道部は緩やかに立ち上がる。

**電土層解説**

- 1 褐色 粘土粒子少量，焼土・ローム粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子少量，焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量，焼土・ローム粒子微量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量
- 5 橙褐色 ローム粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

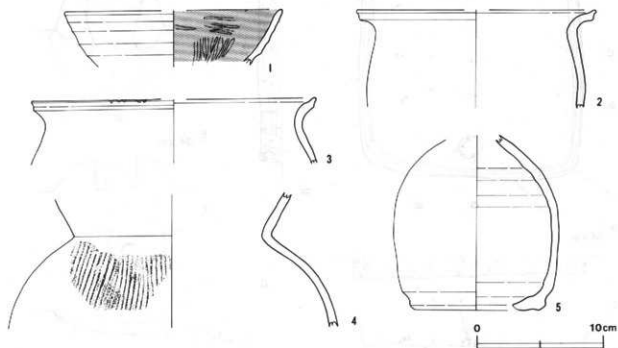
**覆土** 6層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 粘土粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 6 明褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片213点(坏片60点, 碗片3点, 甕片150点), 須恵器片50点(甕片50点), 含鉄滓897.9gが出土している。第187図1の土師器坏が南壁付近, 2の土師器甕が北東コーナー部付近と北西コーナー部, 3の須恵器甕が中央部東寄り, 5の須恵器長頸壺が中央部と中央部東寄りの覆土下層から出土している。4の須恵器甕は, 中央部の覆土上層と中央部北寄りと中央部南寄りの覆土下層から出土した破片が接合している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第187図 第163号住居跡出土遺物実測図

第163号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第187図 1	坏 土師器	A [17.4] B (4.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部, 体部外面ロクロナデ, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母 橙褐色 普通	P535 10% 覆土中 二次焼成
2	甕 土師器	A [18.9] B (7.7)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 橙褐色 普通	P536 5% 覆土中
3	甕 須恵器	A [22.8] B (5.2)	口縁部片。口縁部は外反し, 端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P537 5% 覆土中 二次焼成
4	甕 須恵器	B (10.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き, 内面ナデ。	長石・石英 灰黄色 良好	P646 30% 覆土中 二次焼成
5	長頸 須恵器	B (13.8) C 10.9	底部から体部片。体部は内彎する。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ磨り。	長石・雲母 灰色 良好	P538 30% 覆土中

### 第164号住居跡 (第188区)

位置 調査区の北部、C3h3区。

重複関係 本跡は、第165号住居跡・第37号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.94m、短軸3.79mの方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は30~42cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナー部の壁下を除いて巡っている。上幅15~29cm、下幅7~14cm、深さ7~17cmで、断面形はU字状である。

床 平直で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1は長径81cm、短径46cmの楕円形、深さ63cm、P2~P4は、径41~65cmの円形、深さ60~68cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径82cm、短径67cmの楕円形、深さ38cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から狭き口部まで119cm、両袖最大幅156cm、壁外への掘り込みは22cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を4cmほど掘りくはめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 灰 褐色 焼土粒少量
- 2 赤 褐色 焼土粒子多量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒少量
- 4 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量、新土粒少量
- 5 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

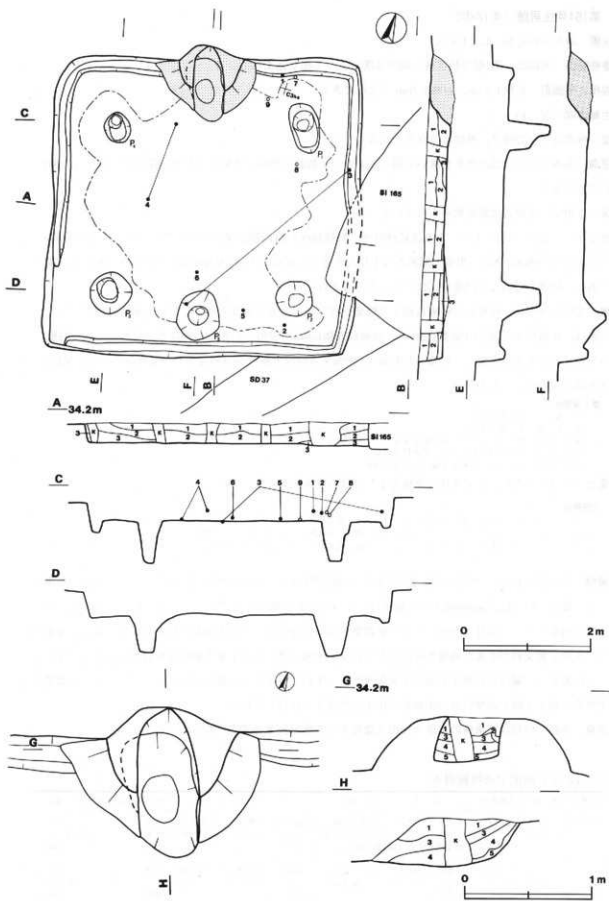
- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム大ブロック微量

遺物 土師器片416点(坏片38点、甕片378点)、須恵器片13点(坏片11点、甕片2点)、土製品3点が出土している。覆土上層では、第189区1の土師器坏、7の土玉が北壁際から出土している。覆土下層では、2の土師器坏が南東コーナー部付近から、5の土師器甕が南壁付近から、6の土師器子掘土器が中央部南寄りから斜位で、8の上製支脚が中央部東側から出土している。床面では、9の上製支脚が北壁付近から出土している。4の土師器甕は、竈付近の覆土上層と中央部西寄りの床面から出土した破片が接合している。3の土師器甕は、東壁際の覆土上層と南壁付近の床面から出土した破片が接合している。

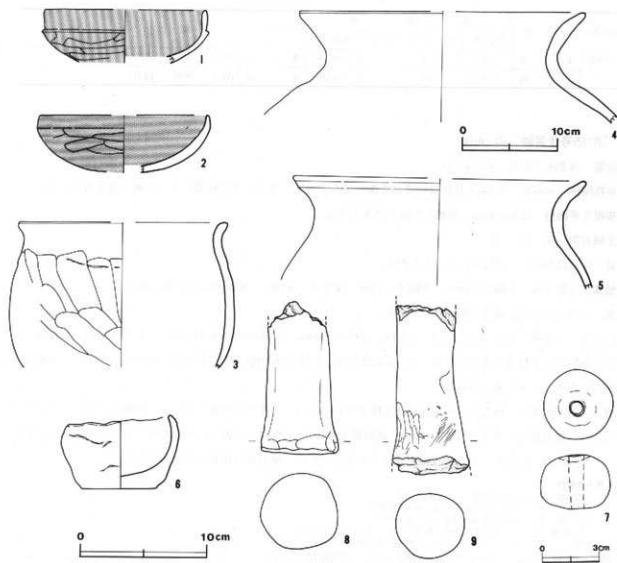
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後半と考えられる。

第164号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第189区 1	坏 土師器	A 12.6,	体部から11線部片。体部は内傾して立ち上がり、11線部との境に明確な線を持つ。口縁部は直立する。	11線部内・外面横ナデ。体部外面へタ張り、内面ナデ。内・外面着色処理。	石英・雲母 黒褐色 普通	P529 甕土中 二次焼成
		B (4.2)				
2	坏 土師器	A 13.41,	底部から11線部片。平底。体部は内傾して立ち上がり、11線部は短く直立する。	11線部内・外面横ナデ。体部外面へタ張り、内面ナデ。内・外面着色処理。	石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P540 甕土中 二次焼成
		B (4.5)				



第188图 第164号住居跡実測図



第189図 第164号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 3	土器	A [16.6]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつளிり、内面ナデ。輪積み痕。	長石・石英・雲母 棕色 普通	P543 15% 覆土中・床面
		B (11.5)				
4	土器	A [30.0]	体部から口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。器面剝離。	石英・雲母 赤褐色 普通	P541 10% 覆土中・床面
		B (11.6)				
5	土器	A [23.2]	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい棕色 普通	P542 5% 覆土中
		B (8.4)				
6	手捏土器	A 8.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部、体部内・外面ナデ。底部へつளிり。輪積み痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P544 90% 覆土中 PL123
		B 5.9				
		C 6.0				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土玉	2.9	3.8	0.8	37.6	覆土中 DP75 100% PL167	



図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第191図	文 脚	(12.1)	(6.1)	-	(407.8)	覆土中	DP76	80%	PL173
9	支 脚	(13.4)	6.1	-	(414.0)	床 面	DP77	80%	PL173

### 第165号住居跡 (第190図)

位置 調査区の北部, C 3 h 4区。

重複関係 本跡が, 第164号住居跡の東部を掘り込んでいる。また, 第37号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.84m, 短軸4.70mの方形である。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は45cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅13~28cm, 下幅6~13cm, 深さ5~8cmで, 断面形はJ字状である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径56~80cm, 短径43~54cmの楕円形, 深さ65~82cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径44cm, 短径32cmの楕円形, 深さ32cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで104cm, 両袖最大幅138cm, 壁外への掘り込みは32cmである。火床部は, 床面を3cmほど掘りくはめており, 火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム・焼土粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 灰褐色 焼土粒子中量, 炭化・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

#### 土層解説

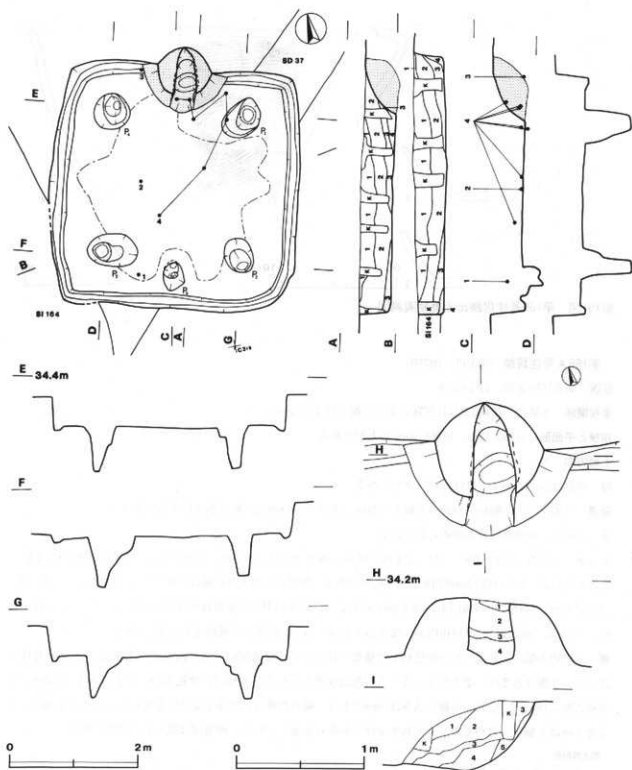
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム大・中・小ブロック少量

遺物 土師器片185点 (坏片17点, 甍片168点), 須恵器片21点 (坏片6点, 甍片15点), 石製品2点, 含鉄滓153.5gが出土している。覆土下層では, 第191図1の土師器甍が南壁付近から出土している。床面では, 2の須恵器坏が中央部から正位で, 3の須恵器坏が北壁際から逆位で出土している。4の須恵器鉢は, 竈付近の覆土上層と中央部の覆土下層と中央部の床面から出土した破片が接合している。

所見 本跡の時期は, 遺物の形態及び出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

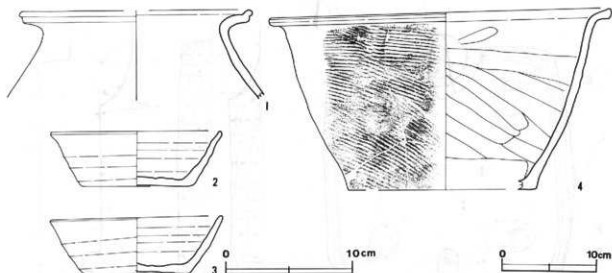
### 第165号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	予法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 1	土師器 甍	A 118.4 B (7.0)	口縁部片, 口縁部は外反し, 深部は外上方につきまみ上げられている。	口縁部内・外面積ナゲ。	長石・石英・雲母 におよぼ褐色 普通	P545 5% 覆土中
2	須恵器 坏	A 13.5 B 4.3 C 8.6	体底, 口縁部一部欠損。平底, 体部は外反し, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面積ナゲ。 底部回転ヘラ切り。	石英・雲母 灰黄色 良好	P546 85% 床面 PL123 二次焼成



第190図 第165号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 3	環 須臬器	A 13.5 B 4.3 C 8.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	石英・雲母 灰黄色 良好	P547 85% 床面
4	鉢 須臬器	A 36.3 B 19.2 C 20.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行引き、内面ヘラナデ。体部内面筋痕。	長石・雲母・スコリア 良好	P548 80% 覆土中・床面



第191図 第165号住居跡出土遺物実測図

第166A号住居跡 (第192・193図)

位置 調査区の北部, D3 b7区。

重複関係 本跡は, 第166B号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸9.10m, 短軸8.90mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は20~53cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅19~34cm, 下幅4~24cm, 深さ5~14cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

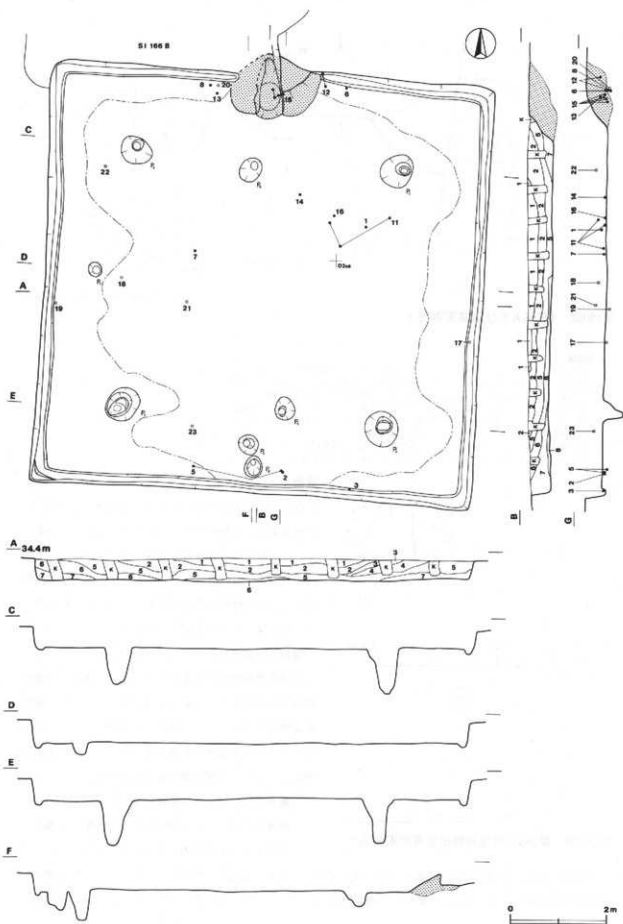
ピット 9か所 (P1~P9)。P1~P4は, 径58~78cmの円形, 深さ76~97cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径42cmの円形, 深さ62cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径43cm, 短径37cmの楕円形, 深さ38cmである。位置からP5の補助柱穴と考えられる。P7~P9は, 長径31~52cm, 短径27~43cmの楕円形, 深さ25~32cmである。位置から補助柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂泥じりの褐色粘土で構築されている。煙道部の一部と西袖部の北側は, 第166B号住居跡によって掘り込まれ, 壊されている。天井部は崩落している。規模は, 煙道部から焚き口部まで136cm, 両袖最大幅 [184]cm, 壁外への掘り込みは39cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を7cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けてかなり赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

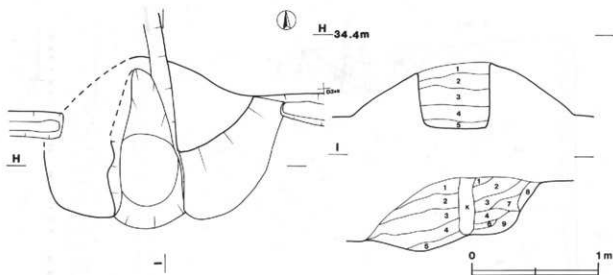
竈土層解説

- 1 灰褐色 ローム・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土・粘土粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量

覆土 8層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。



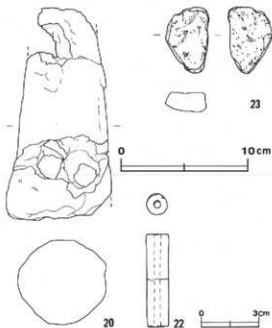
第192图 第166A号住居跡实测图(1)



第193図 第166A号住居跡実測図(2)

土層解説

- |   |     |                                       |
|---|-----|---------------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量   |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量      |
| 3 | 黒褐色 | 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量          |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大・中ブロック微量       |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量                      |
| 7 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量   |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量             |

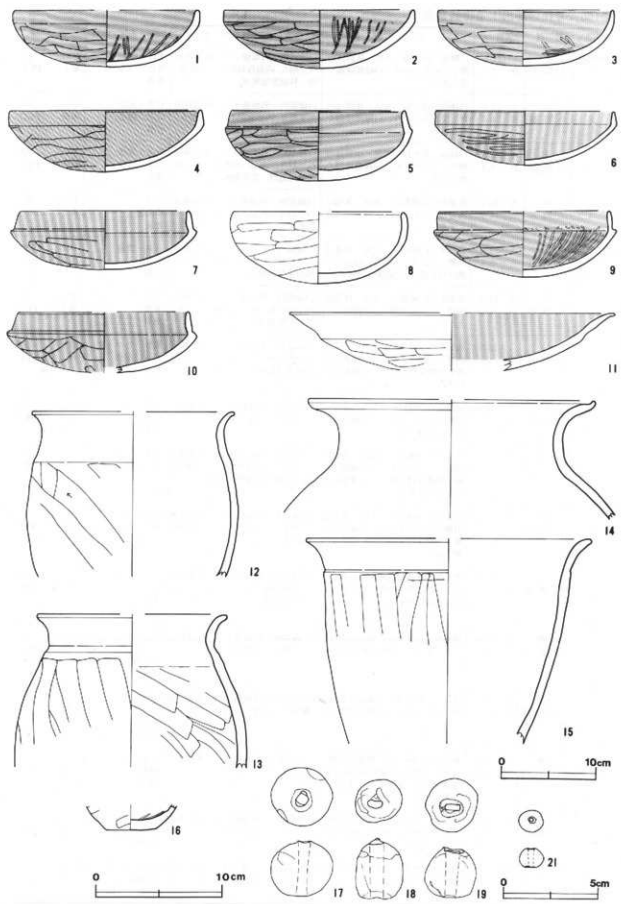


第194図 第166A号住居跡出土遺物実測図(1)

の土師器高坏は、中央部北寄りの覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合している。12の土師器甕は、竈東袖部付近の覆土下層と床面から出土した破片が接合している。その他、覆土中から4、9、10の土師器坏が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

遺物 土師器片737点(坏205片点、甕片531点、高坏片1点)、須恵器片15点(坏片5点、甕片9点、蓋片1点)土製品4点、石製品1点、管玉1点、小玉1点が出土している。第194・195図覆土上層では、18の土玉が中央部西寄りから、21の小玉が中央部から、22の管玉が西壁付近から、23の軽石が中央部南寄りから出土している。覆土下層では、1の土師器坏が中央部北東寄りから、6の土師器坏が北壁際から、7の土師器坏が中央部から、14の土師器甕が中央部北寄りから、13の土師器甕が竈西袖部付近から出土している。床面では、2、5の土師器坏が南壁付近から、8の土師器坏が北壁際から、16の土師器ミニチュア土器が中央部北東寄りから、19の土玉が西壁際から、20の土製支脚が竈西袖部付近から出土している。竈内では、15の土師器瓶が覆土下層から出土している。壁溝内では、3の土師器坏が南壁溝内の覆土中から、17の土玉が東壁溝内の覆土中から出土している。11



第195图 第166A住居跡出土遺物実測图(2)

第166A号住居跡出土遺物観察表

加算番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196回 1	坏 土師器	A [14.6] B 4.5	口縁部・部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は短く 直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面放射状のヘラ跡。 内・外面黒色処理。	赤褐 黒色 普通	P549 90% 履土中 PL124
	坏 土師器	A 15.0 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は短く 直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面放射状のヘラ跡。 内・外面黒色処理。	石黄・赤母 にぶい棕色 普通	P550 85% 床面 PL124
2	坏 土師器	A 13.9 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部は短く 直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ヘラ跡。内・外 面黒色処理。器面割傷。	石黄・赤母 にぶい褐色 普通	P551 70% 壁内面 PL124
	坏 土師器	A 15.2 B 4.9	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部は直 立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒 色処理。	赤母 黒褐色 普通	P552 60% 履土中 PL124
3	坏 土師器	A 13.6 B 3.6	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・ 外面黒色処理。	石黄・赤母 黒色 普通	P553 60% 床面 PL124
	坏 土師器	A 14.2 B 4.3	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部は直 立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り後、磨き。内面ナデ。内・ 外面黒色処理。	赤褐・スコリア 呈褐色 普通	P554 55% 履土中 PL124
4	坏 土師器	A 13.3 B 4.6	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内 傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・ 外面黒色処理。	赤母・スコリア にぶい棕色 普通	P555 35% 履土中 PL124 二次焼成
	坏 土師器	A [13.4] B 5.7	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部はわ ずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ナデ。	赤母・スコリア 呈褐色 普通	P556 70% 床面 PL124 二次焼成
5	坏 土師器	A 13.6 B 3.3	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわ ずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・ 外面黒色処理。器面割傷。	長石・赤母 灰黄褐色 普通	P557 50% 履土中 PL124
	坏 土師器	A [13.4] B (4.7)	底部から口縁部片。丸底。体部は 内壁して立ち上がり、口縁部との 境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内 傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒 色処理。	赤褐・スコリア 暗赤褐色 普通	P558 50% 履土中 PL124
6	高 土師器	A [25.7] B (4.6)	坏部片。坏部は内壁気味に立ち上 がり、口縁部との境に稜を持つ。 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内 面黒色処理。	長石・赤母・スコリア 呈褐色 普通	P559 30% 履土中 PL124
	甕 土師器	A [16.0] B (18.1)	体部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石黄・赤母・ スコリア 明赤褐色 普通	P561 30% 履土中・床面
7	甕 土師器	A [15.0] B (12.4)	体部から口縁部片。体部は内壁気 味に立ち上がり、口縁部は外反す る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 既位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	石黄・赤母・スコリア 明褐色 普通	P563 15% 履土中
	甕 土師器	A [22.9] B (9.0)	体部から口縁部片。体部は内壁し て立ち上がり、口縁部は外反する。 肩部は上方にわずかにつまみ上げ られている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石黄・赤母 褐色 普通	P562 10% 履土中
8	甕 土師器	A [30.0] B (21.7)	体部から口縁部片。体部は外傾し て立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石黄・赤母 にぶい黄褐色 普通	P560 45% 壁内面 PL124
	にびり器 土師器	B (2.1) C 3.9	底部から体部片。平底。体部は内 壁気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面 ヘラ跡。底部ヘラ削り後、ナデ。	長石・石黄・赤母 明赤褐色 普通	P564 10% 床面

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第195図17	土 瓦	2.9	3.2	0.6	25.7	壁 溝 内	DP78 100% PL167
18	土 瓦	3.2	2.5	0.7	17.1	覆 土 中	DP79 100% PL167
19	土 瓦	2.7	2.6	0.8	(18.2)	壁 面	DP80 95% PL167
第195図20	瓦 脚	(16.9)	( 8.4)	-	(223.4)	床 面	DP81 70%
第195図21	小 瓦	1.0	1.3	0.3	1.4	覆 土 中	DP113 100%

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第195図22	管 瓦	4.9	1.1	0.4	11.8	滑 石	覆 土 中	Q53 100% PL173

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		径 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
23	板 瓦	5.3	3.5	1.9	3.7	透 紋 岩	覆 土 中	Q55 PL175

### 第166B号住居跡 (第196図)

位置 調査区の北部, C 3 j7 区。

遺構関係 本跡が, 第166A号住居跡の北壁西縁を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.42m, 短軸3.93mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は20~35cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部壁下を除いて通っている。上幅13~22cm, 下幅3~10cm, 深さ3~7cmで, 断面形はU字状である。

床 平川で, 壁際を除いてほぼ全体に踏み固められている。

ピット P1は長径46cm, 短径37cmの楕円形, 深さ58cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 東壁中央部やや南寄りに, 砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで140cm, 両袖最大幅113cm, 壁外への掘り込みは68cmである。北袖部と竈内から炭母片岩が検出され, 竈の竈袖材として使用されたと考えられる。両袖部の基部は, 地山のローム層を削り出して構築している。火床部奥から煙道部にかけては, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 褐色 粘土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量
- 2 褐色 粘土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量, 焼土小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土・火・小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒少量
- 4 明褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子中量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量

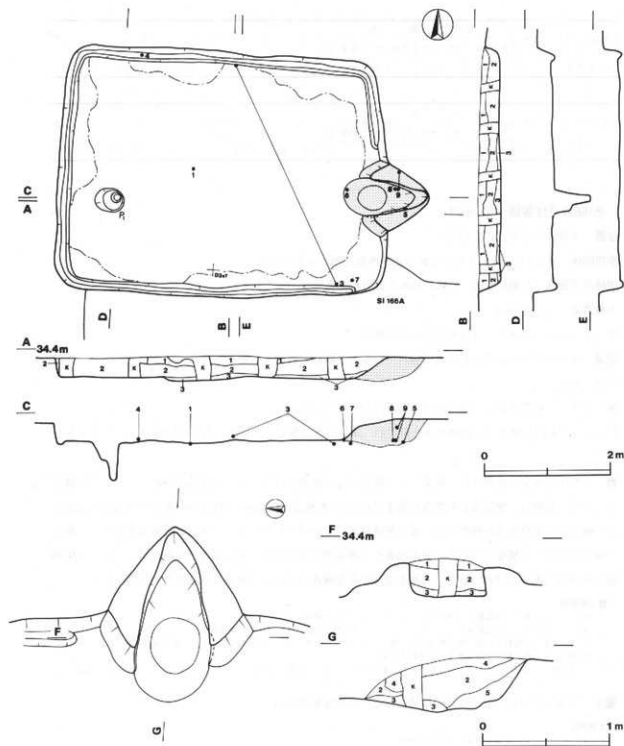
覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 新黄褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量



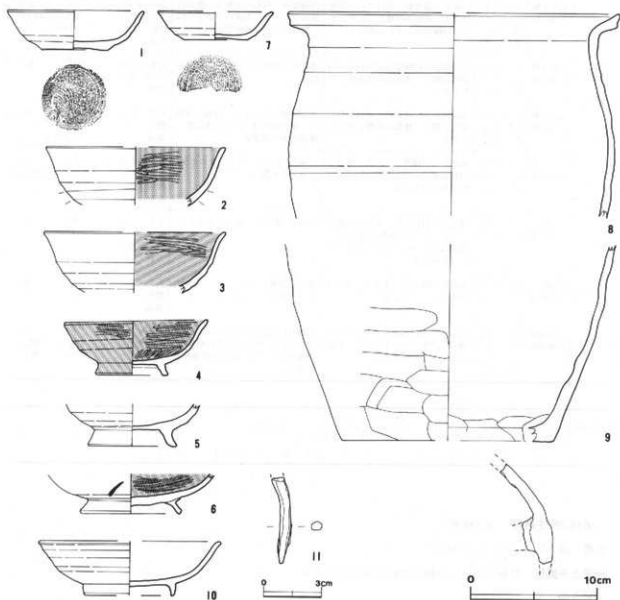
遺物 土師器片317点(坏片167点, 甕片150点), 須恵器片56点(甕片56点), 鉄製品1点, 191.5g, 含鉄滓7.6g  
 が出土している。覆土下層では, 第197図4の土師器高台付椀が北壁際から正位で出土している。床面では, 1  
 の土師器坏が中央部から斜位で, 6の土師器高台付椀が竈付近から, 7の土師器小皿が南東コーナー部から出  
 土している。竈内では, 5の土師器高台付椀, 8の土師器甕が覆土下層から, 9の土師器甕が北袖部内と覆土  
 下層から出土している。3の土師器坏は, 北壁際の覆土下層と南壁際の床面から出土した破片が接合している。



第196図 第166B号住居跡実測図

その他、覆土中から2の土師器環, 10の灰釉陶器高台付碗, 11の釘が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀後葉と考えられる。



第197図 第166B号住居跡出土遺物実測図

第166B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第197図 1	土師器 環	A 11.0 B 3.2 C 5.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・雲母・スコリア にふい・橙色 良好	P565 70% 床面 PL124 二次焼成
2	土師器 環	A [14.2] B (4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部外面ロクロナデ、内面横位のヘラ磨き。体部下端回転ヘラ磨り。内面黑色処理。	石英・雲母 層褐色 普通	P566 10% 覆土中 二次焼成

図説番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第197図	3 環土師器	A [14.4] B [4.0]	口縁部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部外面ロクロナデ、内面へう磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 割青褐色 普通	P568 20% 覆土中・床面 二次焼成
4	高台付腕土師器	A 11.4 B 4.5 D 5.7 E 0.9	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面へう磨き。体部外面ロクロナデ、内面へう磨き。高台貼付け。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P567 90% 覆土中 PL123 二次焼成
5	高台付腕土師器	B (3.4) D 7.0 E 1.3	高台部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼付け。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P573 40% 瓶内 二次焼成
6	高台付腕土師器	B (3.1) D 8.0 E 1.0	高台部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ、内面へう磨き。高台貼付け。内面黒色処理。体部外面下磨き雲。	石英・雲母 褐色 普通	P569 29% 床面 二次焼成
7	小皿土師器	A [9.2] B 2.2 C [5.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転成形。	長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P570 40% 床面 PL124 二次焼成
8	壺土師器	A [26.5] B (16.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。底部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 良好	P571 10% 瓶内
9	瓶土師器	B (15.4) C [16.6]	底部から体部片。多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位のへう削り。内面ナデ。内面下磨へう磨き。	石英・雲母 褐色 普通	P572 10% 瓶内
10	高台付腕灰胎陶器	A [14.4] B 4.3 D 7.0 E 0.9	高台部から口縁部片。日月高台。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り成。高台貼付け。口縁部内・外面、体部内側施釉刷毛塗り。	長石 灰青褐色 良好	P647 40% 覆土中 PL125 黒盤90号灰式

図説番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	釘	(4.5)	0.7	0.5	(3.3)	覆土中	M35 PL179

### 第167号住居跡 (第198図)

位置 調査区の北部、D3d8区。

規模と平面形 長軸3.43m、短軸3.05mの長方形である。

主軸方向 N-13°-W

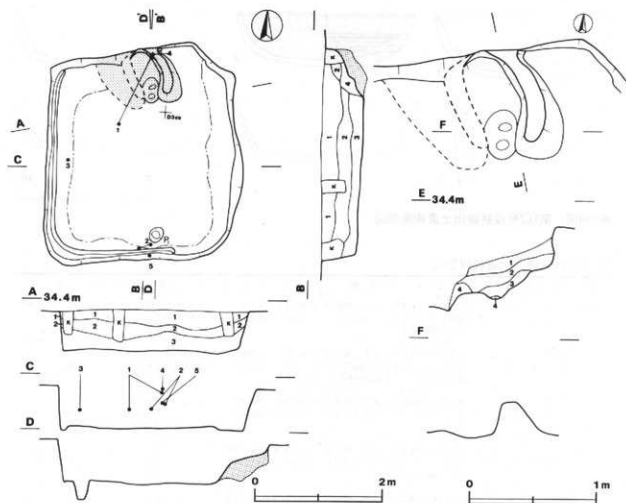
壁 壁高は65~68cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下から南壁下にかけて巡っている。上幅13~27cm、下幅3~12cm、深さ2~6cmで、断面形はJ字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット P1は長径25cm、短径22cmの楕円形、深さ30cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井形は崩落し、西袖部は削平され残存していない。規模は、煙道部から焚き口部まで88cm、両袖最大幅 [117] cm、壁外への掘り込みはみられない。火床部は、火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がり、のち角度を変えてほぼ垂直に立ち上がる。



第198図 第167号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土大・中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

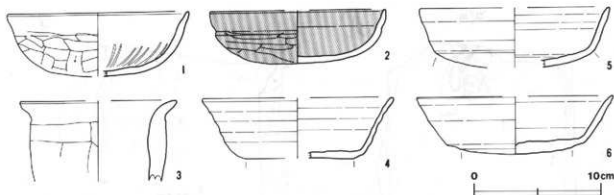
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 4 褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片149点（坏片26点、椀片1点、甕片121点、高坏片1点）、須恵器片19点（坏片16点、甕片3点）、含鉄滓44.5gが出土している。覆土上層では、第200図4の須恵器坏が北壁際から逆位で出土している。覆土中層では、2の土師器坏が南壁際から、3の土師器甕が西壁付近から、5の須恵器坏が南壁際から出土している。1の土師器坏は、北壁際の覆土上層と中央部北寄りの覆土中層から出土した破片が接合している。その他、覆土中から6の須恵器坏が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀後葉と考えられる。



第199図 第167号住居跡出土遺物実測図

第167号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図 1	坏 土師器	A 14.5 B (5.1)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	雲母・スコリア に白い褐色 普通	P574 覆土中 二次焼成
2	坏 土師器	A [13.9] B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 黒褐色 普通	P575 覆土中 二次焼成
3	壺 土師器	A [12.4] B (6.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P576 覆土中
4	坏 須臾器	A [15.2] B 4.9 C [8.6]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 良好	P577 覆土中
5	坏 須臾器	A [15.0] B (4.7)	底部から口縁部片。丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 良好	P578 覆土中
6	坏 須臾器	A [15.6] B 4.6	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・雲母 浅黄色 良好	P579 覆土中

### 第168A号住居跡 (第200図)

位置 調査区の中央部、D3h6区。

重複関係 当初、1軒の住居跡として調査したが、床下からも床面と壁溝が検出されたことから、上位のものを第168A号住居跡、下位のものを第168B号住居跡とした。4か所の主柱穴は、すぐ南側にもそれぞれ柱穴が掘られていた。北側の柱穴内の覆土はロームブロックが多く、埋め戻されたと考えられることから、南側のものを第168A号住居跡に伴う主柱穴、北側のものを第168B号住居跡に伴う主柱穴とした。

規模と平面形 長軸7.50m、短軸7.42mの方形である。

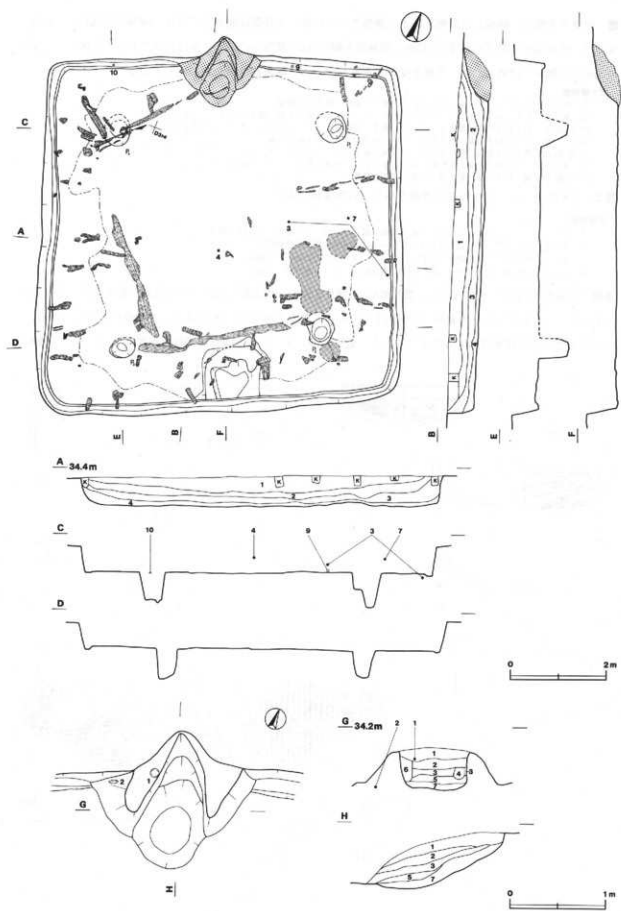
主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は48~65cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅16~376m、下幅6~16cm、深さ3~13cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、壁下付近を除いて全体がよく踏み固められている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は、長径56~[69]cm、短径[43]~61cmの楕円形、深さ58~74cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。



第200图 第168A号住居跡実測图

竈 北壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで147cm、両袖最大幅172cm、壁外への掘り込みは41cmである。火床部は、床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

**覆土層解説**

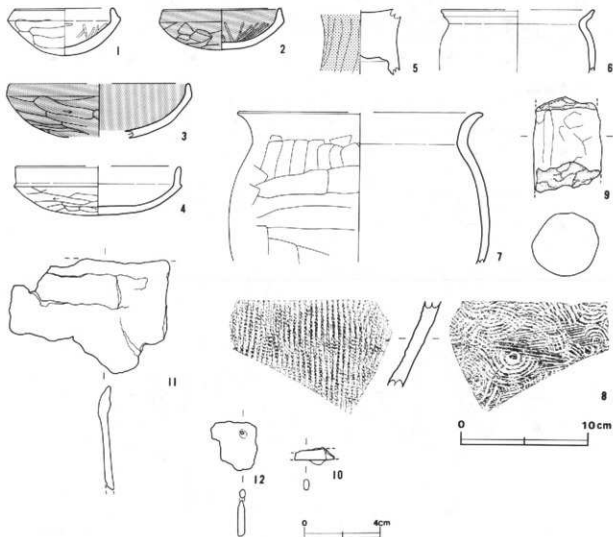
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土・炭化・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、焼土中ブロック・炭化材微量
- 3 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化物微量

**覆土** 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 炭化物・炭化・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

**遺物** 土師器片1040点（坏片185点、甕片854点、瓶片1点）、須恵器片35点（坏片14点、甕片20点、蓋片1点）土製品1点、石製品1点、鉄製品3点が出土している。覆土上層では、第201図4の土師器坏が中央部から、7の土師器甕が中央部東寄りから出土している。竈内では、1、2の土師器坏が竈西袖部内から、6の土師器甕



第201図 第168A号住居跡出土遺物実測図

が覆土中から出土している。1は正位で、2は傾位で出土している。3の上脚器環は、中央部東側の覆土下層と東壁際の床面から出土した破片が接合している。覆土下層から9の上製土脚が北壁際から出土している。10の刀子華は、北壁下の遺溝内から出土している。その他、覆土中から5の上脚器高环、11、12の不明鉄製品が出土している。8は須恵器製の体部片で、外面格子印き、内面同心円帯で其痕が施されている。

所見 本跡は、南側や北西部の覆土下層で焼土塊が多数みられることから焼失家屋と考えられる。また、本跡は、第168B号住居跡の上部に貼床をして構築されていること、第168B号住居跡の主柱穴のすぐ南側にそれぞれ主柱穴が掘られていること、本跡が第168B号住居跡の南壁を約70cmほど掘り込んでいることから、第168B号住居を拡張して構築した住居跡と考えられる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀前後と考えられる。

第168A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第201図 1	坏土脚器	A 7.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との間に縁を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面へう巻き。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P580 95% 覆土中・床面 PL125 二次焼成
		B 3.7				
2	坏土脚器	A 9.3	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面放射状のへう巻き。内・外面無色処理。右面初製。	石英・雲母 灰黄褐色 普通	P581 95% 覆土中・床面 PL125 二次焼成
		B 3.3				
3	坏土脚器	A [14.2]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は広く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。内・外面無色処理。	石英・雲母 灰黄褐色 普通	P582 35% 覆土中・床面 二次焼成 PL125
		B (4.2)				
4	坏土脚器	A [13.2]	底面から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との間に明瞭な縁を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り長。ナデ、内面ナデ。	長石・雲母・スピ リア 灰黄褐色 普通	P583 40% 覆土中・床面 二次焼成
		B 3.9				
5	高坏土脚器	B (5.1)	脚部片。円筒状である。	脚部外面傾位のへう割り後、ナデ、内面ナデ。脚部外面赤褐色。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P586 5% 覆土中
6	要土脚器	A [12.1]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。脚部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母 暗赤褐色 普通	P585 5% 覆土中
		B (4.9)				
7	要土脚器	A [19.4]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P584 5% 覆土中
		B (11.9)				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	文脚	(12.5)	5.5	-	(197.9)	覆土中	DP82 20%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	刀子華	(2.1)	0.6	6.3	(0.9)	壁溝内	M56 PL178
11	不明鉄製品	(8.3)	(6.0)	0.7	(50.6)	覆土中	M57
12	不明鉄製品	(2.7)	(2.4)	0.3	(3.7)	覆土中	M58



第168B号住居跡 (第202図)

位置 調査区の中央部, D3h6区。

重複関係 本跡は, 第168A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.50m, 短軸6.74mの長方形である。

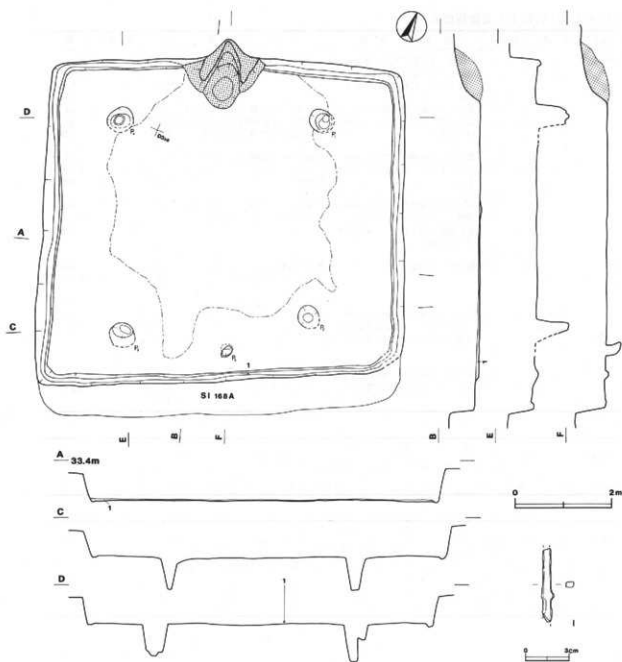
主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は48~65cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅14~38cm, 下幅5~16cm, 深さ3~13cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径 [51] ~ [55] cm, 短径44~50cmの楕円形, 深さ61~85cmで



第202図 第168B号住居跡・出土遺物実測図

ある。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径28cm、短径18cmの楕円形、深さ31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**竈** 第168B号住居跡の竈は、第168A号住居跡の段階まで継続的に使用されていたか、同位置で造り替えが行われたものと考えられ、第168B号住居跡に直接伴うものは確認されていない。

**覆土** 単一層であり、ローム中・小ブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 層 色 ローム中・小ブロック中量

**遺物** 第202図1の鉄線条が南壁際の覆土下層から出土しているのみで、その他の遺物は皆無である。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀と考えられる。

**第168B号住居跡出土遺物観察表**

図録番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第202図	鉄 線 条	(5.2)	0.9	0.4	(3.2)	覆 土 中	M59 PL178

**第169A・169B号住居跡 (第203・204図)**

**位置** 調査区の中央部、D3j5区。

**重複関係** 当初、1軒の住居跡として調査したが、4か所の主柱穴のすぐ外側にもそれぞれ柱穴が掘られていることから、外側の柱穴のものを第169A号住居跡、内側の柱穴のものを第169B号住居跡とした。両住居跡の対応する主柱穴の位置は、ほぼ対角線方向に15～40cmしか離れていないこと、第169B号住居跡の竈の痕跡、礎石、踏み固められた床面などが検出されないことから、第169A号住居跡は、第169B号住居跡の建て替えの可能性がある。

**規模と平面形** 第169A号住居跡は、長軸5.55m、短軸5.45mの方形である。第169B号住居跡は、第169B号住居跡の主柱穴が第169A号住居跡の主柱穴より内側であるため、少し小規模であった可能性が考えられる。

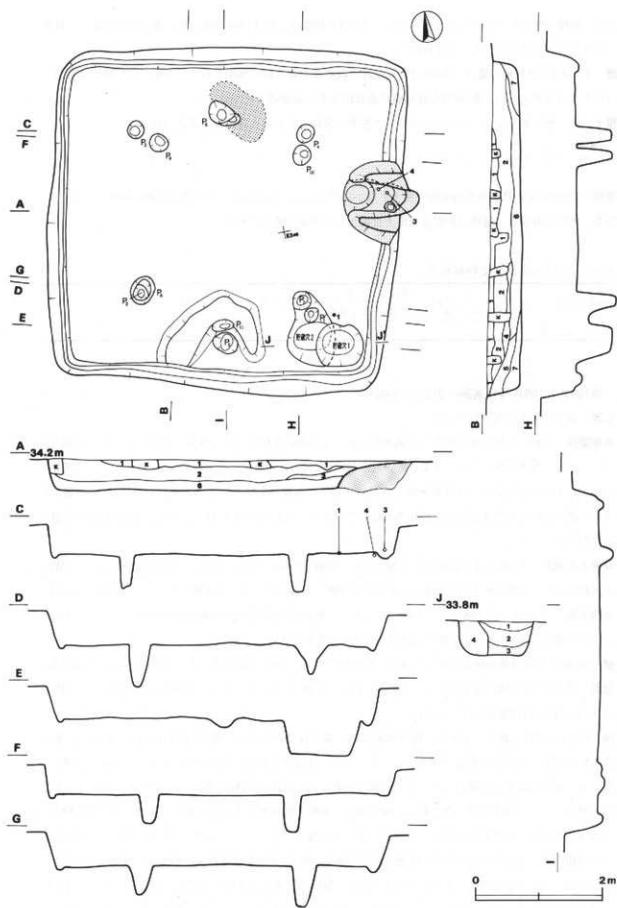
**主軸方向** 第169A号住居跡はN-106°-Eである。第169B号住居跡の主軸方向は厳密には不明であるが、主柱穴の位置から第169A号住居跡とはほぼ同じである可能性がある。

**壁** 第169A号住居跡の壁高は40～55cmで、外傾して立ち上がる。第169B号住居跡の壁高は、不明である。

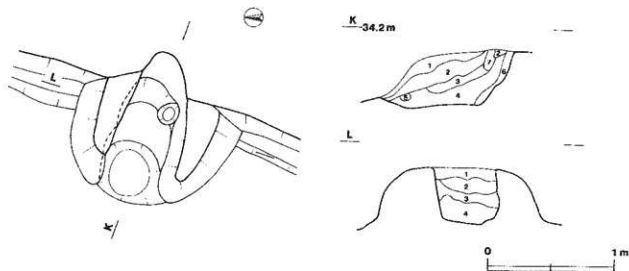
**壁溝** 第169A号住居跡は全周する。上幅19～40cm、下幅4～13cm、深さ3～10cmで、断面形はU字状である。第169B号住居跡は確認されていない。

**床** 第169A号住居跡は、平坦で、踏み固められた部分は見られない。第169B号住居跡の床面は、第169A号住居跡の床面のD位から確認できなかったことから、ほぼ同じあるいはその上位にあった可能性がある。

**ピット** 覆土の状況と位置からピットの所属を判断した。第169A号住居跡は、6か所 (P1～P6)。P1～P4は、径26～[50] cmの円形、深さ46～65cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径51cm、短径31cmの楕円形、深さ12cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径53cm、短径32cmの楕円形、深さ23cmであるが、性格は不明である。第169B号住居跡は、5か所 (P7～P11)。P7～P10は、径28～[34] cmの円形、深さ44～65cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P11は、長径35cm、短径18cmの楕円形、深さ8cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5とP11の出入り口施設に伴うピットは、南北方向に並び、馬蹄形の高まりによって囲まれている。



第203图 第169A·169B号住居跡実測图(1)



第204図 第169A号住居跡実測図(2)

**貯蔵穴** 第169A号住居跡の貯蔵穴は、P1と南壁の間に付設され、長径80cm、短径68cmの楕円形で、深さは55cm、断面形はJ字状である。第169B号住居跡の貯蔵穴は、南東コーナー部に付設され、長径 [73] cm、短径63cmの楕円形で、深さは54cm、断面形はU字状である。第169A号住居跡の貯蔵穴が、第169B号住居跡の貯蔵穴を掘り込んでいる。

**貯蔵穴土層解説**

第169A号住居跡の貯蔵穴は、3層(第1~3層)で、第169B号住居跡の貯蔵穴は、甲・層(第4層)である。

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 におい褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

**竈** 第169A号住居跡は、東壁中央部に砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで122cm、両袖最大幅129cm、壁外への掘り込みは31cmである。火床部は、床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて変色している。土製支脚が、火床部奥に置かれている。煙道部は緩やかに立ち上がり、のち外傾して立ち上がる。第169B号住居跡の竈は、その痕跡が検出されないことから、第169A号住居跡の竈が第169B号住居跡の段階から使用されていたか、同じ位置で造り替えが行われたものと考えられる。

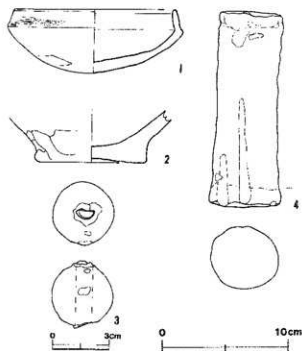
**竈土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土大ブロック・炭化粒子微量
- 5 明赤褐色 焼土大ブロック多量
- 6 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 明褐色 粘土粒子多量、焼土・炭化粒子微量

**覆土** 第169A号住居跡は7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。第169B号住居跡の覆土はない。

**土層解説**

- |       |                              |       |                       |
|-------|------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量            | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量    |
| 2 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量 | 6 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子微量             | 7 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量        |
| 4 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量      |       |                       |



第205図 第169A号住居跡出土遺物実測図

**遺物** 第169A号住居跡からは、土師器片417点(坯片43点、堇片369点、瓶片3点、高坏片2点)、須恵器片2点(坯片1点、板片1点)、土製品2点が出土している。床面では、第205図1の土師器坏が南東コーナー部付近から正位で出土している。室内では、3の土主、4の土製支脚が覆土中から出土している。その他、覆土中から2の土師器甕が出土している。第169B号住居跡の遺物は、検出されなかった。

**所見** 第169A号住居跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。第169B号住居跡は、第169A号住居跡に建て替えられており、その建て替え時期は第169A号住居跡の廃絶時より古いことは確かであるが、伴う遺物がなく詳細な時期を特定することはできない。

第169A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図 1	土師器 坏	A 12.8 B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内野欠縁に立ち上がり、口縁部との境に縁を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部外面横ナデ後、へう巻き。内面筋ナデ。体部外面へう削り。内面ナデ。器面光れ。	長石・石英 赤褐色 普通	P588 95% 床面 PL125 二次焼成
2	土師器 甕	B (4.2) C 8.8	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。底部は突出している。	体部外面へう削り後、ナデ、内面ナデ。	石英・雲母に ぶい赤褐色 普通	P589 10% 覆土中

図版番号	器種	計 測 値			出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)		
3	土 主	3.6	3.3	0.9	重 33.5	壁 内 DP83 100% PL167
4	土 脚	15.5	5.7	-	重 (506.9)	壁 内 DP88 90% PL173

### 第170号住居跡 (第206図)

**位置** 調査区の中央部、E 3 a7 区。

**規模と平面形** 長軸3.60m、短軸3.00mの長方形である。

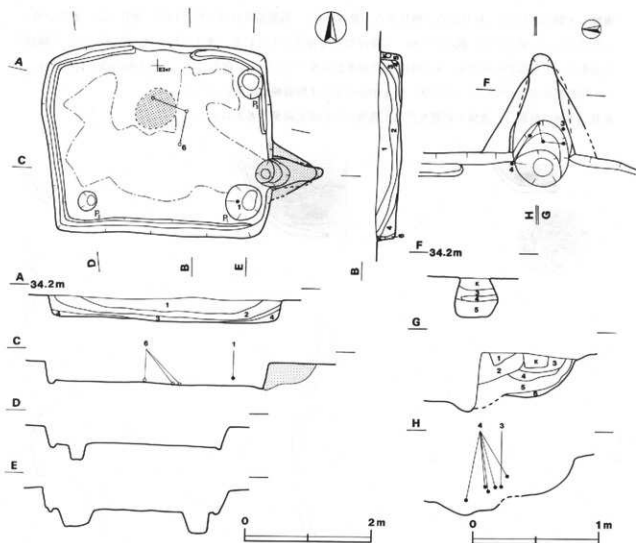
**主軸方向** N-90°-E

**壁** 壁高は30~35cmで、外傾して立ち上がる。

**壁溝** 東壁の南側と北壁中央部の壁下を除いて通っている。上幅15~26cm、下幅3~8cm、深さ3~5cmで、断面形はU字状である。

**床** 平坦で、室内から西壁にかけて踏み固められている。

**ピット** 3か所(P1~P3)。P1~P3は、径29~56cmの円形、深さ28~33cmである。規模と配列から柱柱穴と考えられる。



第206図 第170号住居跡実測図

**竈** 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。袖部は削平され、残存していない。規模は、煙道部から焚き口部まで105cm、壁外への掘り込みは79cmである。火床部は、床面を10cmほど掘りくぼめており、火熱を受けてわずかに赤変している。支脚は雲母片岩を使用し、火床部の奥に置かれている。煙道部は緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 炭化物少量、焼土・炭化・ローム・粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量

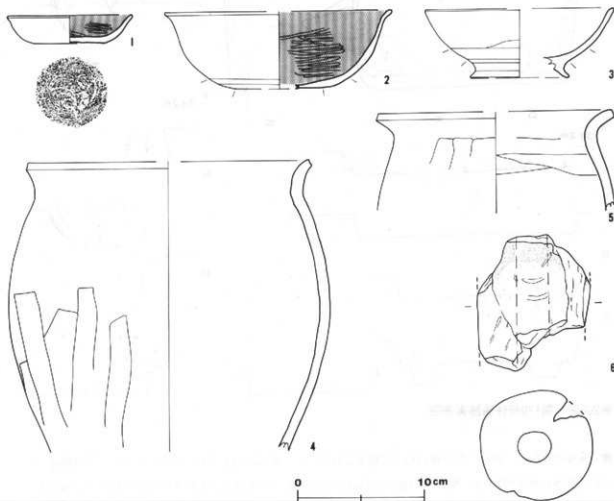
**覆土** 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 6 褐色 焼土中量、焼土小ブロック少量

遺物 土師器片103点(坏片21点, 碗片2点, 甕片80点), 須恵器片18点(坏片14点, 蓋片2点, 甕片2点), 土製品2点, 石製品1点, 鉄滓132.8g, 含鉄滓228.2gが出土している。覆土下層では, 第207図1の土師器坏が南東コーナー部から正位で, 6の羽口が中央部から出土している。竈内では, 3の土師器高台付碗, 4, 5の土師器甕が出土している。その他, 覆土中から2の土師器碗が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第207図 第170号住居跡出土遺物実測図

第170号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第207図 1	坏 土師器	A 10.0 B 2.2 C 5.5	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部外面ロクロナテ, 内面ヘラ磨き。底部回転未切り。内面黒色処理。	長石・雲母にふい黄褐色 普通	P590 80% 覆土中 PL125 二次焼成
2	碗 土師器	A [18.1] B 6.1 C [7.3]	底部から体部片。平底。体部は内傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部外面ロクロナテ, 内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリアにふい黄褐色 普通	P591 40% 覆土中 PL125 二次焼成
3	高台付碗 土師器	A [14.9] B 5.4 D [7.8] E 1.2	脚部から口縁部片。脚部はハの字状に大きく開く。体部は内傾して立ち上がり, 口縁部に坐る。	口縁部, 体部内・外面ロクロナテ。体部下端回転ヘラ削り。器面荒れ。	長石・石英にふい黄褐色 普通	P592 40% 竈内 PL125 二次焼成

図面番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・地成	備考
第207図 4	土師器	A [22.7 B (23.0)	体部から口縁部片。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ張り、内面ナデ。	石灰・炭灰・スコリア 褐色 普通	P583 器内 30%
5	土師器	A [18.4 B (7.9)	体部から口縁部片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ張り、内面ヘラナデ。	石灰・炭灰・スコリア に多い褐色 普通	P584 器内 5%

図面番号	器種	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)		
6	羽	口 (10.6)	8.9	2.6 (500.4)	掘土中	DP84 30%

### 第171号住居跡 (第208・209図)

位置 調査区の中央部、E 3 a 8 区。

規模と平面形 長軸5.29m、短軸4.81mの長方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は46~56cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は、径30~45cmの円形、深さ55~89cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径22~35cmの不整形円形、深さ35cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は径44cmの円形、深さ25cmである。位置から補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南壁下に付設され、径85cmの円形で、深さは77cm、断面形はU字状である。

壁 北壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から突き口部まで140cm、両袖最大幅127cm、壁外への掘り込みは44cmである。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭土・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 にいり赤褐色 粘土・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量

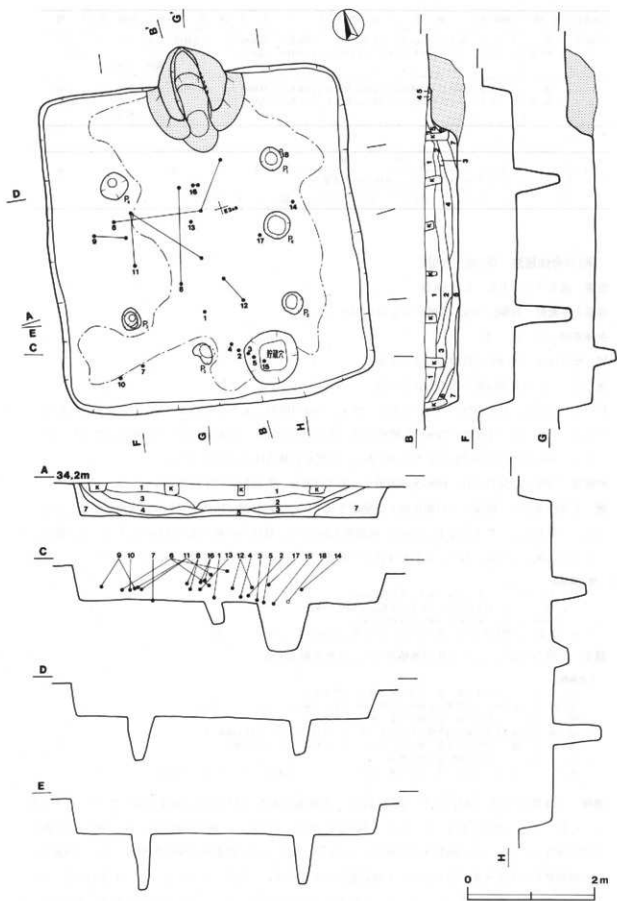
掘土 7層からなり、レンズ状の地積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

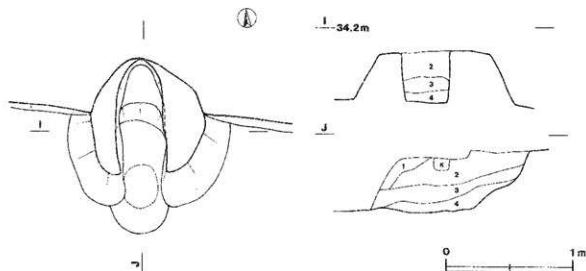
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 粘土・炭化粒子少量、焼土中・小ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片672点 (坏片222点、甕片450点)、須恵器片8点 (坏片4点、甕片1点、甕片3点)、七製品2点、石製品1点、縄文土器片5点、弥生土器片1点が出土している。覆土中層では、第210図9の土師器坏が中央部西寄りから、10の土師器坏が南壁付近から、8、12、13の土師器坏が中央部から、14の土師器高坏、17の土師器甕が中央部東寄りから、16の土師器甕が中央部北寄りから出土している。8、10は正位で、14は逆位で出土している。覆土下層では、1~4の土師器坏が中央部南寄りから、18の土玉が中央部北東寄りから出土している。1~4は正位の状態で出土している。床面では、5、7の土師器坏、15の土師器甕が南壁付近から





第208图 第171号住居跡実測图(1)



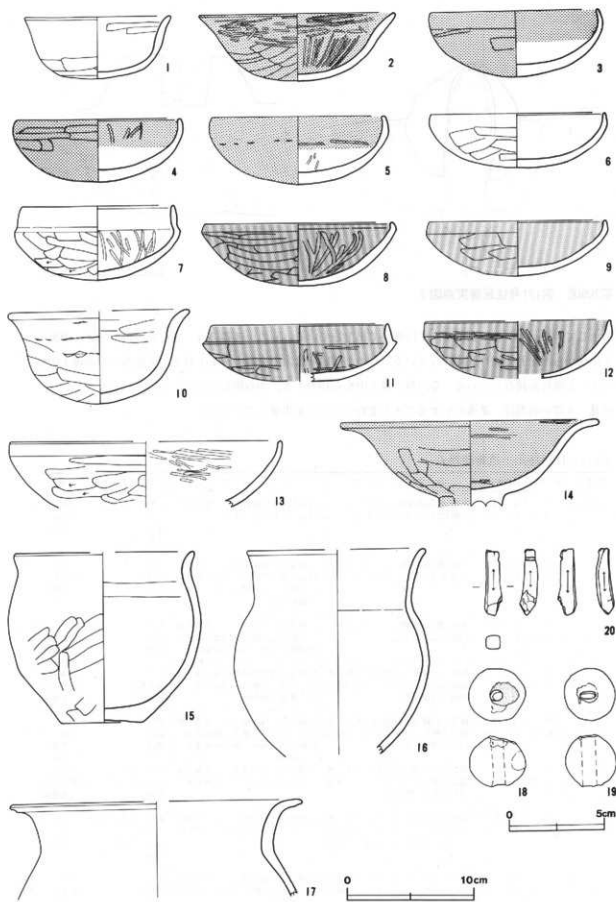
第209図 第171号住居跡実測図(2)

出土している。1, 15は正位で、7は横位で出土している。6の土師器環は、竈付近の覆土上層と中央部の覆土中層から出土した破片が接合している。11の土師器環は、中央部の覆土上層と中央部西寄りの覆土中層から出土した破片が接合している。その他、覆土中から19の土瓦、20の瓦行が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第171号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第210図 1	土師器 環	A 11.5	丸底、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。	石英・雲母・スコリア 棕色 普通	P585 100% 覆土中 PL125 二次焼成
		B 4.9				
2	土師器 環	A 15.6	丸底、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。口縁部内・外面、体部内面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P596 100% 覆土中 PL125 二次焼成
		B 5.2				
3	土師器 環	A 13.3	丸底、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、磨き、内面ナデ。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	雲母 赤色 普通	P587 100% 覆土中 PL125 二次焼成
		B 5.2				
4	土師器 環	A 12.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部、体部外面ヘラ削り後、磨き、内面ヘラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P588 95% 覆土中 PL126 二次焼成
		B 5.0				
5	土師器 環	A 13.6	体部、口縁部一部欠損。丸底、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラ磨き。磨きみだ。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	雲母 赤色 普通	P589 95% 体面 PL126 二次焼成
		B 5.4				
6	土師器 環	A 13.8	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。器面瓦れ。	石英・雲母 赤褐色 普通	P600 90% 覆土中 PL126 二次焼成
		B 4.3				
7	土師器 環	A 12.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に線を穿つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	石英・雲母・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P602 90% 体面 PL125 二次焼成
		B 5.8				
8	土師器 環	A 14.8	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	雲母 黒褐色 普通	P601 90% 覆土中 PL126 二次焼成
		B 5.0				



第210图 第171号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	子 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第210図 9	環 脚器	A 14.0 B 4.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り。内面ナデ。内・外面黒色処理。器柄荒れ。	石英・雲母にふい棕色普通	P603 80% 覆土中 PL126 二次焼成
16	環 脚器	A 14.2 B 7.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り。内面ナデ。輪積み痕。	長石・石英・雲母にふい褐色普通	P604 50% 覆土中 PL126 二次焼成
11	環 脚器	A 15.0 B (4.5)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり。口縁部との境に明確な線を待つ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り。内面へつ磨き。内・外面黒色処理。	石英・雲母にふい褐色普通	P605 45% 覆土中 PL126 二次焼成
12	環 脚器	A 14.7 B (4.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り後。磨き。内面へつ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母にふい赤褐色普通	P606 40% 覆土中 二次焼成
13	環 脚器	A 12.4 B (5.2)	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り後。磨き。内面へつ磨き。	雲母にふい黄棕色普通	P607 20% 覆土中 PL126 二次焼成
14	高 脚器	A 20.1 B (6.7) C (0.8)	杯部片。杯部は内彎して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り。内面へつ磨き。内・外面赤褐色。	雲母にふい赤褐色普通	P608 70% 覆土中 PL126 二次焼成
15	環 脚器	A 14.2 B 15.4 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り後。ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい赤褐色普通	P609 75% 表面 PL126
16	環 脚器	A 19.0 B 16.2	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外向ナデ。	長石・石英・雲母にふい赤褐色普通	P610 30% 覆土中
17	環 脚器	A 22.1 B (7.6)	底部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にふい黄褐色普通	P611 5% 覆土中

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
18	土 瓦	2.6	3.0	0.7	(20.1)	覆 土 中 DP86 95% PL167	
19	土 瓦	2.7	2.7	0.6	20.0	覆 土 中 DI97 100% PL167	

図版番号	器 種	計 測 値				有 目	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
20	瓦 石	5.2	3.4	1.4	11.0	灰 灰 瓦 覆 土 中 Q59 PL174		

### 第172号住居跡(第211・212図)

位置 調査区の中央部、E 3 c 8 区。

重複関係 本跡は、第44号溝によって北部を掘り込まれている。

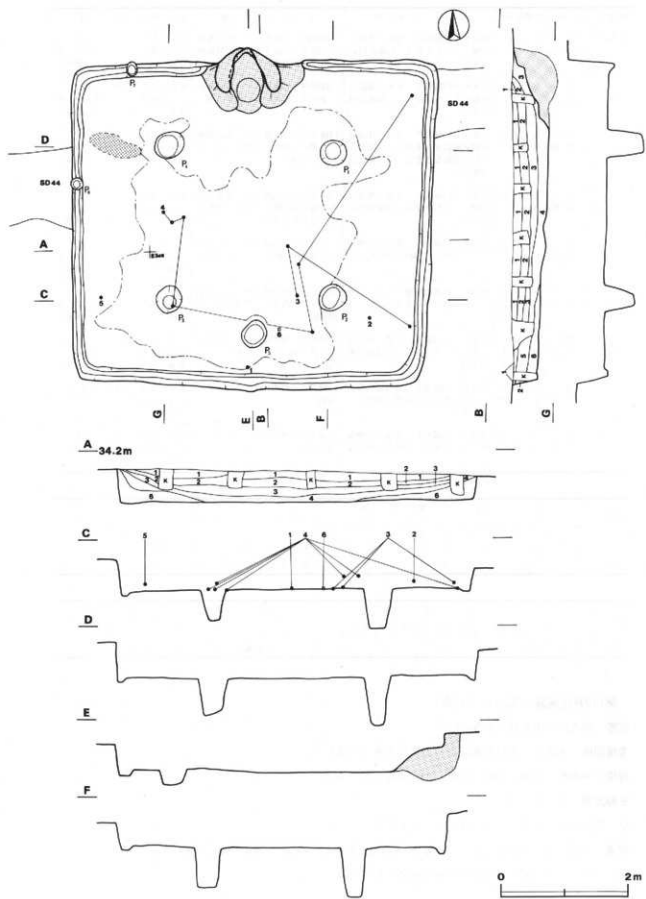
規模と平面形 長軸5.72m、短軸3.22mの長方形である。

主軸方向 N-3°-E

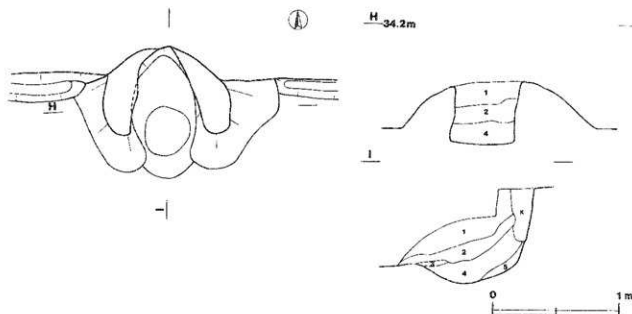
壁 壁高は36~73cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅13~27cm、下幅4~17cm、深さ1~10cmで、断面形はじ字状である。

床 平坦で、中央部やや南寄りが踏み固められている。



第211图 第172号住居跡实测图(1)



第212図 第172号住居跡実測図(2)

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径41~45cmの円形、深さ48~78cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径43cm、短径37cmの楕円形、深さ25cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで105cm、両袖最大幅162cm、壁外への掘り込みは24cmである。両袖部の内壁は、火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面を14cmほど掘りくぼめており、かなり火熱を受けて赤変硬化している。煙道部はほぼ垂直に立ち上がる。

**覆土層解説**

- 1 灰 褐色 焼土・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土中ブロック・炭化粒子多量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
- 5 に近い赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量

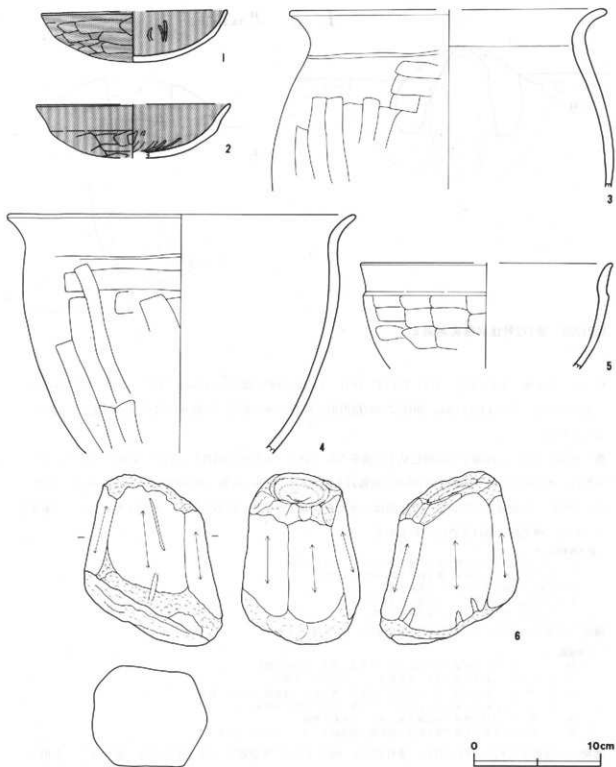
**覆土** 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量、焼土・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量

**遺物** 土師器片394点(坏片121点、甍片272点、甌片1点)、須恵器片4点(坏片2点、甍片2点)が出土している。覆土下層では、第213図1の上師器坏が南壁際から正位で、2の土師器坏が中央部南西寄りから、5の土師器鉢が西壁際から出土している。3の土師器甍は、覆土下層の中央部南寄り、東壁際と中央部の床面から出土した破片が接合している。4の土師器甍は、中央部南寄りの覆土上層と中央部西寄りの覆土下層と北東コーナー部付近の床面から出土した破片が接合している。6の甌石は覆土中から出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。



第213図 第172号住居跡出土遺物実測図

第172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 1	坏 土 脚 器	A [14.7] B 4.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	石英・雲母にふい黄褐色普通	P 612 55% 覆土中 PLI26

図表番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 2	坏 土師器	A 15.4 B (4.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り、内面放射状のヘタ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい黄褐色貫通	P613 20% 覆土中
3	甗 土師器	A 25.0 B (14.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい黄褐色貫通	P614 20% 覆土中・床面 PL125
4	甗 土師器	A 27.6 B (18.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スロリアにふい褐色貫通	P615 30% 覆土中・床面 FL125
5	鉢 土師器	A 20.0 B (8.3)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へタ削り、内面ナデ。	石英・雲母にふい黄褐色貫通	P616 5% 覆土中

図表番号	器種	引 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
6	甗 石	18.5	10.8	9.5	1608.7	花崗岩	覆土中	Q60 PL175

### 第173号住居跡 (第214図)

位置 調査区の北東部、E 3 e 8 区。

規模と平面形 長軸3.77m、短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は45~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅22~36cm、下幅5~15cm、深さ5~14cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口付近から中央部にかけて踏み固められている。

ピット P1は長径35cm、短径27cmの楕円形、深さ25cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

壁 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。

規模は、煙道部から突き出し部まで118cm、両袖最大幅164cm、壁外への掘り込みは48cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床面は、床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して立ち上がる。

#### 壁土層解説

- 1 灰 褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 灰 褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 3 灰 褐色 焼土・炭化・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

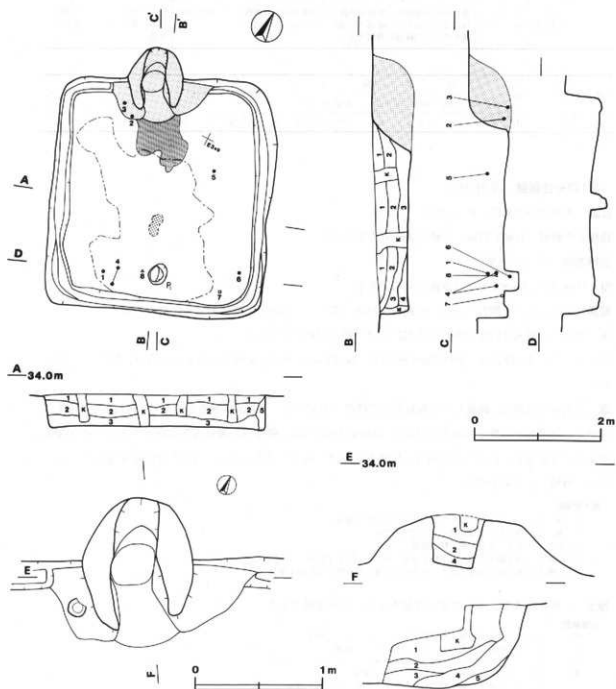
- 1 褐色 ローム粘土中量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片336点(杯片79点、高杯片2点、甗片254点、甗片1点)、須恵器片34点(杯片20点、杯蓋片14点)、灰釉陶器片1点、鉄鏡1点、砥石1点、縄文土器片1点が出土している。覆土上層では、第215図1の上層器類が南コーナー部付近から、5の須恵器杯が中央部北側から、8の刀子が中央部南東側から出土している。

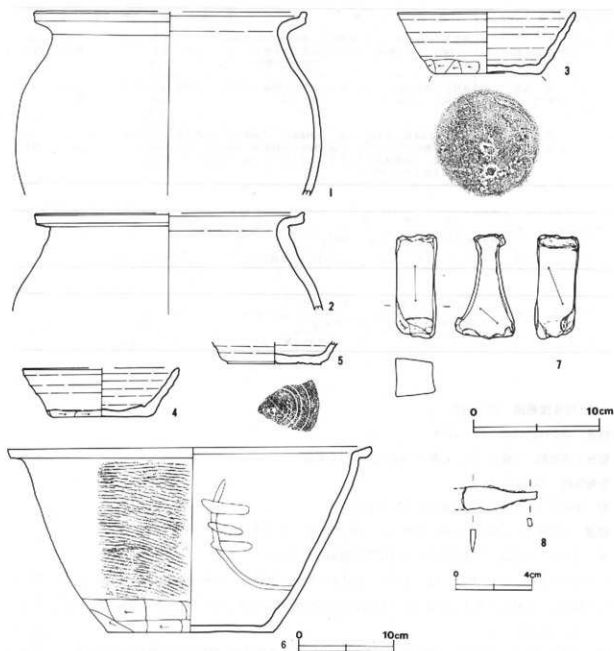


覆土下層では、4の須恵器杯が南コーナー部付近から出土している。床面では、6の須恵器鉢が東コーナー部から正位の状態、7の砥石が東コーナー部から出土している。竈の西側袖内からは2の土師器甕、3の須恵器杯が出土している。3は正位の状態で出土している。2、3は袖内から出土していることから、竈の補強材として使用されたものと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第214図 第173号住居跡実測図



第215図 第173住居跡出土遺物実測図

第173号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図 1	甕 土器	A [21.6] B (14.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1001 15% 覆土中
2	甕 土器	A [21.3] B (7.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 灰にふい赤褐色 普通	P1002 10% 壺内
3	坏 須臾器	A 14.2 B 4.9 C 8.3	平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへく削り。底部回転へく削り後、一方向のナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1003 98% 壺内 PL127

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215号	環須恵器	A   12.2 B   3.8 C   7.6	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部下端手持ちへう割り。底部二方向のへう割り。	長石・石英 灰色 普通	P1004 50% 履土中 PL127
5	須恵器	B   2.0 C   7.3	底部から体部下位片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部軽へう切り。	長石・石英 灰色 普通	P1005 10% 履土中
6	鉢須恵器	A 38.4 B 19.8 C 17.4	体部から口縁部。蓋欠損。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反し、底部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面襷ナデ。体部外面横位の平行印。内面ナデ。体部下位手持ちへう割り。底部ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1006 85% 床面 PL127

図版番号	器種	計測値				重量(g)	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	口径(cm)			
7	灰石	8.2	4.8	3.3	(120.4)	緑色硬灰岩	床面	Q1001 PL175

図版番号	器種	計測値				重量(g)	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	口径(cm)			
8	刀子	(4.0)	1.2	0.5	(3.4)		履土中	M1001 95% PL177

### 第174号住居跡(第216図)

位置 調査区の北部。C 4 h 5 区。

規模と平面形 長軸4.75m、短軸4.14mの長方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は50~70cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅10~18cm、下幅4~7cm、深さ3~7cmで、断面形はじ字状である。

床 平坦で、中央部から前方部にかけて踏み固められている。

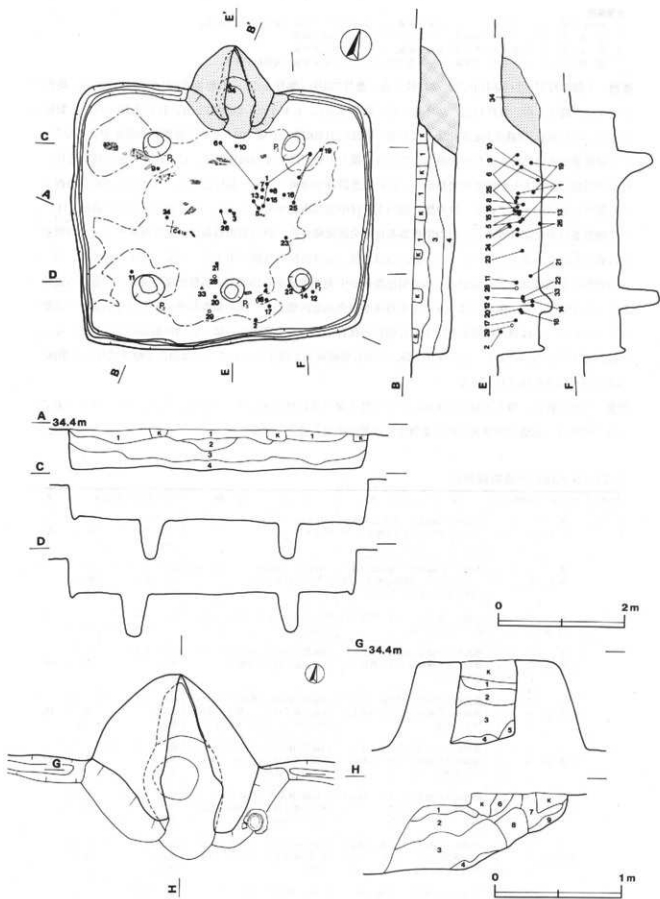
ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径37~52cm、短径32~48cmの楕円形、深さ52~66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径約40cmの円形、深さ21cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部は、耕作により攪乱を受け残存していない。天井部は崩落しており、前輪部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで146cm、両端最大幅160cm、壁外への掘り込みは67cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、わずかに床面を掘りくぼめており、火熱を受けわずかに赤変している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 塵土層解説

- 1 灰 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・粘土小ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック極微量
- 4 赤褐色 焼土中・小ブロック中量、焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 5 灰褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量、炭化物・ローム中ブロック極微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土中ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量、焼土小ブロック極微量
- 8 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量、焼土中ブロック極微量
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。北西コーナー部の下層から床面にかけて炭化材、南壁中央部の下層から粘土塊が検出された。



第216图 第174号住居跡实测图

## 土層解説

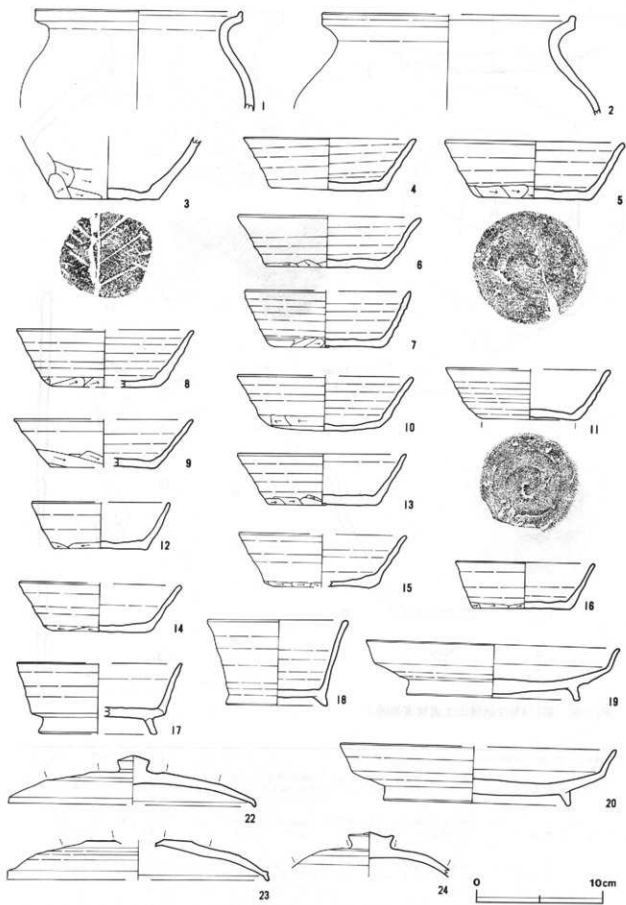
- 1 極黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック微量  
 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量  
 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片571点(坏片16点, 高坏片1点, 寛片553片, 胴片1点), 須恵器片229点(坏片200点, 高台付坏片4点, 盤片7点, 蓋片14点, 高坏片3点, 鉢片1点), 土玉3点, 鉄製釘2点, 管状土踵1点, 石製紡錘車1点, 鉄洋240g, 含鉄洋10gが出土している。第217, 218図層土層では, 2の土師器甕が南壁中央部から, 3の土師器甕が中央部からそれぞれ出土している。覆土中層では, 4の須恵器坏, 17, 18の須恵器高台付坏, 20の須恵器蓋, 29の土玉が南壁中央部から, 22の須恵器蓋が南東コーナー部付近から, 11の須恵器坏が南西コーナー部付近から出土している。21の盤, 28の土玉は中央部南側から, 5, 7, 8, 13, 15の須恵器坏, 1, 6の土師器甕は中央部付近から, 23の須恵器蓋は中央部東側から, 24の須恵器蓋は中央部西側から, 10の須恵器坏は室前部から出土している。5, 20, 21は逆位, 18は斜位の状態で出土している。覆土下層では, 12, 14の須恵器坏が南東コーナー部から, 25の須恵器鉢が中央部東側から19の須恵器蓋が室の東袖部付近から逆位の状態で出土している。床面では, 9の須恵器坏が中央部北西側から, 26の須恵器甕が中央部から正位の状態で出土している。26は覆土中層から出土した破片と接合している。竈内からは, 34の鉄製品が出土している。その他, 覆土中から30の土玉, 31の管状土踵, 32の石製紡錘車が出土している。27は須恵器轆轤部片の拓影図で, 外面に平行叩きが施されている。

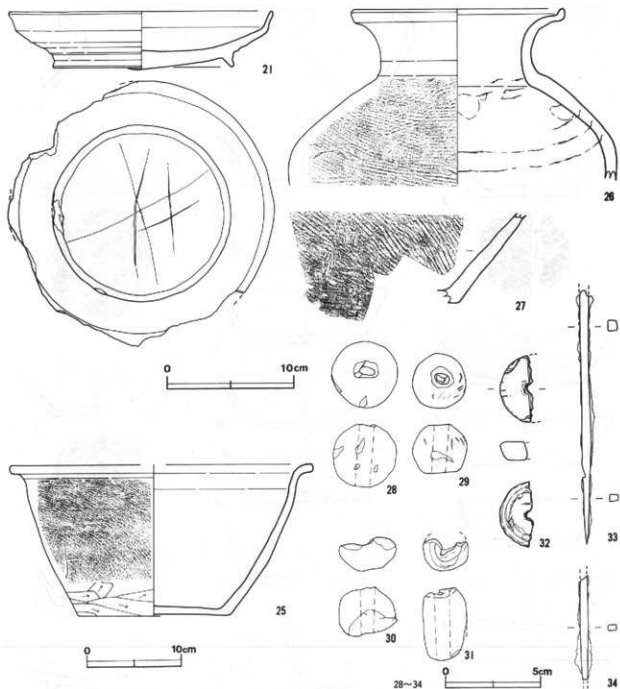
所見 当住居跡は, 覆土下層から床面にかけて焼土塊や炭化材がみられことから, 焼失したと思われる。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

## 第174号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(mm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図	土師器	A 16.2 B (7.9)	底部から口縁部片, 体部は内脷して立ち上がり, 口縁部は外反し, 底部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ, 体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1007 20% 覆土中 PL128
		A 20.2 B (7.8)	底部から口縁部片, 体部は内脷して立ち上がり, 口縁部は外反し, 底部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ, 体部外反ナデ, 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1008 10% 覆土中
3	土師器	B (5.0) C 8.0	底部から体部片, 平底, 体部は内脷して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ, 外面ヘラ削り, 底部木葉板。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1009 10% 覆土中
		A 13.6 B 4.2 C 9.0	底部から口縁部一部欠損, 平底, 体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 底部不定方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1010 90% 覆土中 PL127
5	須恵器	A 14.2 B 4.2 C 8.0	底部から口縁部一部欠損, 平底, 体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 体部下端手持ちヘラ削り, 底部ヘラ削り後, 三方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1011 70% 覆土中 PL127
		A 14.3 B 4.0 C 8.9	底部から口縁部一部欠損, 平底, 体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 体部下端手持ちヘラ削り, 底部不定方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1012 60% 覆土中 PL127
7	須恵器	A [33.2] B 4.6 C 8.4	底部から口縁部片, 平底, 体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 体部下端手持ちヘラ削り, 底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・スロリア 暗灰黄色 普通	P1013 45% 覆土中
		A [14.0] B 4.6 C 8.6	底部から口縁部片, 平底, 体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 体部下端手持ちヘラ削り, 底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1014 35% 覆土中
9	須恵器	A [24.0] B 4.9 C [8.2]	底部から口縁部片, 平底, 体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 体部下端手持ちヘラ削り, 底部ヘラナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P1015 35% 床面 PL127



第217图 第174号住居跡出土遺物実測図(1)



第218図 第174号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図 10	坏 須恵器	A [13.8] B 4.3 C [8.8]	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう削り。底部不定方向のへう削り。	長石・石英 灰黄色 普通	P1016 覆土中 30%
11	坏 須恵器	A [13.2] B 4.0 C 7.4	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り後、ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1017 覆土中 40%
12	坏 須恵器	A [11.0] B 3.7 C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう削り。底部へう削り後、一方のへう削り。	長石・石英 灰黄色 普通	P1018 覆土中 PL127 35%
13	坏 須恵器	A 13.2 B 4.1 C 8.3	体部から口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部回転へう削り後、二方向のへう削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1223 覆土中 PL127 60%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・装成	備考
第217回 14	坏 須恵器	A 12.8	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P1019 30% 覆土中
		B 3.8				
		C 7.0				
15	坏 須恵器	A 13.2	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部下手持ちヘラ削り。底部、両面のヘラ削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	P1020 25% 覆土中
		B 4.2				
		C 7.6				
16	坏 須恵器	A 11.9	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下手持ちヘラ削り。底部一方のヘラ削り。	長石・石英・スコリア色 普通	P1079 80% 覆土中 PL127
		B 3.7				
		C 7.6				
17	高台付坏 須恵器	A 12.0	高台部から口縁部片。高台は長くハの字状に開く。体部は下端に段を持ち、外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。外面自然焼。高台貼付け。	長石・石英 灰黄色 普通	P1021 30% 覆土中 PL127
		B 5.6				
		D 9.2				
		E 1.3				
		F 1.3				
18	高台付坏 須恵器	A 11.0	体部から口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部加板へ切り取後、高台貼付け。	長石・石英・雲母 ぶい黄灰色 普通	P1022 80% コップ形 覆土中 PL128
		B 6.8				
		D 8.0				
		E 1.3				
		F 1.3				
19	壺 須恵器	A 23.0	体部から口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は直筒。内に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部同軸ヘラ削り後、高台貼付け。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P1023 85% 覆土中 PL127
		B 4.2				
		D 13.7				
		E 1.2				
		F 1.2				
20	壺 須恵器	A 121.6	体部から口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は直筒。内に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部同軸ヘラ削り後、高台貼付け。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P1024 80% 覆土中 PL127
		B 4.5				
		D 14.8				
		E 1.1				
		F 1.1				
第218回 21	瓶 須恵器	A 20.9	口縁部一部欠損。直筒はハの字状に開く。体部は直筒的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部加板へ切り取後、高台貼付け。底部ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰ナリブ色 普通	P1251 80% 覆土中 PL127
		B 4.8				
		D 14.1				
		E 1.2				
第219回 22	壺 須恵器	A 119.4	つまみから口縁部片。つまみは擬宝珠形である。天井部は軽く丸く、口縁部は軽く折り返している。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部同軸ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P1025 40% 覆土中
		P 3.2				
		F 2.5				
		G 1.1				
		H 1.1				
23	壺 須恵器	A 20.6	天井部から口縁部片。天井部は軽く丸く、口縁部は軽く折り返している。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部同軸ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰ナリ色 普通	P1027 40% 覆土中
		B 3.3				
		C 3.3				
24	壺 須恵器	D (3.5)	つまみから天井部片。つまみは擬宝珠形である。上部がわずかにくぼむ。天井部は丸い。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部同軸ヘラ削り。内面周縁に自然焼。	長石・石英 灰色 普通	P1026 40% 覆土中
		F 3.6				
		G 1.1				
第218回 25	壺 須恵器	A 31.9	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は軽く外反し、底部は丸い。	口縁部内・外面研ナデ。体部外面斜位の平行研り。内面ナデ。体部下壁手持ちヘラ削り。底部ナデ。	長石・石英・雲母 ナリブ黒色 普通	P1028 70% 覆土中 PL128
		B 13.9				
		C 16.6				
26	壺 須恵器	A 16.6	体部から口縁部片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面研ナデ。体部外面斜位の平行研り。内面ナデ。輪縁み痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1029 50% 床周
		B 16.6				
		C 16.6				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
28	土 玉	3.3	3.5	0.8	37.4	覆土中 DP1001	100% PL167
29	土 玉	2.5	2.9	0.7	19.6	覆土中 DP1002	100% PL167
30	土 玉	(2.5)	(3.0)	(0.8)	(9.6)	覆土中 DP1003	50%
31	管状土 珠	(3.9)	(2.4)	(0.8)	(13.8)	覆土中 DP1004	50%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
32	胡 瓶	2.0	7.2	0.7	(23.8)	敷板別 覆土中	Q1028 PL176

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
33	釘	12.3	0.5	0.5	12.1	覆土中 M1002	95% PL179
34	瓦 織	(3.4)	6.9	0.4	(4.4)	壁内 M1003	95%



### 第175号住居跡 (第219図)

位置 調査区の北東部, E 3 f 0 区。

規模と平面形 斜面部のため南側 3分の2 は確認できなかったため平面形は明確でないが, 残存する壁から一辺が3.80m ほどの方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は8cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 中央部から竈前部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。上部は耕作による攪乱を受けているため, 両袖部と火床部のみ残存している。規模は煙道部から焚き口部まで70cm, 両袖最大幅86cm, 壁外への掘り込みはほとんど見られない。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, わずかに床面を掘りくぼめており, 火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量

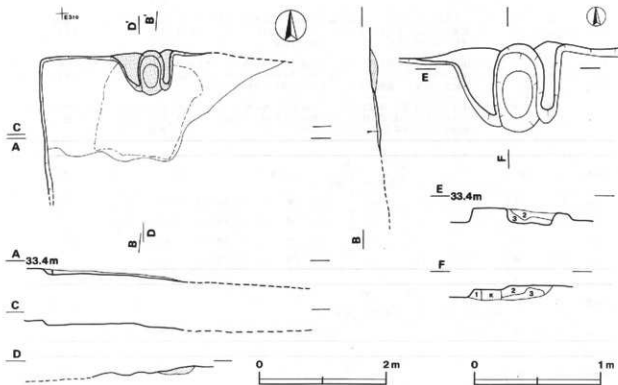
覆土 掘り込みが浅いためほとんど残っていない。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片22点 (坏片2点, 甕片20点) が出土しているが, 細片のみであった。

所見 本跡は, 出土遺物が少ないことから時期不明である。



第219図 第175号住居跡実測図

第176号住居跡（第220図）

位置 調査区の北東部，E 4 a 5 区。

規模と平面形 東側2分の1が調査区域外で，中央部付近に擾乱を受けているため，規模や平面形は明確ではないが，残存した北西壁から一辺が3.50mの方形と推定される。

主軸方向 N-51°-W

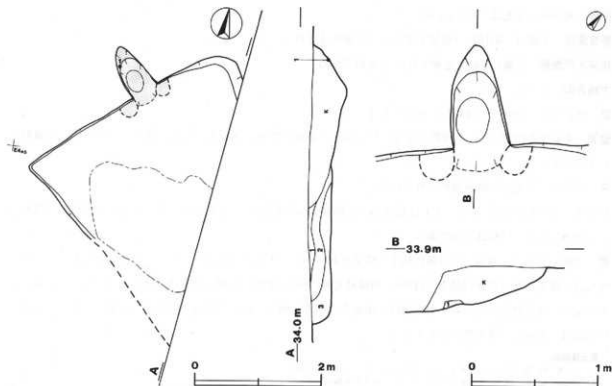
壁 壁高は23~38cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 擾乱のためほとんど残存していないが，中央部に一部踏み固められた部分が見られる。

竈 北西壁中央部に構築されている。耕作による擾乱を受け，火床部と煙道部のみ残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで100cm，両袖最大幅（45）cm，壁外への掘り込みは80cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量



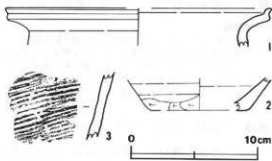
第220図 第176号住居跡実測図

覆土 3層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片93点（坏片4点，甕片89点），須恵器片5点（坏片3点，甕片2点）が出土しているが，ほとん



第221図 第176号住居跡出土遺物実測図

どが細片である。覆土中から、第221図2の須恵器環が出土している。室内からは、1の土師器甕が出土している。3の須恵器甕体部片は外面に平行明きが施されている。

所見 本跡の大部分が9世紀を受け、遺物も細片であるが、遺物から時期は9世紀前葉と考えられる。

第176号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第221図1	土師器 土師器	A [21.0 B [3.0]	頸部から口縁部片。口縁部は外反し、頸部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面縄ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 青褐色	P1030 5% 覆土中
2	須恵器 須恵器	B [2.6 C [7.8]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ、底部下端手持ちヘラ痕あり。	長石・石英 灰青色 青褐色	P1031 5% 覆土中

### 第177号住居跡（第222図）

位置 調査区の北東部、D4g4区。

重複関係 本跡は、第181・182号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.48m、短軸4.12mの方形である。

主軸方向 N-77°-E

壁 壁高は20~46cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下と南壁下の一部を除いて巡っている。上幅16~31cm、下幅8~14cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 2か所（P1、P2）。P1は長径59cm、短径50cmの楕円形、深さ24cmである。P2は径35cmの円形、深さ36cmである。性格は不明である。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで123cm、両袖最大幅110cm、壁外への掘り込みは59cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 甕土層解説

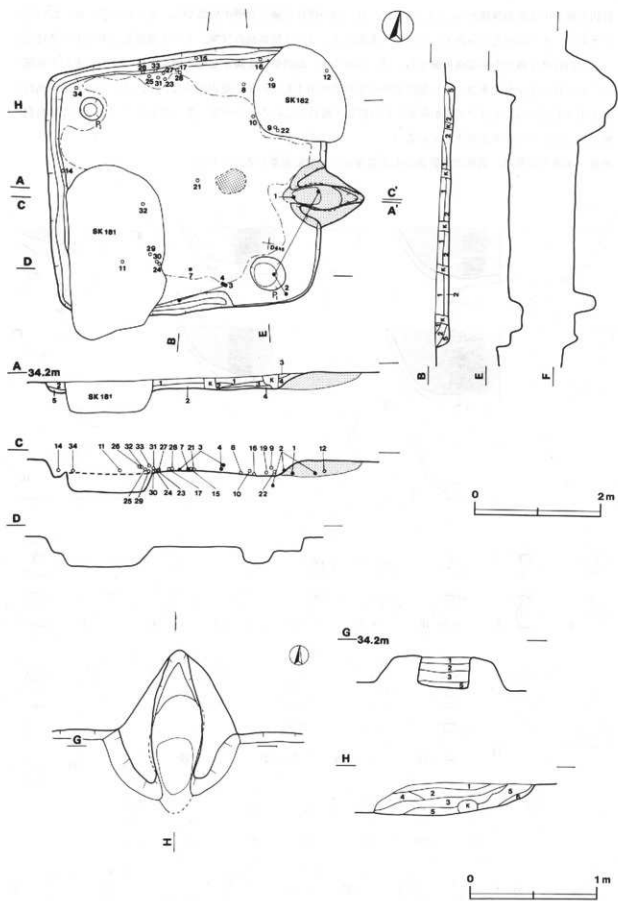
- 1 暗赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量、ローム・粘土粒子微量
- 3 に白い赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土大ブロック・炭化・ローム・粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム・粘土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小・ローム中ブロック微量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量、ローム粒子微量
- 3 灰褐色 焼土・炭化・ローム・粘土粒子微量
- 4 灰褐色 炭化物中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

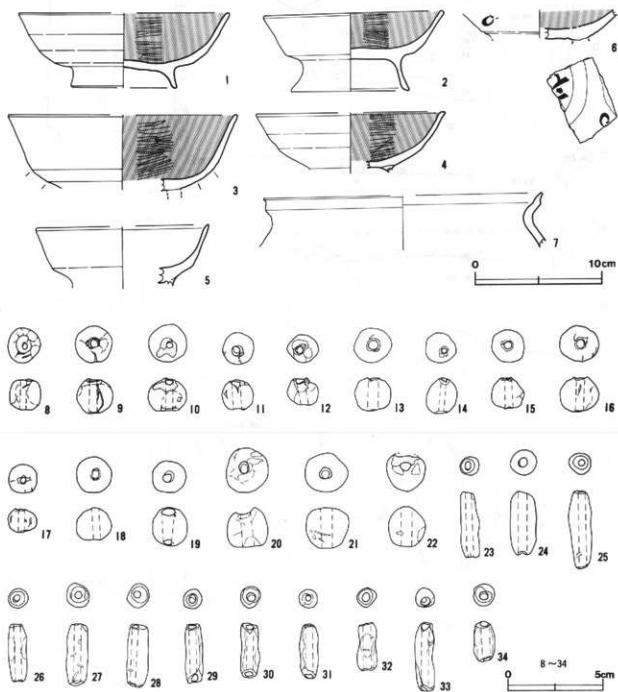
遺物 土師器片350点（坏片168点、甕片182点）、須恵器片22点（高台付坏片1点、蓋片2点、甕片19点）、土師15点、管状土鏝12点、縄文土器片2点が出土している。覆土下層では、第223図4の土師器高台付碗が南壁中央部から、14の土玉が西壁中央部から、34の管状土鏝が北西コーナー部から、11の土玉、24、28、30、32の



第222图 第177号住居跡実測图

管状土鍾が中央部南西側から、23、25~27、31、33の管状土鍾が北壁中央部から、9、10、12、19、22の土玉が北東コーナー部付近から出土している。床面では、3の土師器高台付碗、7の土師器甕が南壁中央部付近から、24の管状土鍾が中央部南西側から、15、17の土玉、28の管状土鍾が北壁中央部から、21の土玉が中央部から、8、16の土玉が北東コーナー部付近からそれぞれ出土している。竈内からは、1、2、5の土師器高台付碗が出土している。2はP1内から出土した破片と接合している。その他、覆土中から4、6の土師器高台付碗、13、18、20の土玉が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第223図 第177号住居跡出土遺物実測図

第177号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第223回 1	高台付椀 土 部 器	A [16.7]	高台部から口縁部片。高台部はハの字状に開く。体部は外壁して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。底部高台貼付け。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1033 40% 壺内 二次焼成
		B 5.9				
		D [ 8.4]				
		E 1.7				
2	高台付椀 土 部 器	A 14.2	高台部一部欠損。高台部はハの字状に長く開く。体部下端に稜を持ち。体部は外壁して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。底部四角糸切り後、高台貼付け。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通	P1032 90% 床面 FL128 二次焼成
		B 6.3				
		D 9.3				
		E 2.8				
3	高台付椀 土 部 器	A [18.2]	底部から口縁部片。高台割離。体部は内壁して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。体部下端面へラ磨き。高台貼付け。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通	P1034 30% 床面 二次焼成
		B ( 6.0)				
4	高台付椀 土 部 器	A [15.0]	底部から口縁部片。高台割離。体部から口縁部にかけて内壁して立ち上がる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母 スコリア 明赤褐色 普通	P1035 25% 覆土中 二次焼成
		B ( 4.7)				
5	高台付椀 土 部 器	A [13.6]	底部から口縁部片。高台割離。体部は内壁して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。高台貼付け。	長石・雲母・スコリア に白い褐色 普通	P1036 10% 壺内 二次焼成
		B ( 4.7)				
6	高台付椀 土 部 器	B ( 2.3)	底部から体部片。高台割離。体部はわずかに内壁して立ち上がる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。体部外面と底部に帯赤。	長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P1037 10% 覆土中
		A [22.0] B ( 4.3)				
7	変 土 部 器	A [22.0] B ( 4.3)	頸部から口縁部片。口縁部は外反し。頸部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面研ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリア に白い褐色 普通	P1038 5% 床面

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考	
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)			
8	土 瓦	1.9	1.9	0.3	4.7	床 面	DP1005	100% PL168
9	土 瓦	1.9	2.0	0.4	5.8	覆 土 中	DP1006	100% PL168
10	土 瓦	1.7	2.0	0.4	5.8	覆 土 中	DP1007	100% PL168
11	土 瓦	1.5	1.7	0.5	3.3	覆 土 中	DP1008	100% PL168
12	土 瓦	1.5	1.6	0.4	2.8	覆 土 中	DP1009	100% PL168
13	土 瓦	1.7	2.0	0.5	4.6	覆 上 中	DP1010	100% PL168
14	土 瓦	1.8	1.7	0.3	4.5	覆 土 中	DP1011	100% PL168
15	土 瓦	1.6	1.7	0.4	4.0	床 面	DP1012	100% PL168
16	土 瓦	1.8	2.0	0.4	6.1	床 面	DP1013	100% PL168
17	土 瓦	1.3	1.5	0.3	2.7	床 面	DP1014	100% PL168
18	土 瓦	1.8	1.9	0.4	4.7	覆 土 中	DP1015	100% PL168
19	土 瓦	2.1	2.1	0.6	4.9	覆 土 中	DP1016	100% PL168
20	土 瓦	2.1	2.2	0.5	6.8	覆 上 中	DP1017	100% PL168
21	土 瓦	2.2	2.3	0.6	7.9	床 面	DP1018	100% PL168
22	土 瓦	2.2	2.0	0.6	6.1	覆 土 中	DP1019	100% PL168
23	管状土器	3.5	1.0	0.3	3.3	覆 土 中	DP1020	100% PL170
24	管状土器	3.4	1.4	0.5	5.0	床 面	DP1021	100% PL170
25	管状土器	4.1	1.2	0.3	4.7	覆 土 中	DP1022	100% PL170

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考		
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第233図	管状土器	3.1	1.1	0.4	3.0	覆土中	DP1023	100%	PL170
27	管状土器	3.3	1.2	0.4	4.7	覆土中	DP1024	100%	PL170
28	管状土器	3.4	1.2	0.4	4.3	床面	DP1025	100%	PL170
29	管状土器	3.2	1.0	0.4	3.0	覆土中	DP1026	100%	PL170
30	管状土器	2.9	1.1	0.4	3.1	覆土中	DP1027	100%	PL170
31	管状土器	2.9	1.1	0.4	2.6	覆土中	DP1028	100%	PL170
32	管状土器	2.6	1.1	0.4	2.5	覆土中	DP1029	100%	PL170
33	管状土器	3.6	1.1	0.4	3.3	覆土中	DP1030	100%	PL170
34	管状土器	2.1	1.2	0.4	2.4	覆土中	DP1031	100%	PL170

### 第178号住居跡 (第224図)

位置 調査区の北部、D4e2区。

規模と平面形 長軸5.25m、短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は24~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅15~34cm、下幅3~15cm、深さ6~15cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口から竈前方部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径56~80cm、短径56~68cmの楕円形、深さ78~88cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径50cm、短径40cmの楕円形、深さ48cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部は、耕作により攪乱を受け残存していない。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から吹き口部まで128cm、両袖最大幅156cm、壁外への掘り込みは29cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 焼土・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 におい黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 4 暗 赤 褐色 焼土粒子中量、炭化・粘土粒子少量
- 5 黒 褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量
- 6 暗 赤 褐色 焼土粒子多量

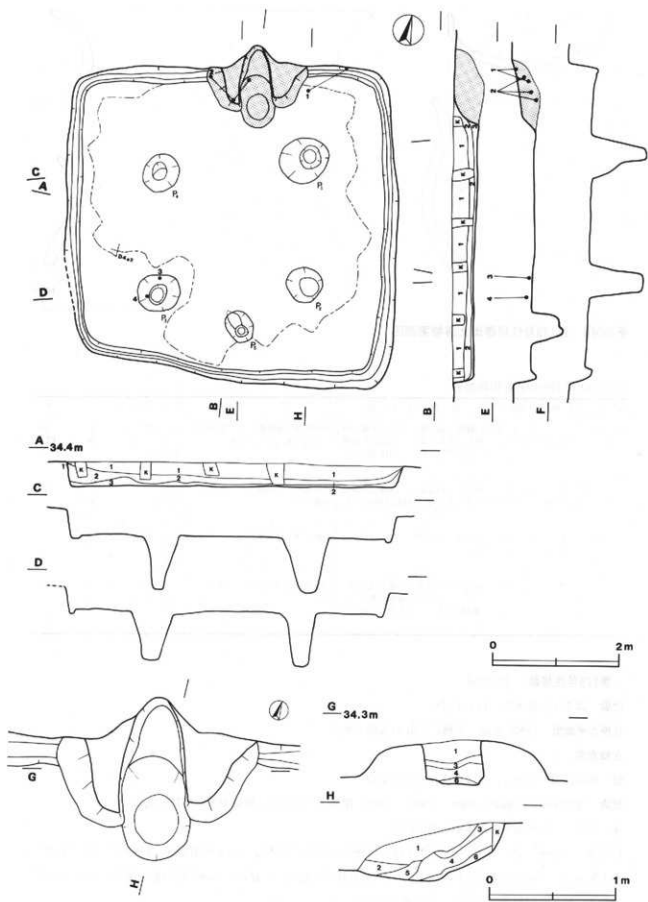
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム小ブロック微量

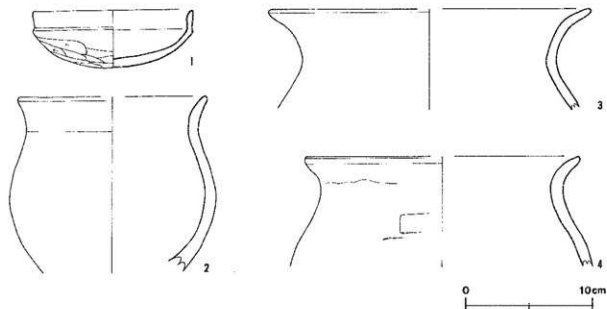
遺物 土師器片349点(坏片66点、壺片283点)、須恵器片13点(坏片11点、高台付坏片2点)、弥生土器片1点が出土している。覆土下層では、第225図1の土師器坏が北東コーナー部から正位の状態、4の土師器甕が中央部南西側から出土している。床面では、3の土師器甕が中央部南西側から出土している。竈の西袖内からは、2の土師器甕が出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。



第224图 第178号住居跡实测图





第225図 第178号住居跡出土遺物実測図

第178号住居跡出土遺物観察表

図版番号	部 材	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第225図 1	環 土 師 器	A 12.4 B 4.5	口縁部・部欠損。丸底。体部は内 脣して立ち上がり。口縁部との境 に明瞭な線を待つ。口縁部は直立 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り後、ナデ、内面ナデ。	長石・雲母・スコ リア 明赤褐色 普通	P1039 95% 覆土中 P1128
2	壺 土 師 器	A 15.1 B (13.9)	体部から口縁部片。体部は内脣し て立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石 明褐色 小瓦	P1041 45% 壺内 器面欠れ
3	壺 土 師 器	A [25.6 B (8.0)]	頸部から口縁部片。口縁部は外反 する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 藍色 小瓦	P1042 3% 床面
4	壺 土 師 器	A [21.6 B (8.7)]	体部から口縁部片。体部は内脣し て立ち上がり。口縁部は外反し、 頸部は上方につまみ上げられてい る。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ ナデ。	長石・石英・雲母 に濃い黄褐色 普通	P1043 10% 覆土中

第179号住居跡（第226図）

位置 調査区の北東部、D4d4区。

規模と平面形 長軸7.80m、短軸7.75mの方形である。

主軸方向 N-0°

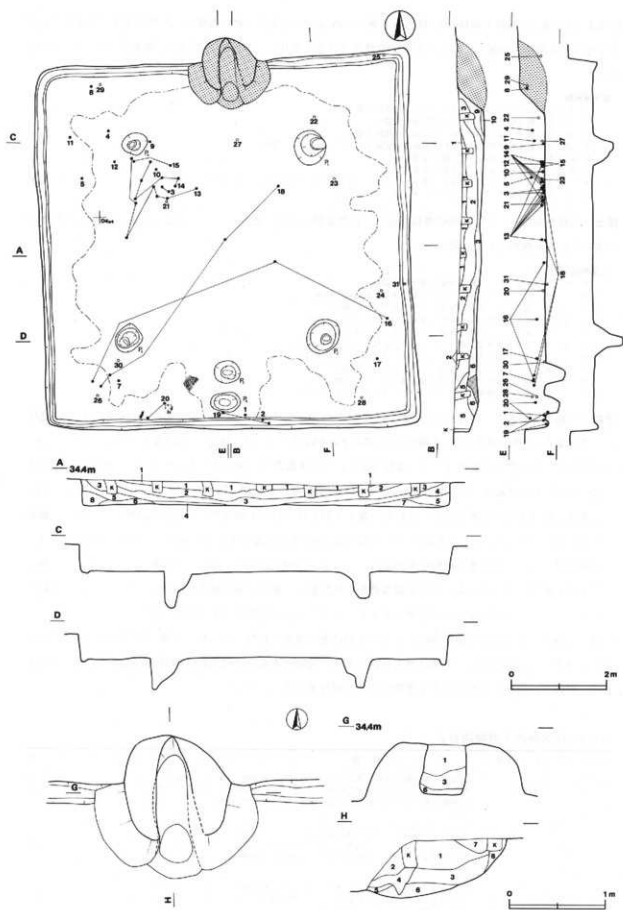
壁 壁高は51～55cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

礎溝 全周する。上幅16～38cm、下幅6～16cm、深さ3～10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は、長径56～71cm、短径50～65cmの楕円形、深さ42～79cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5、P6は長径55～62cm、短径40～46cmの楕円形、深さ32～41cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は、煙道部から突き



第226图 第179号住居跡実測图

11部まで152cm、両袖最大幅169cm、壁外への張り込みは50cmである。袖の内壁は、火熱を受けて変染している。火床部は、床面を8cm張りくぼめており、火熱を受け変染化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化・粘土粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 焼土・ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量
- 7 褐色 焼土・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化・ローム粒子微量、焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 8 茶褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 10層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。北西コーナー部から南壁にかけての床面に焼土塊や炭化物が検出されている。

#### 土層解説

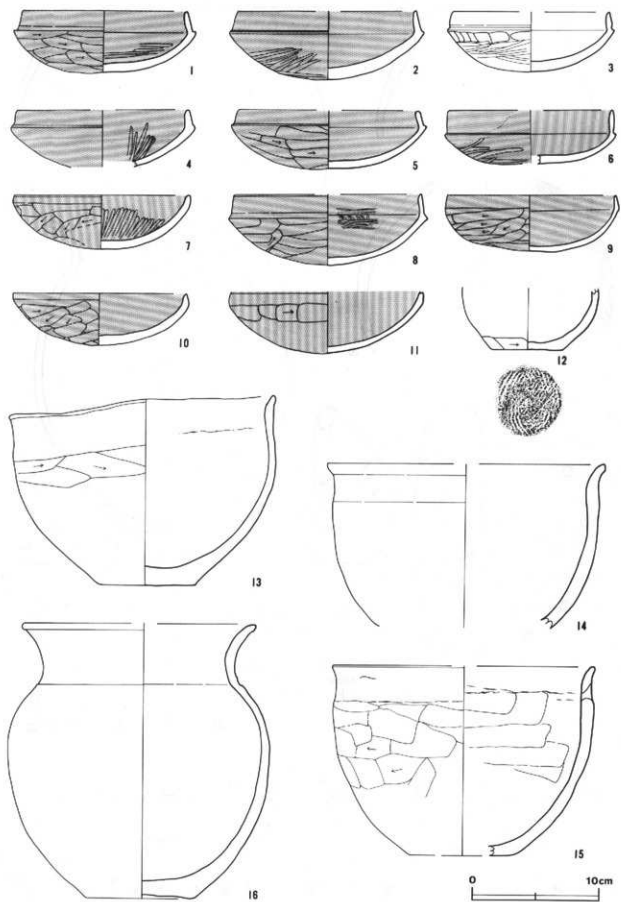
- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 焼土・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 褐色 炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 7 褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 8 褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム小ブロック微量
- 9 褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 10 赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量、粘土粒子微量

遺物 土師器片1235点（坏片317点、甕片916点、ミニチュア土器片2点）、須恵器片20点（坏片14点、甕片6点）、土瓦9点、土製紡錘車1点、鉄製釘1点、鉄滓25gが出土している。第227, 228両覆土中層では、4, 5, 8, 11の上師器坏、29の土玉が北西コーナー部付近から、7の土師器坏、26の土玉が南西コーナー部から、17の上師器甕、28の土玉が南東コーナー部付近から、20の須恵器提瓶が南壁部の南西コーナー部寄りから出土している。7は逆位、11は正位の状態です。覆土下層では、13の上師器鉢が中央部北西側から、16の上師器甕が中央部から、22, 25の土玉が北東コーナー部から、27の土玉が竈前部から出土している。床面では、1, 2の土師器坏、19の上師器甕が南壁中央部から、3, 9, 10の上師器坏、12の上師器碗、14, 15の上師器鉢、21の土玉が北西コーナー部から、18の上師器甕が中央部から、30の土製紡錘車が南西コーナー部付近から出土している。1~3, 9, 10は正位の状態です。6の上師器坏はP2内から出土している。

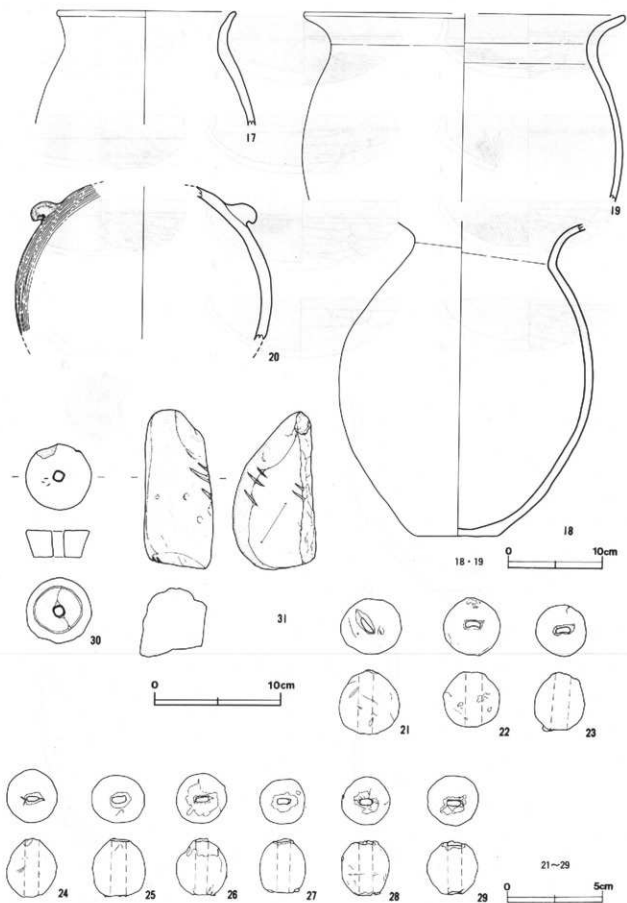
所見 北西コーナー部から南壁部にかけての床面に焼土塊や炭化材がみられ、遺物の大部分は焼土上面から出土している。このことから、本跡は焼失住居であり、遺物の大部分は焼失後北西側から投棄されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

第179号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227号 1	土師器 坏	A 13.1 B 5.6	口縁部一部欠損。丸底。体部に内磨して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な線を伴う。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り後、へラ磨き、内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P1944 98% 床面 PL128
2	土師器 坏	A [14.2] B 5.5	底部から口縁部片。丸底。体部に内磨して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な線を伴う。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り後、へラ磨き、内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 赤褐色 普通	P1045 70% 床面 PL128
3	土師器 坏	A [12.5] B 4.7	体部から口縁部欠損。丸底。体部に内磨して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な線を伴う。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り後、へラ磨き、内面ナデ。	雲母・スコリア 赤褐色 普通	P1046 85% 床面 PL128



第227图 第179号住居跡出土遺物実測図(1)



第228图 第179号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徵	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227回 4	坏土師器	A [13.6] B (4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ、内面へつ削ぎ。内・外面黒色処理。	石英・雲母・針状鉱物 にふい橙色 普通	P1049 35% 覆土中 内外面摩滅
5	坏土師器	A [14.4] B 4.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	石英・雲母 黒褐色 普通	P1047 45% 覆土中
6	坏土師器	A [13.0] B 4.2	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ヘラ磨き。内面ナデ、外面黒色処理。内面うるし仕上げ。	長石・雲母 黒褐色 普通	P1050 40% ビツ内 PL128
7	坏土師器	A 13.8 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ヘラ磨き。内面へつ削ぎ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア・針状鉱物 黄灰色 不良	P1051 90% 覆土中 PL128 外面摩滅
8	坏土師器	A [14.8] B 3.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ後、ヘラ磨き。体部内面へつ削ぎ。外面黒色処理。内・外面黒色処理。	雲母 黒色 普通	P1048 40% 覆土中
9	坏土師器	A 13.2 B 4.5	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1052 90% 床面 PL128
10	坏土師器	A 13.6 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ヘラ磨き。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒色 不良	P1053 80% 床面 PL128 内面摩滅
11	坏土師器	B (4.8)	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 灰褐色 普通	P1054 75% 覆土中 PL128 口縁部摩滅
12	甗土師器	B (4.9) C 3.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部下端へつ削り。底部縁毛目。	長石・石英・雲母 藍色 普通	P1055 53% 床面
13	鉢土師器	A 21.0 B 15.0 C 7.6	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ、内面ナデ。	長石・石英・雲母 藍色 普通	P1056 80% 覆土中 PL129 外面荒れ 2次焼成
14	鉢土師器	A 21.8 B (13.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 藍色 普通	P1057 80% 床面 PL129 外面荒れ 2次焼成
15	鉢土師器	A [20.6] B 15.0 C 8.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ、内面へつ削ぎ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P1058 40% 床面 内面底煤付着
16	甗土師器	A [18.5] B 21.8 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1059 80% 覆土中 PL129 内外面摩滅
第228回 17	甗土師器	A 14.2 B (9.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1060 25% 床面 PL128 2次焼成
18	甗土師器	B (34.0) C 8.3	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 藍色 普通	P1061 60% 床面 PL129 2次焼成
19	甗土師器	A [33.8] B (19.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ内面へつ削ぎ。	長石・石英・雲母 藍色 普通	P1062 25% 床面
20	埴輪土師器	B (12.0)	体部片。体部は丸く、肩部に把手が付く。	体部外面カキ目調整。	長石・石英・小石 灰色 良好	P1063 5% 覆土中

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第229図1	上 玉	3.3	3.2	0.5	27.7	床 面	DP1032 100% PL168
22	土 玉	2.9	3.0	0.9	23.9	覆 土 中	DP1033 100% PL168
23	土 玉	3.0	2.6	0.9	19.9	覆 土 中	DP1034 100% PL168
24	土 玉	3.1	2.7	0.7	20.8	覆 土 中	DP1035 100% PL168
25	土 玉	3.1	2.8	0.8	20.5	覆 土 中	DP1036 100% PL168
26	土 玉	3.0	2.6	0.7	18.3	覆 土 中	DP1037 100% PL168
27	土 玉	2.8	2.4	0.7	16.6	覆 土 中	DP1038 100% PL168
28	土 玉	2.9	2.6	0.7	17.2	覆 土 中	DP1039 100% PL168
29	上 玉	2.8	2.7	0.7	17.9	覆 土 中	DP1040 100% PL168

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		径 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
30	紡 錘 車	5.2	2.2	0.9	55.8	床 面	DP1041 95%

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
31	張 石	12.6	6.9	3.3	338.5	砂 岩 覆 土 中	Q1002

#### 第181A号住居跡 (第229図)

位置 調査区の北東、D4a3区。

重複関係 本跡が、第181B号住居跡の北側を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.26m、短軸4.65mの長方形である。

主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は17~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部を除いて巡っている。上幅15~30cm、下幅6~17cm、深さ4~9cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部は、耕作により一部攪乱を受けている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで108cm、両袖最大幅160cm、取外への掘り込みは31cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をほとんど掘りくぼめてなく、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

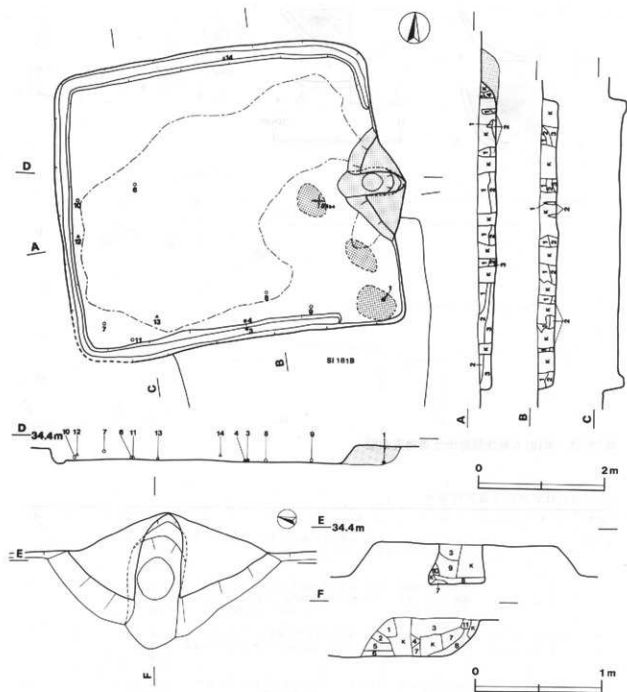
#### 遺土層解説

- 1 褐 灰 色 焼土・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 2 褐 灰 色 ローム小ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 3 灰 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 4 灰 褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 5 褐 褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 7 暗 赤 褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量、灰少量
- 8 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土中量、粘土粒子・灰少量
- 9 暗暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 10 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、粘土粒子・灰少量
- 11 暗 暗 褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量

覆土 4層からなるが、耕作による攪乱を受けているため、堆積状況は明確でない。

#### 土層解説

- 1 暗 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量、焼土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量
- 4 灰 褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量、焼土中ブロック微量

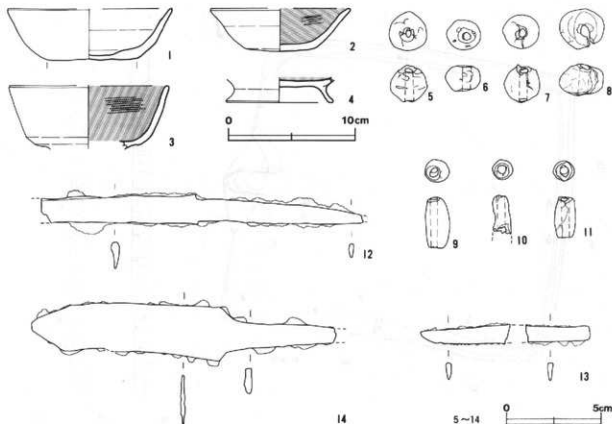


第229図 第181A号住居跡実測図

**遺物** 土師器片206点（坏片35点，高坏片7点，甕片164点），須恵器片95点（坏片61点，高台付坏片10点，盤片1点，蓋片1点，甕片22点），土玉4点，管状土錘3点，刀子2点が出土している。覆土下層では，第230図7の土玉が南西コーナー部から，10の管状土錘，12の刀子が西壁部から，14の刀子が北壁部から出土している。床面では，1の土師器坏が南東コーナー部から，3，4の土師器高台付坏が南壁部から，6の土玉が中央部西側から，8の土玉，9の管状土錘が中央部南西側から，11の管状土錘，13の刀子が南西コーナー部付近から出土している。なお，土師器片の中には，古墳時代の遺物が含まれているが，これらは本跡が古墳時代の住居跡を掘り込んでいるためである。その他，覆土中から2の土師器坏，5の土玉が出土している。

**所見** 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。





第230図 第181A号住居跡出土遺物実測図

第181A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・変成	備考
第230図 1	坏土 土器	A [13.0]	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナテ。底部回転ヘタ切り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1064 65% 床面 PL229
		B 4.1				
		C 7.2				
2	坏土 土器	A [11.0]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナテ。体部内面ヘラ磨き。底部不定方向のヘラ削り。内面黒色処理。	石英・雲母 灰色 普通	P1065 25% 覆土中
		B 3.5				
		C [5.6]				
3	高台付坏土 土器	A [12.6]	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナテ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。普通	石英・雲母 明黄褐色	P1066 25% 床面
		B (5.0)				
4	高台付坏土 土器	B (2.0)	高台部から体部片。高台は長くハの字状に開く。	体部内面ヘラ磨き。高台貼付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P1067 20% 床面
		D 8.5				
		E 1.1				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
5	土玉	1.9	2.1	0.3	5.5	覆土中	DP1042	100%	PL168
6	土玉	1.4	1.8	0.4	3.2	床面	DP1043	100%	PL168
7	土玉	1.9	1.9	0.4	4.3	覆土中	DP1044	100%	PL168
8	土玉	1.6	2.3	0.5	6.2	床面	DP1045	100%	
9	管状土鏝	2.7	1.3	0.4	3.8	床面	DP1046	100%	PL170
10	管状土鏝	(2.1)	1.1	0.4	(1.5)	覆土中	DP1047	50%	PL170
11	管状土鏝	2.2	1.1	0.4	2.2	床面	DP1048	100%	PL170

試品番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
志23442	刀	子 (16.7)	1.2	0.5	(25.7)	覆 土 中	M1004	95% PL177
13	刀	子 (8.9)	1.0	0.3	(6.3)	床	M1006	95% PL177
14	刀	子 (16.1)	3.1	0.8	(26.9)	覆 土 中	M1007	95% PL177

### 第181B号住居跡 (第231区)

位置 調査区の北東、D4b3区。

重複関係 本跡は、北側を第181A号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.10m、短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は55～63cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

礎溝 全例する。上幅13～30cm、下幅4～10cm、深さ4～11cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部は、耕作により攪乱を受けており、残存していない。天井部は崩落している。規模は、煙道部から焚き口部まで89cm、両袖最大幅131cm、壁外への掘り込みは17cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を17cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。

#### 竈土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 に近い褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 に近い褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 褐 灰色 粘土粒子多量、焼土粒子微量
- 5 褐 灰色 粘土粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 6 灰 褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 7 灰 褐色 粘土粒子少量、焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック少量
- 8 暗褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土中・小ブロック・焼土粒子微量
- 10 灰 赤色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量

覆土 13層からなり、ローム中・小ブロック、ローム粒子を含む層が多く見られることから人為堆積と考えられる。

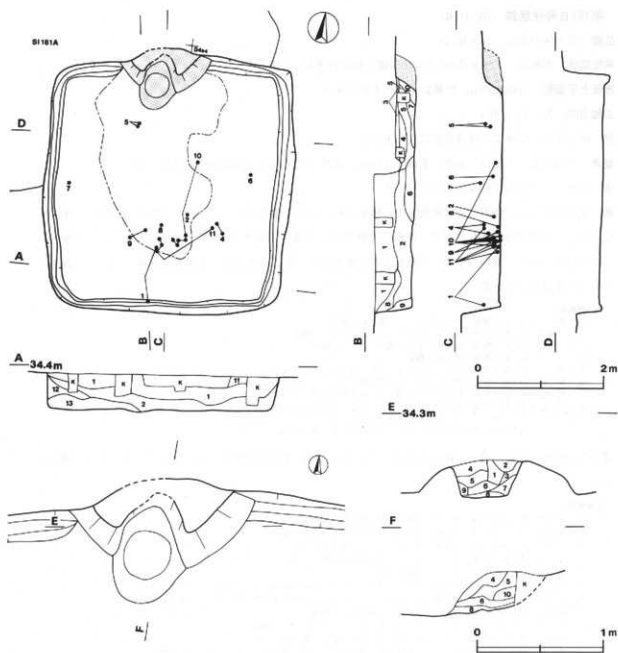
#### 土層解説

- 1 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック多量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 4 赤 褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック中量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗 褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 7 暗 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 8 暗 褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 9 暗 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 10 灰 褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 11 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 12 暗 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片378点 (坏片104点、高坏片1点、甕片272点、甗片1点)、鉄滓20gが出土している。覆土中層では、第232図7の上師器坏が中央部西側から出土している。覆土下層では、1、2の土師器坏、9の土師器鉢が中央部南側から、6の土師器坏が中央部東側から、4の土師器坏が中央部南東側から、5の土師器坏が電筒方部から出土している。1、4、5は覆土中層から出土した破片と接合している。1は逆位の状態で出土している。床面では、8の土師器坏、10の土師器甕、11の土師器甗が中央部南側から出土している。10、11は

覆土下層から出土した破片と接合している。その他、覆土中から3の土師器が出土している。

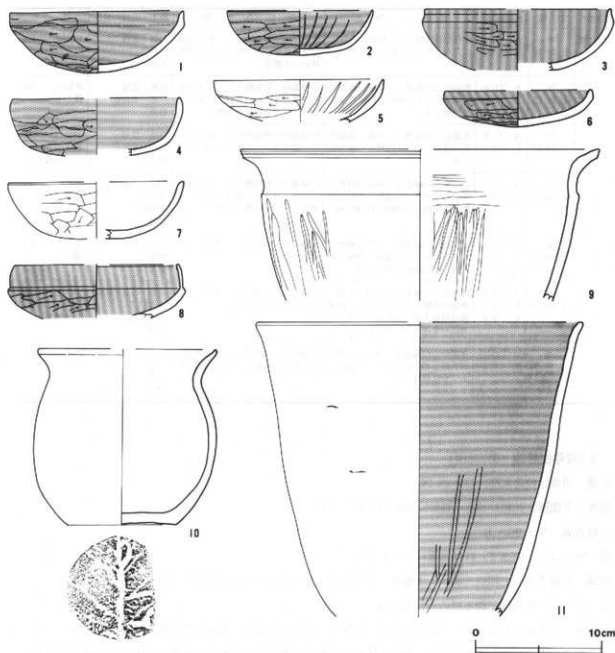
所見 本跡は、人為的に埋め戻されており、遺物が南壁側の中層から床面にかけて出土していることから、埋め戻す際に南壁から投棄されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第231図 第181B号住居跡実測図

第181B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.7	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内増して立ち上がり、口縁部は直立して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	石英・雲母・スコリア に灰い黄褐色 普通	P1068 95% 覆土中 PL129



第232図 第181B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第232図 2	坏 土師器	A [11.6] B 3.5	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内壁して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面放射状のへラ磨き。内・外面黒色処理。	石英・雲母・スコリア にふい黄褐色 普通	P1069 45% 覆土中 PL129
3	坏 土師器	A [15.0] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は内積して立ち上がり、端部は上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	石英・雲母 灰黄褐色 普通	P1070 45% 覆土中 二次焼成
4	坏 土師器	A [13.2] B (4.5)	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内壁して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。外面輪積み痕。	雲母 にふい黄褐色 普通	P1072 35% 覆土中

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図 5	坏 土師器	A 3.4 B (3.49)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ヘラ磨き。内面放射状のへら磨き。	石灰・雲母・棕色 普通	P1074 履土中
6	坏 土師器	A 111.8 B 2.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は斜く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ヘラ磨き。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	石灰・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1071 履土中 二次焼成
7	坏 土師器	A 13.4 B (3.4)	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ヘラ磨き。内面ナデ。	石灰・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1075 履土中 二次焼成
8	坏 土師器	A 12.6 B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ヘラ磨き。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	石灰・雲母・スコリア 深紫色 普通	P1073 床面
9	鉢 土師器	A 28.4 B (12.1)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面へラ磨き。	長石・石灰・雲母 褐色 普通	P1077 履土中
10	甕 土師器	A 14.1 B 14.9 C 8.6	体部から口縁部片。無蓋式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。肩部はわずかに上方にまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。底部木製痕。	長石・石灰・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1076 床面 PI.129 二次焼成
11	甕 土師器	A 25.6 B (23.4)	体部から口縁部片。無蓋式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。先部外面ナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	長石・石灰・スコリア にぶい黄褐色 普通	P1078 床面

### 第182号住居跡 (第233図)

位置 調査区の北東部、D4c6区。

規模と平面形 長軸5.43m、短軸5.33mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は60~68cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅22~36cm、下幅8~22cm、深さ42~59cmで、断面形はU字状である。

床 平円で、中央部が踏み固められている。

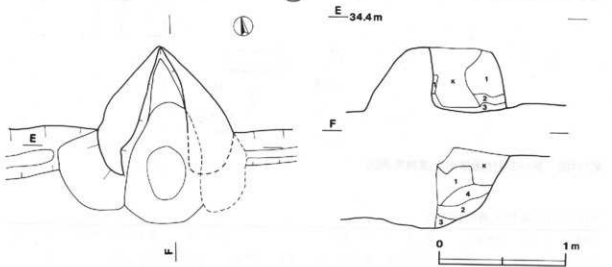
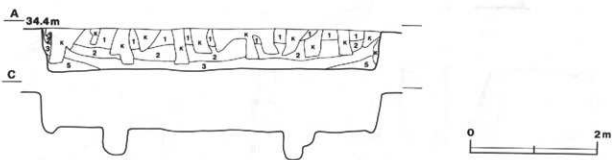
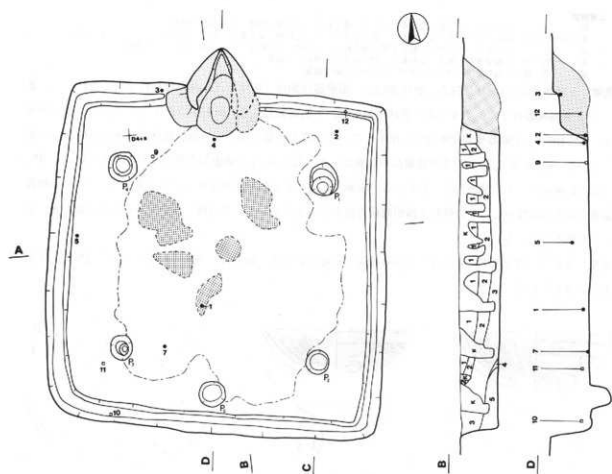
ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径49~52cm、短径35~47cmの楕円形、深さ42~59cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径41cmの円形、深さ32cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。規模は、煙道部から吹き口部まで140cm、両袖最人幅147cm、壁外への掘り込みは66cmである。竈の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を10cm圍りくはめており、火熱を受けが変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 甕土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化・ローム粒子微量
- 3 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大・中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土・炭化粒子微量

甕土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。中央部の床面に、5か所の焼土塊が検出されている。



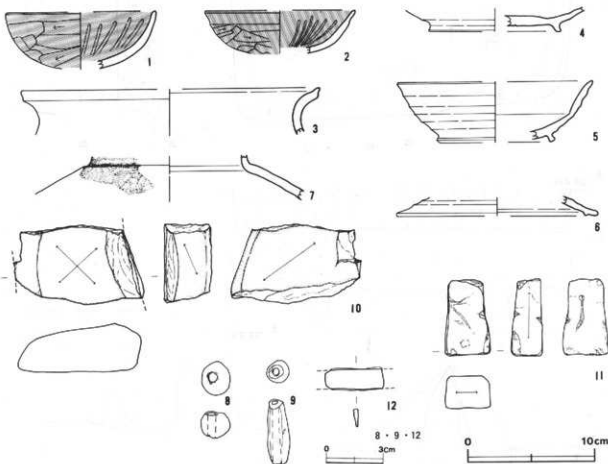
第233图 第182号住居跡実測图

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物・炭化・ローム粒子微量  
 2 赤褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子微量  
 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量  
 4 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量  
 5 褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片367点（坏片76点、甕片291点）、須恵器片30点（坏片11点、高台付坏片3点、蓋片5点、甕片11点）、灰釉陶器片1点、土玉1点、管状土錘1点、不明鉄製品1点、砥石1点が出土している。覆土上層では、第234図3の土師器甕が北壁部から出土している。覆土中層では、5の須恵器高台付坏が西壁部から出土している。覆土下層では、12の不明鉄製品が北東コーナー部から、4の須恵器高台付坏が竈の前方部から、10、11の砥石が南西コーナー部から出土している。床面では、2の土師器坏が北東コーナー部から、7の灰釉陶器短頸壺が中央部南側から、9の管状土錘が竈前方部から出土している。その他、覆土中から6の須恵器蓋、8の土玉が出土している。

所見 本跡は、焼土塊がみられることから焼失の可能性がある。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀末葉と考えられる。



第234図 第182号住居跡出土遺物実測図

第182号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第234図 1	坏 土師器	A [11.8] B (4.5)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内押しで立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ刷り後、ヘラ磨き。内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P1080 覆土中 25%

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第234図 2	坏 土胎器	A 111.8 B (3.4)	胴部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり。口縁部との境に條を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面滑ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き、内面放射状のへラ磨き、内・外面黒色焼成。	灰石・雲母 灰黄色 普通	P1081 30%
3	土胎器	A [23.6] B (3.7)	胴部から口縁部片。口縁部は外反する。口縁部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。	灰石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1082 5%
4	高台付坏 須恵器	B (1.9) D [10.4] E 0.5	高台部から体部片。高台は短くハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼付け。	灰石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1083 36%
5	高台付坏 須恵器	A [15.4] B 4.8 D [8.7] E 0.6	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼付け。	灰石・石英 オリーブ色 普通	P1084 15%
6	香 灰器	A [16.0] B (1.5)	口縁部片。口縁部はわずかに外反し内面に短いかえりを持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	灰石・石英・雲母 灰色 普通	P1086 5%
7	須 恵器	B (3.0)	体部から頸部片。体部はわずかに内脣し、頸部はほぼ垂直に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。外面自然釉。	灰石 灰色 普通	P1087 5%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	径(cm)	口径(cm)	重量(g)			
8	土 胎器	1.5	1.7	0.5	3.3	覆土中	DP1049	100% PL168
9	片状土 胎器	3.5	1.2	0.4	4.5	床面	DP1050	100% PI.170

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
10	灰 石	(6.2)	(9.3)	(3.7)	(279.6)	安山岩	覆土中	Q1043	PL175
11	灰 石	6.0	3.5	2.5	69.3	粘板岩	覆土中	Q1004	PL174

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	不明	(3.1)	1.2	0.3	(2.9)	覆土中	M1008	95%

### 第183A号住居跡(第235・236図)

位置 調査区の北部、C4 j3区。

重複関係 当初1軒の住居跡として調査したが、床、柱穴、竈の確認状況から2回の建て替えが行われた3軒の住居跡と考えられた。新しいものから第183A・第183B・第183C号住居跡と呼称する。第1回目は、第183B号住居跡が第183C号住居跡の外側に新たに主柱穴を掘り込んでいることから、第183C号住居跡を建て替えた可能性がある。第2回目は、第183A号住居跡が第183B号住居跡の4方の壁を掘り込み、竈、床、柱穴を新たに構築していることから、第183C号住居跡を拡張して建て替えた可能性がある。

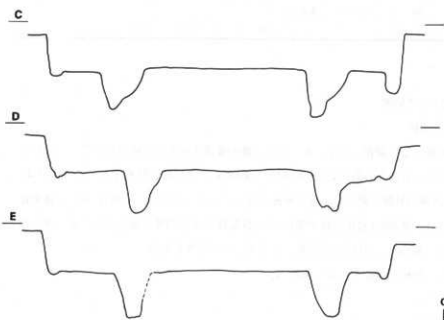
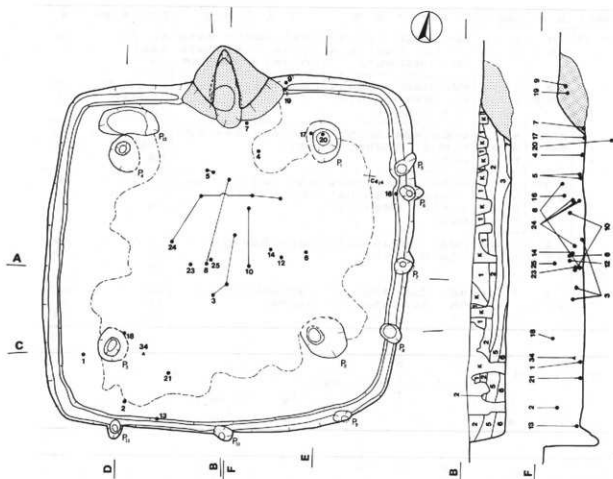
規模と平面形 長軸5.72m、短軸3.65mの方形である。

主軸方向 N-9°-W

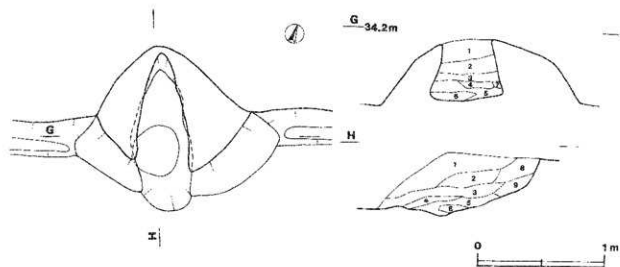
壁 壁高は55~73cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅15~31cm、下幅8~16cm、深さ6~14cmで、断面形はじ字状である。





第235图 第183A号住居跡実測图(1)



第236図 第183A号住居跡実測図(2)

床 平床で、中央部が踏み固められている。

ピット 12か所 (P1~P12)。P1~P4は、長径60~65cm、短径52~64cmの楕円形、深さ55~68cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5~P11は、長径28~42cm、短径16~26cmの楕円形、深さ16~29cmである。規模と配列から補助柱穴と考えられる。P12は長径92cm、短径46cmの楕円形、深さ10cmである。覆土には焼土、粘土粒子等を含んでいることから、竈に関連する施設と思われる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は灰化した粘土材がブリッジ状に残存していた。規模は、煙道部から焚き口部まで132cm、両袖最大幅157cm、壁外への掘り込みは57cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

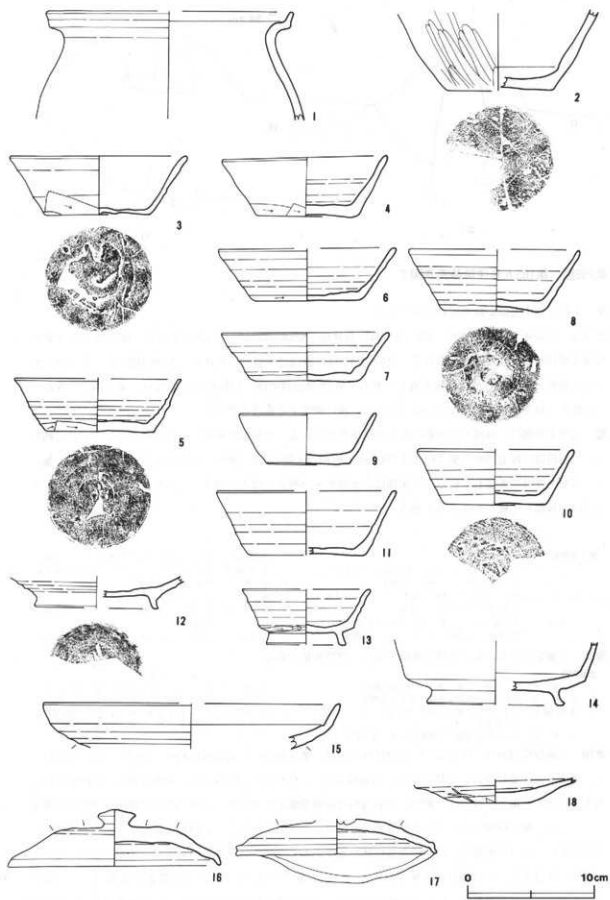
- |        |   |        |                          |
|--------|---|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色  | 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒少量       | 4 雑褐色  | 粘土粒中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量     |
| 2 暗褐色  | 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量       | 5 灰赤褐色 | 灰多量、焼土中・小ブロック中量、粘土粒子少量   |
| 3 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・粘土粒中量、焼土小ブロック・焼土粒子・灰少量、ローム小ブロック微量 | 6 赤褐色  | 焼土小ブロック多量                |
|        |   | 7 灰褐色  | 粘土粒多量                    |
|        |   | 8 雑灰色  | 粘土粒中量、焼土中・小ブロック少量、焼土粒子微量 |
|        |   | 9 暗赤褐色 | 焼土粒中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量    |

覆土 7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

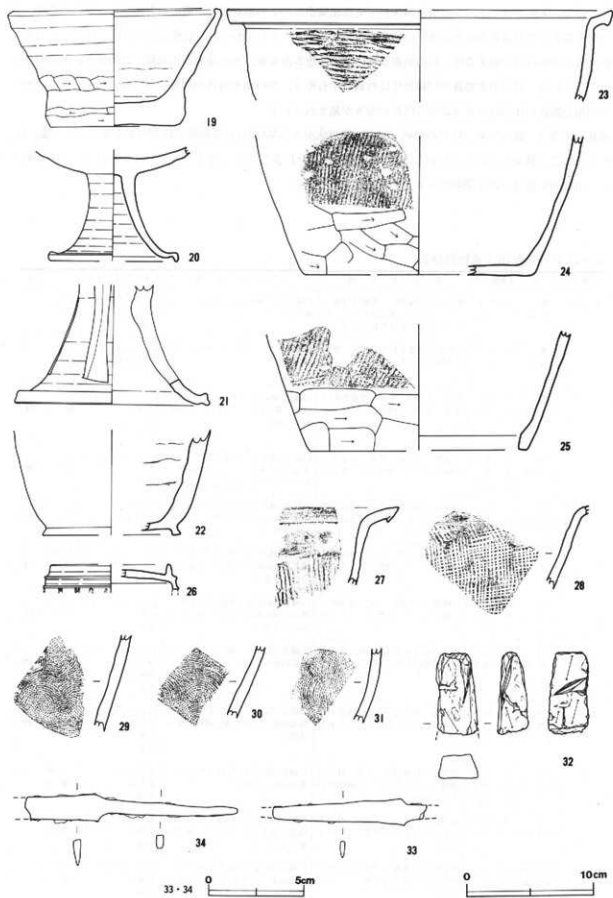
土層解説

- |        |                            |        |                           |
|--------|----------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量          |        | ム小ブロック微量                  |
| 2 暗褐色  | 炭化・ローム粒子少量、焼土粒微量           | 5 暗褐色  | 炭化・ローム粒子少量、焼土粒・ローム小ブロック微量 |
| 3 雑暗褐色 | 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 6 暗褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量   |
| 4 暗褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム    | 7 暗赤褐色 | 焼土・粘土粒少量、炭化粒子微量           |

遺物 土師器片1128点(坏片42点、高台付坏片3点、甕片705点)、須恵器片336点(坏片273点、高台付坏片30点、甕片6点、蓋片26点、高坏片1点、円面硯1点)、刀子2点、砥石1点、含鉄滓60g、石製製造品1点が出上している。覆土上層では、第237、238図25の須恵器甕が中央部から、18の須恵器皿が中央部南西側から出上している。覆土中層では、2の土師器甕が南西コーナー部付近から、6の須恵器坏が、12の須恵器高台付坏中央部から、9の須恵器坏、19の須恵器控鉢が北壁部から、16の須恵器蓋が東壁部付近から出上している。6は斜位、9は逆位、19は横位の状態で出上している。覆土下層では、1の土師器甕が南西コーナー部付近から、3、8、10の須恵器坏、14の須恵器高台付坏、23の須恵器鉢が中央部から、13の須恵器高台付坏が南壁部から、21の須恵器高坏が中央部南側から、34の刀子が中央部南西側から出上している。3は逆位の状態で出上



第237图 第183A号住居跡出土遺物実測図(1)



第238图 第183A号住居跡出土遺物実測図(2)

している。床面では、4、5の須恵器環が中央部北側から、7の須恵器環が竈の前方部から正位の状態、17の須恵器蓋が中央部北東側から逆位の状態で出土している。P1内から20の須恵器高環が出土している。その他、覆土中から11の須恵器環、15の須恵器蓋、22の須恵器長頸瓶、26の須恵器円面甕、32の砥石、33の刀子が出土している。27の須恵器鉢の口縁部片は外面に平行叩き、28の須恵器鉢の頸部片は外面に格子目叩き、29～31の須恵器鉢の体部片は外面に同心円状の叩きが施されている。

所見 本跡は、竈の位置、柱穴の配列、床面の確認状況から第183B号住居跡の四方の壁を掘り込んで竈、床、柱穴を新たに構築していることから、第183B号住居跡を拡張して建て替えたものと考えられる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と考えられる。

第183A号住居跡出土遺物観察表

部取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色澤・施成	備考
第237回 1	蓋 土師器	A 20.4 B 8.5	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、底部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい、赤褐色普通	P1088 5% 覆土中
2	蓋 土師器	B 6.3 C 8.2	底部から体部下位片。平底。体部は内脣して立ち上がる。	体部内面ナデ。外面へツボき。底部本葉痕。	長石・石英・雲母にぶい、黄褐色普通	P1089 10% 覆土中
3	環 須恵器	A 14.0 B 4.7 C 8.3	底部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・雲母にぶい、黄褐色 灰色普通	P1090 98% 覆土中 PL129
4	環 須恵器	A 14.0 B 4.7 C 8.3	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にぶい、黄褐色普通	P1091 95% 床面 PL129
5	環 須恵器	A 13.2 B 4.2 C 8.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外脣して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・雲母にぶい、褐色普通	P1092 85% 床面 PL129 二次焼成
6	環 須恵器	A 14.0 B 4.1 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にぶい、黄色普通	P1093 85% 覆土中 PL129
7	環 須恵器	A 13.2 B 3.9 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にぶい、黄褐色普通	P1094 80% 床面 PL129
8	環 須恵器	A 13.1 B 4.9 C 7.4	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・白包針状物 黄褐色普通	P1095 75% 覆土中 PL129
9	環 須恵器	A 10.8 B 4.1 C 6.7	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後、回転回転ヘラ削り。	長石・石英・白色 針状物 灰色普通	P1096 80% 覆土中 PL129
10	環 須恵器	A 12.4 B 4.4 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は外脣して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 黄褐色普通	P1097 40% 覆土中
11	環 須恵器	A 14.2 B 5.1 C 8.2	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英・雲母にぶい、黄褐色普通	P1098 35% 覆土中
12	高台付環 須恵器	B (2.6) D 9.8 E 1.1	高台部から体部片。高台はハの字状に開き、体部は外脣して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後、高台磨付け。底部ヘタ記号。	長石・石英・雲母 黄褐色普通	P1101 15% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第237図 13	高台付環須器	A [10.2] B 4.4 D [16.2] E 1.1	高台部から口縁部片。高台は長くハの字状に開き、体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後、高台貼付け。	長石・石英 オリープ灰色 普通	P1099 40% 覆土中
14	高台付環須器	B (5.0) D [10.8] E 1.3	高台部から体部片。高台は長くハの字状に開き、体部は外傾して立ち上がり、体部との境にふいばを持つ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ、底部回転ヘラ削り後、高台貼付け。	長石・石英 灰黄色 普通	P1100 20% 覆土中 PL130
15	釜須器	A [23.1] B (3.6)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1102 5% 覆土中
16	釜須器	A 16.8 B 4.5 F 2.8 G 0.7	口縁部一部欠損。天井部は扁平で、外周部はわずかに外反する。口縁部は強く折り返している。つまみは擬宝珠形である。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P1103 80% 覆土中 PL130
17	釜須器	A 15.9 B (2.7)	つまみ部欠損。天井部は丸く、口縁部は強く折り返している。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。内面自然釉。	長石・石英 灰黄色 普通	P1104 95% 床面 PL130
18	皿須器	B (2.0) C 5.8	底部から体部片。平底。体部はわずかに外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下縁手。持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。体部にヘラ記号。	長石・石英・白色 針状物 灰色 普通	P1106 5% 覆土中
第238図 19	控鉢須器	A 16.8 B 9.3 C 10.3	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は強く内側に折り返している。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下縁手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P1105 95% 覆土中 PL130
20	高環須器	B (9.1) D [10.3] E 6.3	脚部から環部下片。脚部は細く、輪部はラッパ状に広がり、環部は強く折り返している。環部はわずかに内彎して立ち上がる。	環部、脚部内・外面ロクロナデ。外面自然釉。	長石・石英・白色 針状物 灰色 普通	P1107 50% ピット内 PL130
21	高環須器	B (9.4) D 15.5	脚部片。脚部は太く、輪部はラッパ状に広がり、長方形造しを一段二方に穿っている。環部は段をなす。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1108 20% 覆土中 PL130
22	長頸瓶須器	B (8.4) D [11.0] E 0.5	高台部から体部片。高台は長くハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼付け。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P1109 5% 覆土中
23	鉢須器	A [30.6] B (7.2)	口縁部片。体部は、わずかに内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反し、端部は外傾する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行引き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 暗灰色 普通	P1110 5% 覆土中
24	鉢須器	B (11.0) C [18.0]	底部から体部片。平底。体部は、わずかに内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行引き、体部下縁手持ちヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1111 20% 覆土中
25	瓶須器	B (9.4) C [17.8]	体部片、多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。外面斜位の平行引き。体部下縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 暗灰色 普通	P1112 10% 覆土中
26	円面瓶須器	A [9.4] B (2.2)	脚部上位から体部片。脚部は、わずかに開きながら下降し、外縁面と脚部に、断面三角形の突起が延る。環部は外縁に長い突起が延る。	腹部と脚部とは一体の作りである。脚部には等間隔に縦位の凹線が施されている。外面自然釉。	長石・石英・雲母 暗灰色 良好	P1113 30% 4区覆土中 PL130

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
32	瓶	(6.5)	3.1	2.0	(57.0)	凝灰岩	覆土中	Q1005 PL174

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考		
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第239回	月 子	( 8.1)	1.4	0.2	( 7.3)	覆 上 中	M1009	95%	PL177
34	月 子	(11.2)	1.4	0.4	(10.9)	覆 上 中	M1010	95%	PL177

### 第183B・183C号住居跡 (第239・240図)

位置 調査区の北部、C4j3区。

重複関係 第183B号住居跡は、第183A号住居跡によって四方の壁を掘り込まれ、第183C号住居跡は第183B号住居跡によって新たに柱穴が掘られている。

規模と平面形 第183B号住居跡は、長軸4.78m、短軸4.60mの方形である。第183C号住居跡の規模と平面形は不明であるが、第183C号住居跡の柱穴が第183B号住居跡の柱穴の内側に位置していることから、第183B号住居跡より小規模であると思われる。

主軸方向 第183B号住居跡は、N-9°-Wである。第183C号住居跡の主軸方向は厳密には不明であるが、主柱穴の位置から第183B号住居跡とほぼ同じである可能性がある。

壁 第183B号住居跡は、上部を第183A号住居跡に掘り込まれており、現存する壁高は10~15cmで、外傾して立ち上がる。第183C号住居跡の壁高は確認されていない。

壁溝 第183B号住居跡は、ほぼ全周する。上幅11~21cm、下幅4~10cm、深さ4~10cmで、断面形はU字状である。第183C号住居跡は確認されていない。

床 第183B号住居跡は、平坦で、中央部が踏み固められている。第183C号住居跡の床面は第183B号住居跡の床面の下部から確認されなかったことから、第183B号住居跡とほぼ同じ高さの可能性がある。

ピット 覆上の状況と位置からピットの所属を判断した。

第183B号住居跡は、4か所 (P1~P4) である。P1~P4は、長径35~41cm、短径28~33cmの楕円形、深さ50~68cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。第183C号住居跡は、6か所 (P5~P10) である。P5~P8は、長径38~49cm、短径33~42cmの楕円形、深さ52~62cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P9は径36cmの円形、深さ38cmで補助柱穴と考えられる。P10は長径86cm、短径64cmの楕円形、深さ20cmで、性格は不明である。P5~P10の覆上には焼土、ロームブロック等を含み、埋め戻されている。

竈 第183B号住居跡の竈は、北壁中央部に砂混じりの褐色粘土で構築されている。焼き口部から火床部、袖部下部のみ残存する。規模は火床部から焼き口部まで122cm、両袖最大幅114cmである。火床部は、床面を10cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。第183C号住居跡の竈は厳密には不明であるが、第183B号住居跡の竈としても使用された可能性がある。

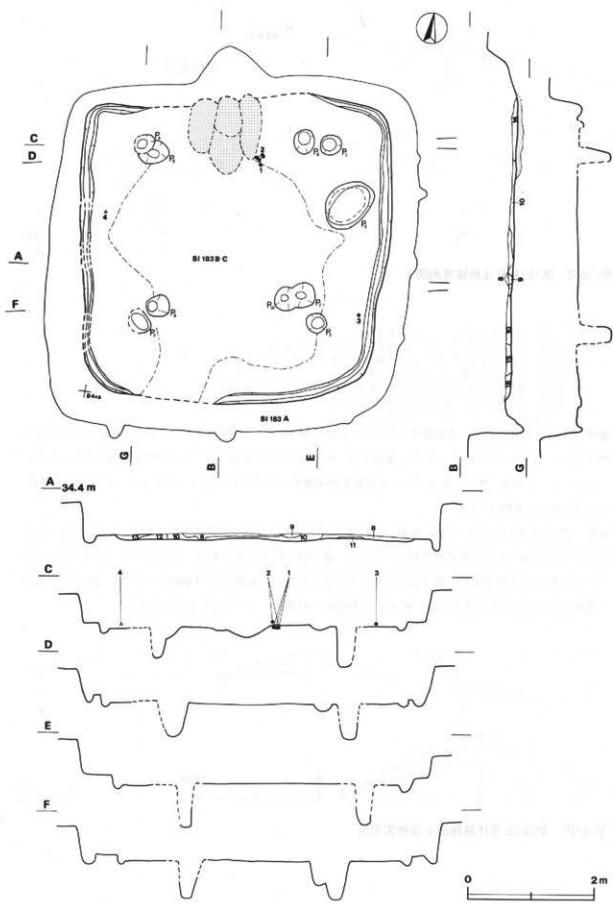
#### 覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 灰褐色 粘土粒子中量、焼土中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 極暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化材少量
- 5 極暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化材少量

覆土 9層からなり、ローム中・小ブロック、ローム粒子を含む人為堆積である。第183C号住居跡の覆土は存在しない。

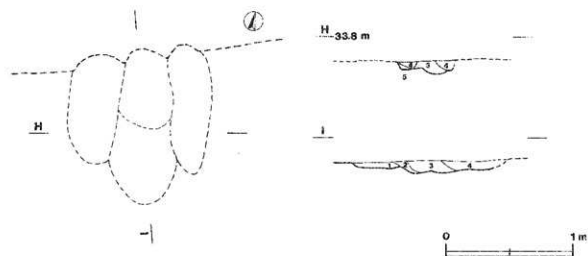
#### 土層解説

- 8 褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 9 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量



第239图 第183B·183C号住居跡实测图(1)



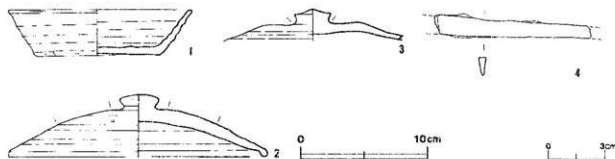


第240図 第183B号住居跡実測図(2)

- |    |   |    |   |
|----|---|----|---|
| 10 | 麻 | 色  | ローム中・小ブロック・ローム粒子中量                            |
| 11 | 明 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量                   |
| 12 | 暗 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量                   |
| 13 | 暗 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                            |
| 14 | 灰 | 褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 15 | 新 | 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量               |
| 16 | 黒 | 褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子多量                            |

**遺物** 第183B号住居跡は、土師器片95点（坏片10点、甕片85点）、須恵器片48点（坏片38点、高台付坏3点、甕片7点）、刀子1点が出土している。床面では、第241図1の須恵器坏、2の須恵器蓋が竈束袖付近から、出土している。その他、覆土下層から3の須恵器蓋が東壁部から西壁付近の4の刀子が出土している。第183C号住居跡からの遺物はない。

**所見** 第183B号住居跡は、主柱穴が第183C号住居跡の主柱穴と同一の対角線上の外側に位置していること、第183C号住居跡の柱穴が埋め戻されていること、竈が同一位置で床面が同一レベルである可能性が高いことなどから第183C号住居跡が、建て替えられたものとみられる。第183B号住居跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀中葉と考えられ、第183C号住居跡の時期は、8世紀中葉以前と推定される。



第241図 第183B号住居跡出土遺物実測図

第183 B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第241図 1	坏 須恵器	A 14.4	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部三方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母スコリアにふい黄褐色普通	P1114 75% 床面
		B 3.5				
		C 9.6				
2	蓋 須恵器	A [20.4]	口縁部からつまみ部片。天井部は丸く、口縁部は短く折り返している。つまみは覆宝珠形である。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母にふい黄褐色普通	P1115 70% 床面 PL130
		B 4.9				
		F 3.0				
		G 1.2				
3	蓋 須恵器	B (2.6)	天井部からつまみ部片。天井部は扁平で、外周部はわずかに反る。つまみは覆宝珠形である。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・黄灰色良好	P1116 15% 床面
		F 2.8				
		G 1.2				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	刀子	(8.3)	1.1	0.4	(9.9)	覆土中 M1011	95%	PL177

第184号住居跡 (第242図)

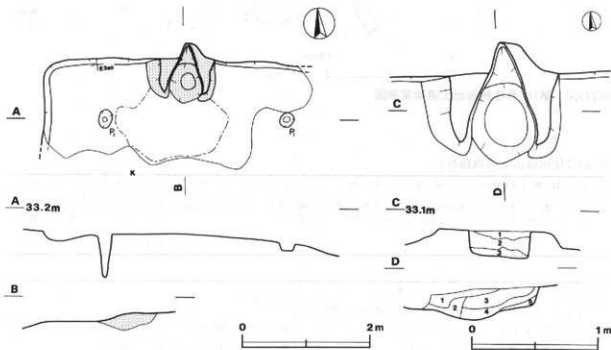
位置 調査区の北東部, E 3 g 0 区。

規模と平面形 畑の境界に位置するため南側3分の2は削平され、平面形は明確でないが、残存する壁から一辺が4.20mほどの方形と推定される。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は10~15cmで、ほぼ外傾して立ち上がる。

床 平坦で、竈前方部が踏み固められている。



第242図 第184号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1, P2)。P1は長径28cm, 短径22cmの楕円形, 深さ70cm, P2は径25cmの円形, 深さ15cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。規模は, 煙道部から焚き口部まで90cm, 両袖最大幅102cm, 壁外への掘り込みは20cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変硬化している。火床部は, 床面を7cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

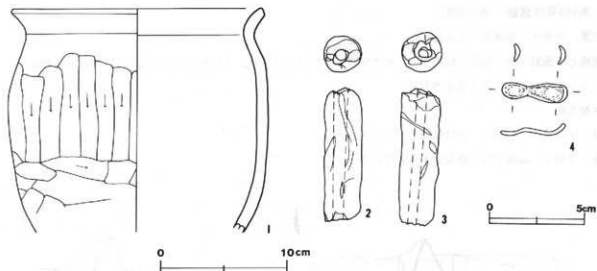
覆土層解説

- 1 褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土小アブロック・焼土・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭微量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量

覆土 掘り込みが浅いためほとんど残っていない。

遺物 土師器片49点 (坏片6点, 高坏片2点, 壺片41点), 管状土鍾2点, 銅製品1点, 鉄滓20gが出土している。覆土中では, 第243図1の土師器壺が北西コーナー部付近から逆位の状態で出土し, その他, 2, 3の管状土鍾, 4の不明銅製品が出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第243図 第184号住居跡出土遺物実測図

第184号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第243図 1	壺 土師器	A 20.0 B (17.7)	体部から口縁部片, 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ, 体部外面へラ開り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母スコリアに多い褐色普通	P1194 80% 覆土中 PL130

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
2	管状土鍾	7.1	2.0	0.6	24.1	覆土中	DP1051	100%	PL170
3	管状土鍾	7.2	2.1	0.6	32.8	覆土中	DP1052	100%	PL170

試坑番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第246図1	不明銅製品	(3.4)	1.0	-	(4.3)	堀 品	M1012 95%

### 第186A号住居跡 (第244・245図)

位置 調査区の北部，C4h3区。

重複関係 本跡が、第186B・186C号住居跡の東部を掘り込み，第36号溝によって南壁を掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.87m，短軸4.80mの長方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は30~36cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上軌16~29cm，下軌5~17cm，深さ3~14cmで，断面形はJ字状である。

床 平沢で，中央部が踏み固められ，熱を受け部分的に赤変している。

ピット 10か所 (P1~P10)。P1~P4は，長径45~68cm，短径37~55cmの楕円形，深さ51~89cmである。

規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径43cmの円形，深さ34.1cmである。位置から出入り口施設に伴う

ピットと考えられる。P6は径25cmの円形，深さ34cm，P7~P10は，長径25~30cm，短径20~24cmの楕円形，

深さ20~37cmである。規模と配置から補助柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。

規模は，煙道部から焚き口部まで186cm，両袖最大幅134cm，壁外への掘り込みは107cmである。袖の内壁は，

火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は，床面を10cm掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。

煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 遺土層解説

- 1 暗 褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 2 暗 灰色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 3 暗 灰色 焼土中・小ブロック・粘土粒子中量，焼土大ブロック少量
- 4 暗 褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量，焼土中ブロック微量
- 5 黒 褐色 焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量，灰・粘土粒子微量
- 6 暗 赤褐色 焼土小ブロック少量，焼土中ブロック中量
- 7 灰 褐色 焼土・粘土粒子中量，焼土中・小ブロック・灰少量
- 8 暗 褐色 焼土・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
- 9 暗 褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 10 暗 灰色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・焼土・ローム粒子少量

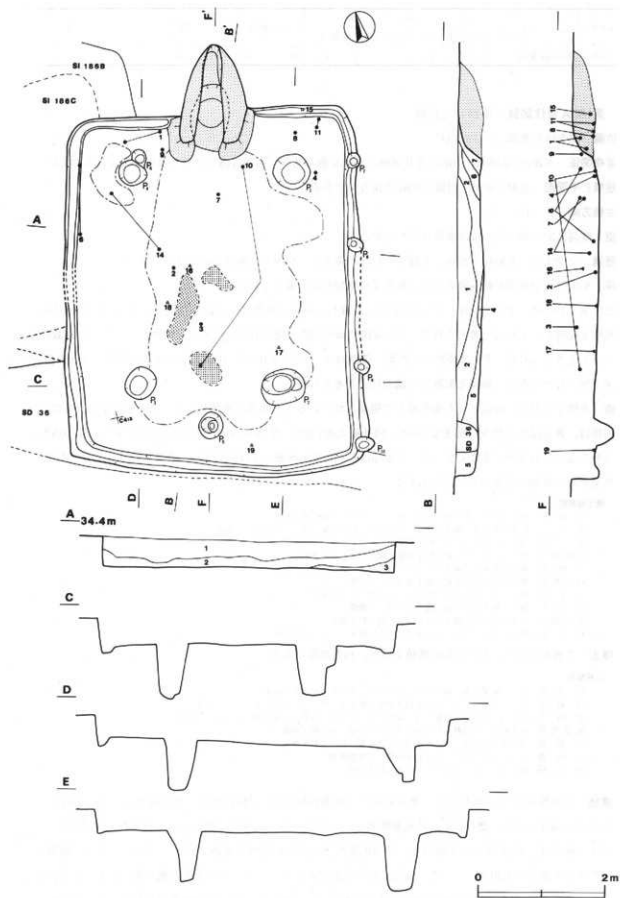
覆土 7層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

#### 土層解説

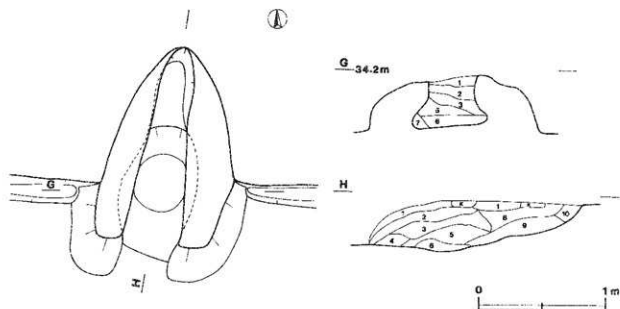
- 1 暗 褐色 ローム粒子中量，焼土・ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，灰小ブロック微量
- 4 暗 褐色 焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
- 5 暗 褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
- 6 暗 褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
- 7 暗 褐色 焼土小・ローム小ブロック・粘土粒子中量

遺物 土師器片567点 (坏片78点，壺片489点)，須恵器片260点 (坏片121点，高台付坏片2点，盤片1点，釜片6点，高坏片2点，釜片128点)，灰釉陶器1点，刀子2点，釘2点，砥石1点，鉄滓105gが出土している。

覆土上層では，第246図1の土師器坏，9の須恵器坏が正位の状態でも北西コーナー部から，3の土師器坏，16の刀子が中央部から出土している。3は正位の状態でも出土している。7の土師器壺が竈の前方部から出土している。覆土下層では，6の土師器高台付坏が北西コーナー部から，8の土師器壺が北東コーナー部から，14の灰釉陶器坏が中央部から，11の須恵器坏が北東壁部付近から，15の砥石が北東壁溝から出土している。床面で



第244图 第186A号住居跡实测图(1)



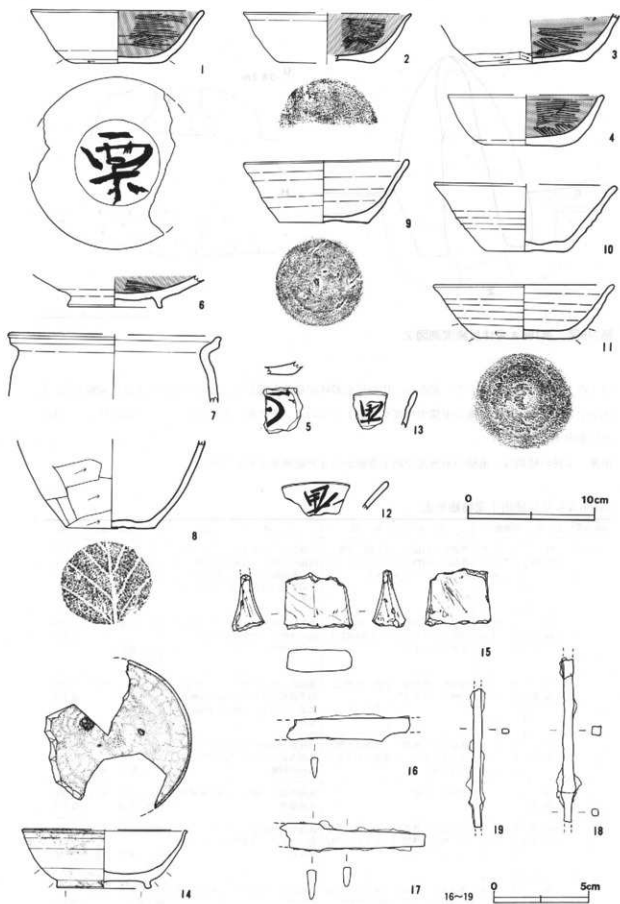
第245図 第186A号住居跡実測図②

は4の上師器環が北東コーナー部から、10の須恵器環が竈前方部から、17の刀子が中央部南東隅から、18の鉄鎌が中央部から、19の鉄鎌が南側中央部から出土している。その他、覆土中から5の上師器環、12、13の須恵器環が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第186A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第245図 1	環 上師器	A 13.7	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は、内彎して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。内面黒色処理。体部下端四配へう削り。底部四配へう削り後、四配へう削り。透徹「梨」黒き。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P1119 覆土中 70% PL130
		B 4.2				
		C 6.8				
2	環 上師器	A [13.1]	底部から体部片。平底。体部は、内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。底部四配削り。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P1120 覆土中 45% PL130
		B 4.0				
		C [7.4]				
3	環 土師器	B [3.5]	底部から体部片。平底。体部は、内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持りへう削り。内面へう磨き。底部二方向のへう削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P1121 覆土中 60%
		C 8.6				
4	環 土師器	A [12.4]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。内面黒色処理。高台部削離。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P1122 床面 20%
		B 4.0				
		C 6.8				
5	環 土師器	-	底部片。平底。	底部内面へう磨き。内面黒色処理。底部削離。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1123 覆土中 3% PL130
		B (2.6)	高台部から体部片。高台はハの字状に削く。体部は、わずかに内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。内面黒色処理。高台削付け。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P1124 覆土中 15%
		D 7.4				
E 0.8						
7	環 土師器	A [16.8]	外部から口縁部片。体部は、内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1125 覆土中 5%
		B (5.2)				



第246图 第186A号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特長	手法の特徴	胎土・色澤・施装	備考
第216図 8	蓋 土師器	B ( 7.6) C 7.0	底部から体部下平片。平底。体部は内厚して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。底部木製痕。	長石・石英・小礫 黄褐色 普通	P1126 40% 覆土中
9	環 須恵器	A 13.2 B 5.0 C 7.0	体部から口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内厚して立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1127 80% 覆土中 PL130
10	環 須恵器	A [14.8] B 5.3 C 6.4	体部から口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内厚して立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下平ナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P1128 60% 表面 PL131
11	環 須恵器	A 14.3 B 4.3 C 7.3	体部から口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内厚して立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下平ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後。底部陶粒ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1135 90% 覆土中 PL132
12	環 須恵器	B ( 2.1)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面に磨き。	長石・雲母 灰黄色 普通	P1129 3% 覆土中 PL131
13	環 須恵器	B ( 2.6)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面に磨き。	長石・雲母 灰色 普通	P1130 5% 覆土中 PL131
14	短 灰輪陶器	A [13.1] B 1.7 D 7.5 E 0.6	高台部から口縁部片。高台はわずかに外に開く高台である。体部は内厚して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下平回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。灰箱付は掛け。内面に又トナシ痕。	長石 灰白色 良好	P1131 60% 覆土中 PL131 図説14号 2式

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
15	灰 石	4.4	3.4	1.6	( 48.9)	緑色凝灰岩	覆土中	Q1007 PL175

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	刀 子	( 6.4)	1.5	0.4	(10.3)	覆土中	M1013 95% PL177
17	刀 子	( 7.7)	1.4	0.5	(12.3)	床 面	M1014 95% PL177
18	鉄 鏝	( 8.6)	0.8	0.5	( 9.7)	床 面	M1015 95% PL178
19	鉄 鏝	( 7.2)	0.7	0.3	( 5.3)	覆土中	M1016 95% PL178

### 第186B号住居跡 (第217・248図)

位置 調査区の北部、C4h2区。

重複関係 本跡は、第36号溝と第186A号住居跡によって掘り込まれており、第186C号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.31m、短軸4.99mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

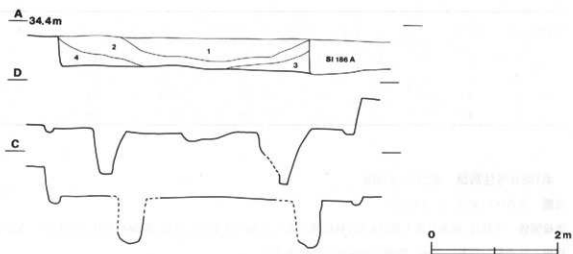
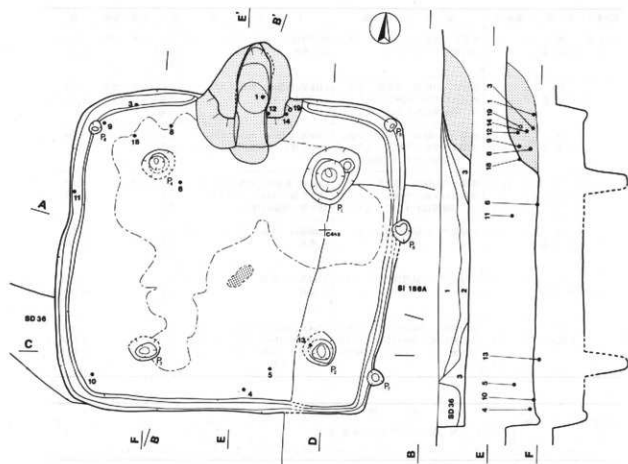
壁 壁高は44~50cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅12~29cm、下幅5~18cm、深さ5~12cmで、断面形はU字状である。

床 平川で、竈の前部が踏み固められている。

ピット 8か所 (P1~P8)。P1~P4は、長径36~50cm、短径32~45cmの楕円形、深さ67~84cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径22cmの円形、深さ72cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6~P8は、径19~34cmの円形、深さ10~52cmで補助柱穴と考えられる。



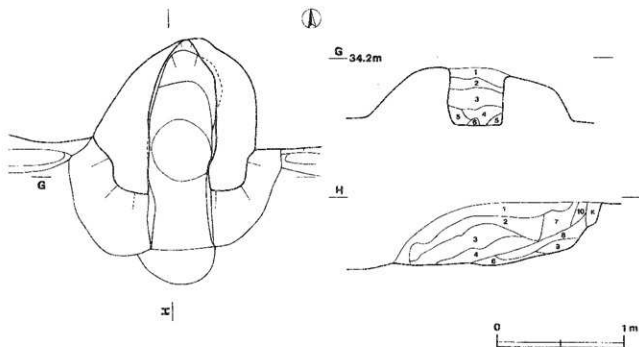


第247図 第186B号住居跡実測図(1)

**竈** 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで193cm、両袖最大幅165cm、壁外への掘り込みは85cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。

**竈土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化物・炭化粒子微量



第248図 第186B住居跡実測図(2)

- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 によい黄色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 水褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量、灰少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 褐灰色 粘土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック少量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 10 灰褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化・ローム粒子少量

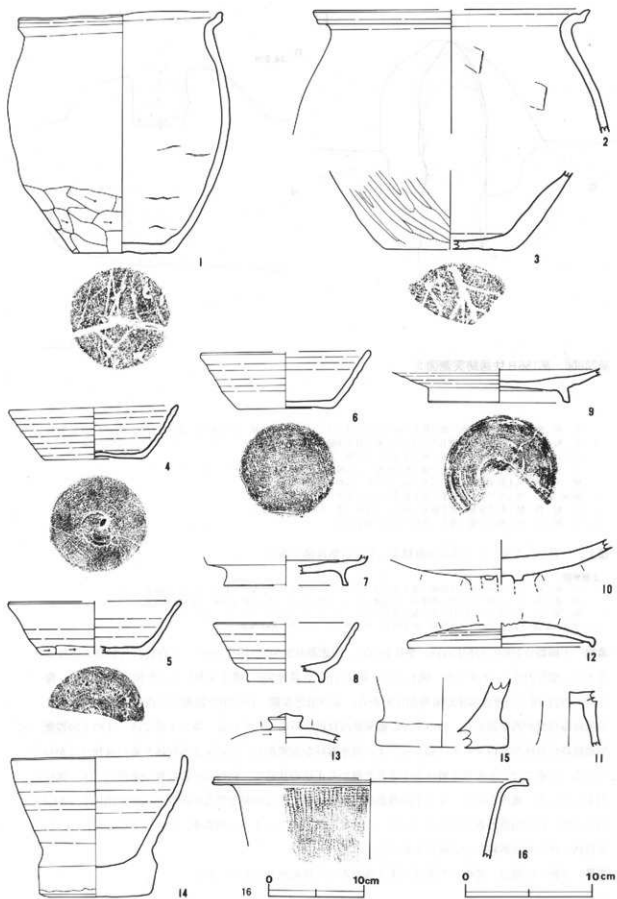
**覆土** 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

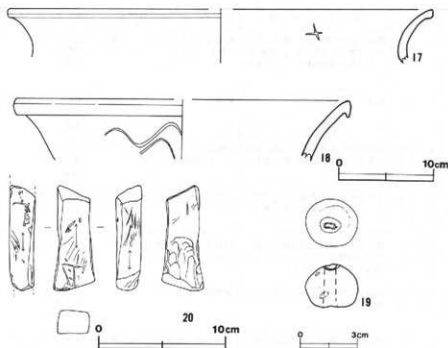
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・ローム中ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、炭化物・ローム大ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土小ブロック・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・ローム・粘土粒子微量

**遺物** 土師器片436点(坏片34点、甕片402点)、須恵器片245点(坏片198点、高台付坏片14点、蓋片5点、甕片4点、瓶片24点)、土玉1点、砥石1点、鉄滓5g、含鉄滓50g、縄文土器片1点が出土している。覆土上層では、第249図5の須恵器坏が南壁部付近から、9の須恵器甕、18の須恵器甕が北西コーナー部付近から、11の須恵器高甕が西壁部から、19の土玉が竈東袖部付近から出土している。覆土下層では、3の土師器甕、8の須恵器高台付坏が北西コーナー部から、4の須恵器坏が南壁から、14の須恵器埋鉢が竈の東袖付近から出土している。床面では、6の須恵器坏が中央部北側から正位の状態で、10の須恵器高甕が南西コーナー部付近から出土している。竈内からは、1の土師器甕が横位の状態で、12の須恵器甕が逆位の状態で出土している。P2内からは、13の須恵器甕が出土している。その他、覆土中から2の土師器甕、7の須恵器高台付坏、15の須恵器埋鉢、16の須恵器鉢、20の砥石が出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第249图 第186B号住居跡出土遺物実測図(1)



第250図 第186B住居跡出土遺物実測図(2)

第186B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第249図 1	甕 土師器	A 16.1	体部一部欠損。平底。体部は、内 壁して立ち上がる。口縁部は外反 し、頸部は上方につまみ上げられ ている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外 面ナデ。体部下半へラ削り。底部 木葉痕。	長石・石英・雲母 スロリア 明赤褐色 普通	P1132 95% 甕内 PL131
		B 19.1				
		C 7.8				
2	甕 土師器	A [22.0]	体部から口縁部片。体部は、内壁 して立ち上がる。口縁部は外反し、 口唇部は外上方につまみ上げられ ている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナ デ内面へラナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1133 20% 甕土中
		B [9.8]				
3	甕 土師器	B (6.3)	底部から体部下平片。平底。体部 は内壁して立ち上がる。	体部下へラ削き、内面ナデ。底 部木葉痕。	長石・石英・雲母 にふい灰色 普通	P1134 10% 甕土中
		C [10.2]				
4	坏 須恵器	A 13.4	体部から口縁部一部欠損。平底。 体部から口縁部にかけて外傾して立 ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端ナデ。底部回転へラ切り 後周縁一方向のナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1136 95% 甕土中 PL131
		B 4.2				
		C 7.8				
5	坏 須恵器	A [13.6]	底部から口縁部片。平底。体部は 外傾して立ち上がり、口縁部はわ ずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端ナデ。底部回転へラ切り。	長石・石英 黄灰色 普通	P1137 45% 甕土中 PL131
		B 4.2				
		C [8.4]				
6	坏 須恵器	A [13.4]	底部から口縁部片。平底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がり口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端ナデ。底部一方向のへラ 削り。	長石・石英 灰色 普通	P1138 45% 床面 PL131
		B 4.5				
		C 7.4				
7	高台付坏 須恵器	B (2.4)	高台部から体部下位片。高台は長 くハの字状に開き、体部は外傾し て立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転へラ切り後、高台貼付け。	長石・雲母 灰オリーブ 普通	P1139 10% 甕土中
		D [9.8]				
		E 1.2				
8	高台付坏 須恵器	A [11.4]	高台部から口縁部片。高台は長く ハの字状に開き、体部から口縁部 にかけてわずかに外反して立ち上 がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 底部高台貼付け。	長石・石英・白色 針状物 灰色 普通	P1140 30% 甕土中
		B 4.7				
		D [6.0]				
		E 0.9				
9	甕 須恵器	B (2.7)	高台部から体部片。高台はハの字 状に開き、体部は外傾して立ち上 がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転へラ切り後、高台貼付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1141 15% 甕土中
		D 11.2				
		E 1.3				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第249図 10	高須 須忠器	B ( 2.5)	脚部上から盤部片。盤部はわずかに内彎して立ち上がる。脚部は、二方に長方形の透かし穴を有する。	盤部内・外面ロクロナデ。盤部下部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黒灰色 普通	P1143 5% 床面
11	高須 須忠器	B ( 4.4)	脚部片。脚部は広がる。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・白色針状物 灰オリーブ色 普通	P1147 5% 覆土中
12	高須 須忠器	A 14.8 B ( 2.0)	口縁部から天井部片。天井部は低く丸く、口縁部は近く折り返している。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	P1142 70% 竈内 PL131
13	高須 須忠器	B ( 2.4) F 2.7 G 1.2	天井部からつまみ部片。天井部は丸く、つまみは微小珠形である。	天井部回転ヘラ削り、内面ロクロナデ。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P1144 15% ピット内
14	押須 須忠器	A 14.0 B 11.2 C 8.9	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外彎する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P1145 85% 覆土中 PL131
15	押須 須忠器	B ( 5.3) C ( 8.9)	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1146 15% 覆土中
16	鉢 須忠器	A (32.8) B ( 8.5)	体部から口縁部片。体部は外反しながら立ち上がる。口縁部は外反し、肩部に凹縁を持つ。	口縁部内・外面ナデ。体部外面指子目叩き、内面ナデ。	長石・白色針状物 灰オリーブ色 普通	P1148 5% 覆土中
第250図 17	兼須 須忠器	A 44.4 B ( 5.7)	口縁部片。口縁部は外反する。肩部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面ナデ。内面にヘラ記号。	長石・雲母 灰黄色 普通	P1150 5% 覆土中
18	兼須 須忠器	A 34.8 B ( 6.3)	口縁部片。口縁部は外反する。肩部は下端が突出する。	口縁部内・外面ナデ。外面2本1条の指痕状文。内面自然輪。	長石・雲母 灰色 普通	P1140 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第251図 上	瓦	2.3	1.8	0.8	14.4	覆土中	DP1053 100% PL168

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
20	砥	( 8.3)	( 3.3)	1.8	(76.1)	凝灰岩	覆土中	Q1029 PL174

### 第186C号住居跡(第251図)

位置 調査区の北部、C4h2区。

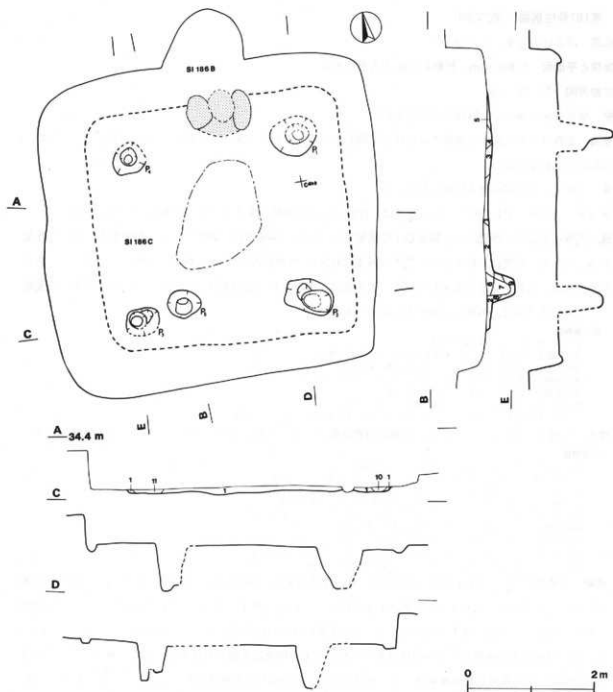
重複関係 本跡は、第36号溝と第186A・186B号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 竈と柱穴のみしか残存していなかったため、明確ではないが一辺が約4.10mの方形と推定される。

主軸方向 N-4°-E

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長さ27~54cm、短径25~48cmの楕円形、深さ62~78cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は、長さ52cm、短径42cmの楕円形、深さ34cmで、補助柱穴と思われる。

竈 第186B号住居跡によって掘り込まれているため、竈部の粘土範囲と火床部のみが残存する。北壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。



第251図 第186C住居跡実測図

覆土 11層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック中量	6	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
2	褐色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量	7	暗褐色	ローム中・小ブロック少量
3	褐色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量	8	暗褐色	ローム中・小ブロック中量
4	褐色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土中・小ブロック・焼土粒子少量	9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	暗褐色	焼土中・小ブロック・ローム小ブロック・ローム	10	暗褐色	ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量
			11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片77点(坏片5点、高坏片10点、甕片62点)が出土しているが、ほとんどが細片であるため、図示できるものはない。

所見 本跡は、第36号溝と第186A・186B号住居跡によって掘り込まれているため、竈と柱穴しか残存しない。時期は、遺構の重複関係及び出土遺物から8世紀後葉以前と考えられる。

第187号住居跡 (第252回)

位置 調査区の北東、C4i8区。

規模と平面形 長軸4.64m、短軸4.43mの方形である。

主軸方向 N-71°-E

壁 壁高は26~36cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部から南壁下にかけて半周している。上幅9~26cm、下幅5~13cm、深さ4~9cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1~P3は、径25~65cmの円形、深さ58~80cmである。性格は不明である。

竈 西壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。南袖部は、耕作により一部攪乱を受け、天井部は崩落している。炭椀は、煙道部から吹き口部まで122cm、両袖最大幅146cm、壁外への掘り込みは74cmである。

袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 7 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量

覆土 9層からなり、1, 2, 8, 9層は自然堆積で、3~7層はロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

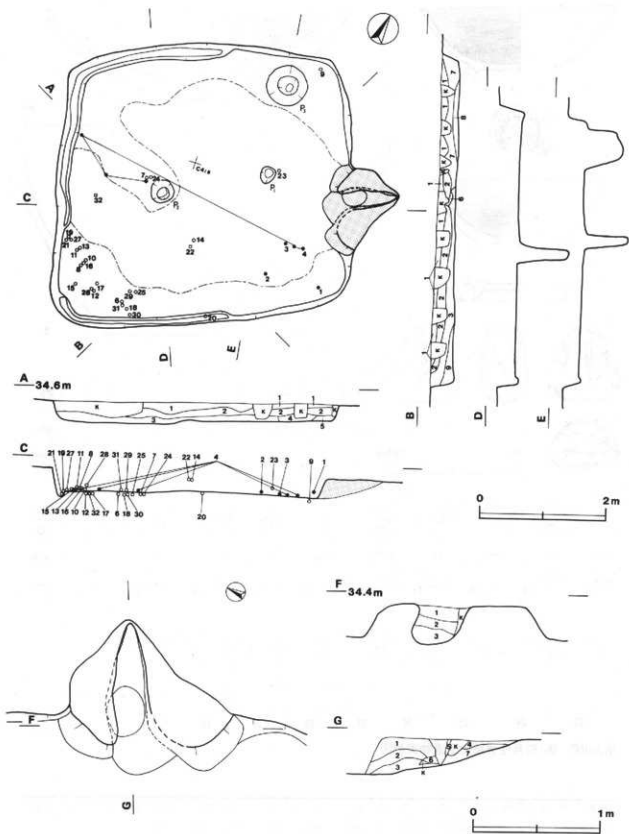
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム大・中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量

遺物 土師器片150点 (坏片29点、高台付坏2点、炭片119点)、須恵器片 (坏19点、蓋2点、壺50点)、灰釉陶器片3点、土瓦26点、砥石1点、含鉄滓45gが出土している。覆土上層では、第253回14, 22の土玉が中央部南側から出土している。覆土下層では、1, 2の土師器高台付坏が南東コーナー部付近から、8, 11, 13, 15, 16, 27, 28の土玉が南西コーナー部付近から、23の土玉が中央部北側から出土している。床面では、3の土師器高台付坏、4の須恵器蓋が南東コーナー部付近から、32の砥石が西壁部から、6, 10, 12, 17~19, 21, 25, 29~31の土玉が南西コーナー部から、7, 24の土瓦が中央部西側から、9の土玉が北東コーナー部から、20の土玉が南壁部から出土している。その他、覆土中から5の須恵器蓋、26の土玉が出土している。

所見 本跡は、覆土下層にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が入り乱れて堆積していることなどから埋め戻されたものと思われる。本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から10世紀前後と考えられる。

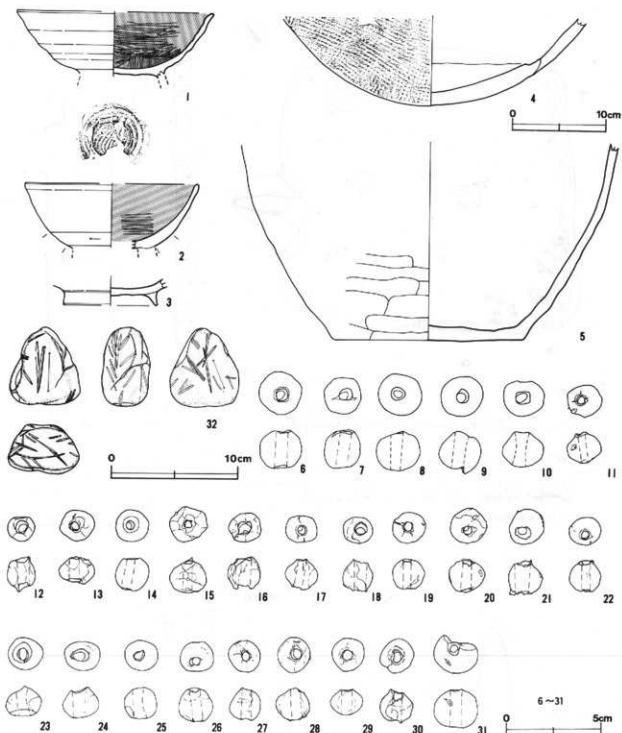
第187号住居跡出土遺物観察表

回覧番号	器種	計測値(cm)	器種の特徵	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253回 1	高台付土師器	A [15.5] B [5.2]	体部内・外両口ロナア。体部内面へラ歯き、内面黒色処理。底部円縁垂直切。高台貼付け。	体部から口縁部片。高台部剝離。体部から1層部にかけて内彎して立ち上がる。	灰石・雲母・スコリア 褐色 普通	P1151 覆土中 50%



第252图 第187号住居跡实测图





第253図 第187号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 2	高台付碗 土師器	A [13.8] B (5.1)	体部から口縁部片。高台部剥離。 体部から口縁部にかけて内増して 立ち上がる。	体部内・外面口クロナダ。体部内 面へラ磨き、内面黒色処理。高台 貼付け。	灰石・雲母 におい赤褐色 普通	P1152 30% 覆土中 PL131 二次焼成
3	高台付碗 土師器	B (2.1) D [7.4] E 1-1	高台部片。高台は直線的に開く。	高台貼付け。	灰石・石英・スコ リア・白色針状物 褐色 不良	P1153 20% 底面 二次焼成

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色澤・地味	備 考
第253図 4	甕 炊 息 器	D (9.5)	底部から体部片、丸底、体部は内 髷して立ち上がる。	体部内面ナデ、体部外面平打叩き。	長石・石英 灰色 普通	P1154 10% 床面
5	甕 須 志 器	B (15.8) C 15.0	底部から体部片、平底、体部は内 髷して立ち上がる。	体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・雲母・スコ リア にぶい褐色 普通	P1155 10% 覆土中層

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考	
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
6	土 土	1.9	2.2	0.7	6.7	床 面	DP1055 100%	PL168
7	土 土	2.0	1.9	0.9	5.7	床 面	DP1056 100%	PL168
8	土 土	2.1	2.3	0.7	9.6	覆 土 中	DP1057 100%	PL168
9	土 土	2.2	2.2	0.7	5.9	床 面	DP1058 100%	PL168
10	土 土	1.8	2.1	0.8	5.5	床 面	DP1059 100%	PL168
11	土 土	1.6	1.9	0.4	3.5	覆 土 小	DP1060 100%	PL168
12	土 土	1.9	1.4	0.6	2.4	床 面	DP1061 100%	PL168
13	土 土	1.5	1.8	0.5	3.7	覆 土 中	DP1062 100%	PL168
14	土 土	1.7	1.8	0.5	4.2	覆 土 中	DP1063 100%	PL168
15	土 土	1.8	2.0	0.5	4.8	覆 土 中	DP1064 100%	PL168
16	土 土	1.7	1.7	0.8	3.1	覆 土 中	DP1065 100%	PL168
17	土 土	1.8	1.7	0.8	3.3	床 面	DP1066 100%	PL168
18	土 土	1.8	1.7	0.7	2.8	床 面	DP1067 100%	PL168
19	土 土	1.6	1.7	0.5	3.4	床 面	DP1068 100%	PL168
20	土 土	1.7	1.9	0.5	4.5	床 面	DP1069 100%	PL168
21	土 土	1.9	1.8	0.8	4.4	床 面	DP1070 100%	PL168
22	土 土	1.6	1.7	0.5	3.1	覆 土 中	DP1071 100%	PL168
23	土 土	1.6	1.9	0.6	3.3	覆 土 中	DP1072 100%	PL168
24	土 土	1.6	1.8	0.9	3.4	床 面	DP1073 100%	PL168
25	土 土	1.6	1.7	0.7	3.8	床 面	DP1074 100%	PL168
26	土 土	1.8	1.8	0.6	4.0	覆 土 中	DP1075 100%	PL168
27	土 土	1.7	1.7	0.5	3.3	床 面	DP1076 100%	PL168
28	土 土	1.8	1.9	0.6	4.4	覆 土 中	DP1077 100%	PL168
29	土 土	1.9	1.8	0.5	3.5	床 面	DP1078 100%	PL168
30	土 土	1.8	1.9	0.6	4.1	床 面	DP1079 100%	PL168
31	土 土	2.0	2.3	0.6	4.1	床 面	DP1080 70%	

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出土地点	備 考	
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
32	砥 石	6.2	5.6	4.1	157.9	凝 灰 岩	床 面	Q1008 PL175	

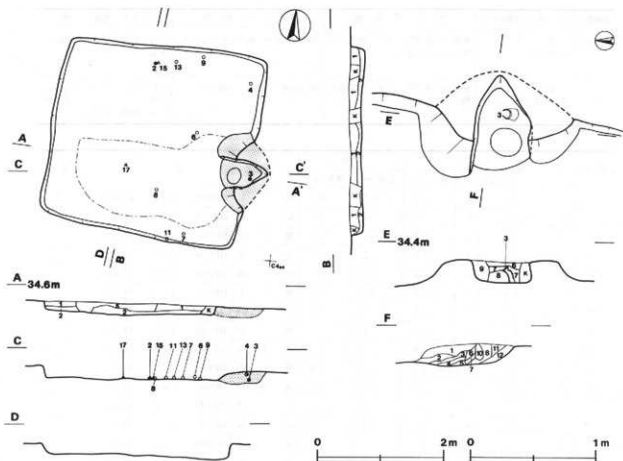
### 第188A号住居跡（第254図）

位置 調査区の北部、C4d3区。

重複関係 本跡が、第188B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.27m、短軸3.11mの方形である。

主軸方向 N-92°-E



第254図 第188A号住居跡実測図

壁 壁高は15~22cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、竈の前方部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。

規模は、煙道部から突き口部まで80cm、両袖最大幅130cm、壁外への掘り込みは32cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

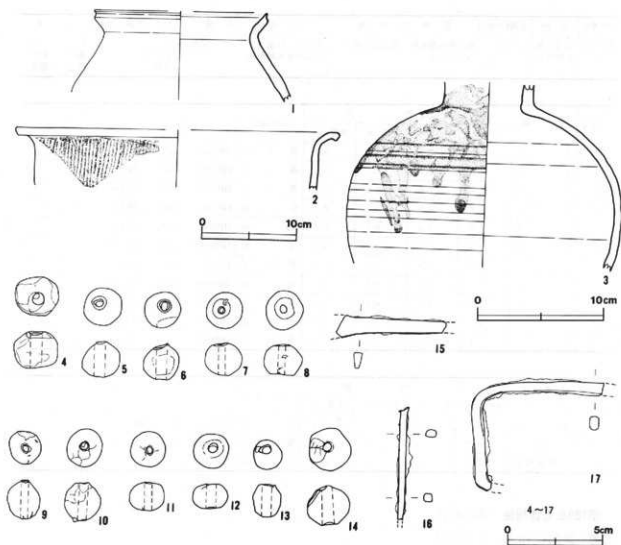
- 1 黒 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量、炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
- 4 灰 褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量
- 6 暗 褐色 焼土粒子小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子微量
- 8 暗 褐色 焼土粒子多量、粘土粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化・ローム粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、粘土粒子少量
- 11 極暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 12 暗 褐色 焼土・粘土粒子少量、ローム粒子微量

覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片485点(坏片98点, 高台付坏5点, 甕片382点), 須恵器片174点(坏片54点, 高台付坏片1点,



第255図 第188A号住居跡出土遺物実測図

蓋片3点、甕片116点、灰軸陶器片1点、土玉11点、刀子1点、釘1点、不明鉄製品1点、鉄滓45gが出土している。覆土上層では、第255図4の土玉が北東コーナー部から出土している。覆土下層では、6の土玉が竈の前方部から出土している。床面では、2の須恵器鉢、15の刀子、9、13の土玉が北壁部から、17の不明鉄製品が中央部から、7、11の土玉が南壁部から、8の土玉が中央部南側から出土している。竈内からは、3の灰軸陶器長頸瓶が出土している。その他、覆土中から1の土師器甕、5、10、12、14の土玉、16の釘が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

第188A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第255図 1	甕 土師器	A [30.0] B (7.0)	体部から口縁部片。体部は内摩して立ち上がり、口縁部は外反し、頸部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・白色針状物 棕色 普通	P1435 覆土中 5%
2	鉢 須恵器	A [14.2] B (6.1)	体部から口縁部片。体部は外積して立ち上がり、口縁部は短く外反し、頸部は外積する。	口縁部内・外面ナデ。外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1436 覆土中 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256号 3	長頸瓶 灰釉陶器	B (14.0)	体部から頸部片。体部は内傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。頸部、体部外面灰釉施釉。	長石 灰オリープ色 良好	P1158 30% 藏内 PL132 折戸53号式式

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)					
4	土 灰	1.9	2.3	0.6	9.2	覆 上 中	DP1081	100%	PL169	
5	土 玉	2.0	2.0	0.7	5.8	覆 土 中	DP1082	100%	PL169	
6	土 玉	2.0	1.9	0.6	5.1	覆 土 中	DP1083	100%	PL169	
7	土 玉	1.7	1.9	0.6	6.3	床 面	DP1084	100%	PL169	
8	土 灰	1.6	2.0	0.4	5.6	床 面	DP1085	100%	PL169	
9	土 玉	2.1	1.7	0.4	4.9	床 面	DP1086	100%	PL169	
10	土 玉	2.0	1.9	0.4	6.2	覆 土 中	DP1087	100%	PL169	
11	土 灰	1.5	1.8	0.4	4.7	床 面	DP1088	100%	PL169	
12	土 玉	1.3	1.9	0.5	4.2	覆 土 中	DP1089	100%	PL169	
13	土 灰	1.7	1.5	0.5	3.9	床 面	DP1090	100%	PL169	
14	土 玉	2.1	2.2	0.6	( 8.2)	覆 土 中	DP1120	90%	PL169	

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
15	刀 子	( 5.9)	1.2	0.5	( 8.1)	床 面	M1017	95% PL177
16	釘	( 6.0)	0.6	0.6	( 4.8)	覆 上 中	M1018	95% PL179
17	不明瓦製品	( 7.0)	5.6	0.8	(16.5)	床 面	M1019	95%

### 第188B号住居跡(第256図)

位置 調査区の北部、C4 d3区。

重複関係 本跡は、第188A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.90m、短軸4.16mの長方形である。

主軸方向 N-24°-E

壁 壁高は36~48cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅25~41cm、下幅6~12cm、深さ6~12cmで、断面形はU字状である。

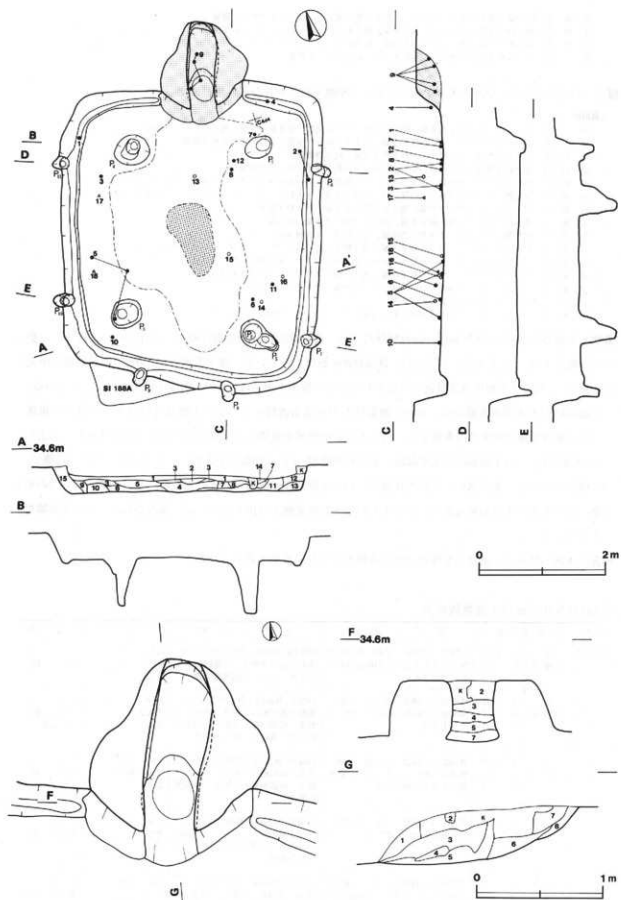
床 平坦で、中央部が踏み固められている。部分的に熱を受け赤化した部分がある。

ピット 11か所(P1~P11)。P1~P4は、長径45~54cm、短径32~48cmの楕円形、深さ54~84cmである。規模と配列から柱穴と考えられる。P5は長径46cm、短径27cmの楕円形、深さ53cmである。P6~P11は、長径16~32cm、短径8~13cmの楕円形、深さ4~26cmである。位置から補助柱穴と考えられる。

竈 北東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで162cm、両袖最大幅130cm、壁外への掘り込みは102cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を7cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変変化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 出土品解説

- 1 灰 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量
- 2 灰 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック中層、焼土・ローム中ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 3 陶 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量
- 4 硝 小褐色 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子多量



第256图 第188B号住居跡实测图

5	粉 灰 色	灰中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土中・ローム小ブロック微量
6	赤 褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化・ローム粒子微量
7	赤 褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
8	粉 灰 色	ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

覆土 15層からなり、ローム大・中・小ブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

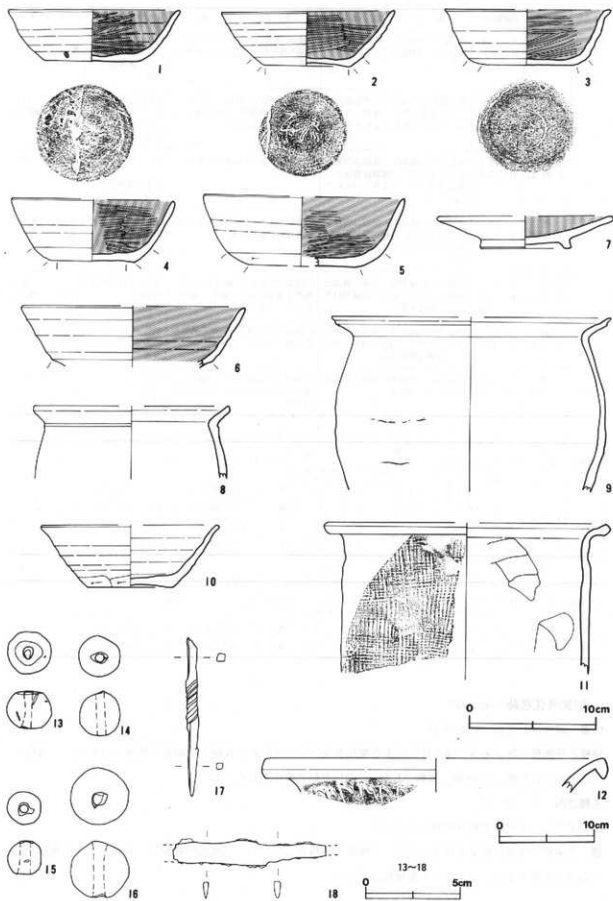
1	粉 灰 色	ローム中・小ブロック多量、焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量
2	粉 灰 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
3	暗 褐色	ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、炭化物微量
4	暗 褐色	焼土粒子多量、ローム大・中・小ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
5	暗 褐色	ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量
6	暗 褐色	炭化物・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・ローム大・中ブロック・粘土粒子微量
7	赤 褐色	ローム大・中ブロック中量、焼土小ブロック少量、粘土粒子微量
8	赤 褐色	焼土小ブロック・粘土粒子多量、焼土中ブロック中量、灰少量
9	黒 褐色	炭化物、ローム中・小ブロック中量、焼土粒子・炭化材少量
10	黒 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
11	暗 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・ローム大・小ブロック・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
12	暗 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土・ローム小ブロック・粘土粒子少量
13	暗 褐色	ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量、焼土小ブロック微量
14	粉 灰 色	ローム小ブロック・粘土粒子少量
15	暗 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片209点(坏片40点、高台付坏片4点、壺片165点)、須恵器片83点(坏片30点、蓋片1点、壺片50点、瓶片2点)、土玉4点、刀子2点、鉄滓1690gが出土している。覆土上層では、第257図17の壺が中央部北西側から、13の土玉が中央部付近から出土している。覆土下層では、4の土師器坏が北東コーナー部から、5の土師器坏が中央部南西側から、6の土師器坏が中央部南西側から、7の土師器高台付皿が中央部北東側から、11の須恵器鉢が中央部南東側から、14の土玉が中央部南東側から、18の刀子が中央部南西側から出土している。床面では、2の土師器坏が東壁部から正位の状態、1の土師器坏が北西コーナー部から逆位の状態、3の土師器坏が中央部北西側から正位の状態、10の須恵器坏が南西コーナー部から、8の土師器壺、12の須恵器壺、15の土玉が中央部付近から、16の土玉が中央部南東側から出土している。室内からは、9の土師器壺が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

#### 第188 B号住居跡出土遺物観察表

図説番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第257図 1	土師器 坏	A 13.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。体部内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母 褐色 普通	P1159 85% 床面 PL131
		B 4.2				
		C 7.2				
2	土師器 坏	A 13.7	体部から口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。体部下端回転へラ削り、内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内面黒色処理。底部に「坏」の刻印。	雲母・スコリア 黄褐色 普通	P1447 95% 床面 PL132 二次焼成
		B 4.1				
		C 6.4				
3	土師器 坏	A 13.2	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。体部下端回転へラ削り、内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・雲母 黄褐色 普通	P1160 75% 床面 PL132
		B 4.4				
		C 7.4				
4	土師器 坏	A 13.0	底部から体部片。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。体部下端回転へラ削り。体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・雲母 黄褐色 普通	P1156 45% 覆土中 PL131
		B 5.0				
		C 6.6				
5	土師器 坏	A 13.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。体部下端回転へラ削り、内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア 黄褐色 普通	P1161 75% 覆土中 PL132
		B 4.4				
		C [ 7.4 ]				



第257图 第188B号住居跡出土物実測図



図取番号	器 種	容量(cc)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第257回 6	坏 土 師 器	A [17.8] B (4.8)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナテ。体部下端回転へつくり、内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリアにふい黄褐色普通	P1162 10% 覆土中 二次焼成
7	高台付直 土 師 器	A [14.0] B 2.6 D 7.0 E 0.7	高内部分から口縁部片。高内部分は短くハの字状に開く。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナテ。体部内面黒色処理。底部回転へつくり後、高台貼付け。	長石・雲母・スコリアにふい褐色普通	P1163 45% 覆土中 二次焼成
8	羹 土 師 器	A 15.4 B (5.7)	体部から口縁部片。体部は内厚して立ち上がり、口縁部は外反し、肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部傾ナテ。体部内・外面ナテ。	長石・雲母・スコリアにふい黄褐色普通	P1164 10% 覆土中
9	羹 土 師 器	A [22.0] B (13.7)	体部から口縁部片。体部は内厚して立ち上がり、口縁部は外反し、肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部傾ナテ。体部内・外面ナテ。体部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母褐色普通	P1157 15% 覆土中
10	坏 須 志 器	A [14.0] B 4.9 C [ 6.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内厚して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナテ。体部下端子持ちへつくり。底部三方向のへつくり。	長石・白色針状物灰黄色普通	P1166 30% 床面 PI131
11	钵 須 志 器	A [22.7] B (11.9)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反し、肩部は外傾する。	口縁部内・外面ナテ。体部外面縦位の筋目印。内面ナテ。	長石・石英・雲母黒褐色普通	P1165 10% 覆土中
12	羹 須 志 器	A [26.5] B ( 3.6)	口縁部片。口縁部は外反し、肩部は外下方に突出する。	口縁部内・外面ナテ。口縁部に一糸の筋状文が施されている。内面自然釉。	長石 灰色 普通	P1167 10% 床面

図取番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
13	七 土	2.0	2.3	0.6	8.5	覆 土 中	DP1092 100% PL169
14	十 玉	2.4	2.2	0.5	10.0	覆 土 中	DP1093 100% PL169
15	上 灰	1.7	1.8	0.7	5.2	床 面	DP1094 100% PL169
16	上 灰	3.0	3.1	0.9	(23.7)	床 面	DP1091 95% PL169

図取番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	罎	8.4	0.7	0.4	( 6.7)	覆 土 中	M1021 93% PL179
18	刀 子	8.0	1.3	0.4	( 9.7)	覆 土 中	M1020 95% PL177

### 第190号住居跡（第258回）

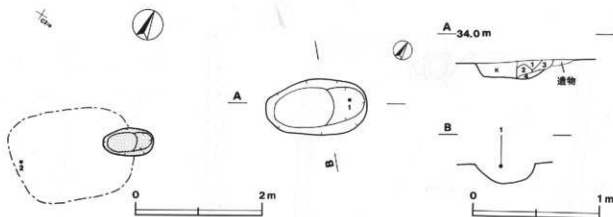
位置 調査区の北部、C 2 i 9 区。

規模と平面形 掘り込みが浅く耕作による攪乱を受けているため、規模と平面形は明確ではないが、残存している床面から長軸（1.90）m、短軸（1.44）mの長方形と推定される。

主軸方向 N-52°-E

床 平坦で、中央部分が踏み固められている。

竈 北東壁中央部に構築されているが、火床部のみ残存している。火床部の規模は、長軸81cm、短軸44cm、深さ15cmで火熱を受け、わずかに赤変硬化している。



第258図 第190号住居跡実測図

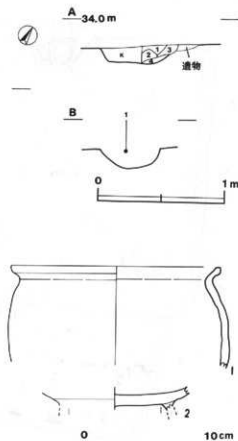
**覆土層解説**

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック少量、ローム小ブロック微量
- 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子微量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量

**覆土** 掘り込みが浅いため、覆土は残存していない。

**遺物** 土師器片7点（坏片1点、甕片6点）が出土している。第259図2の須恵器盤が南東側の床面から出土している。1の土師器甕が竈内から出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第259図 第190号住居跡出土遺物実測図

**第190号住居跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第259図 1	甕 土師器	A 16.6	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ、体部内・外面ナデ。	長石・雲母 棕色 普通	P1168 30% 竈内 PL132
		B (8.1)				
2	盤 須恵器	B (4.4)	底部片。高台部剝離。	底部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘタ削り後、高台貼付け。	長石・石英 灰色 普通	P1169 10% 床面

**第193A号住居跡（第260図）**

**位置** 調査区の西部，F1d9区。

**重複関係** 本跡が，第193B号住居跡の北部を掘り込んでおり，第193C号住居跡を拡張している。

**規模と平面形** 長軸5.96m，短軸5.77mの方形である。

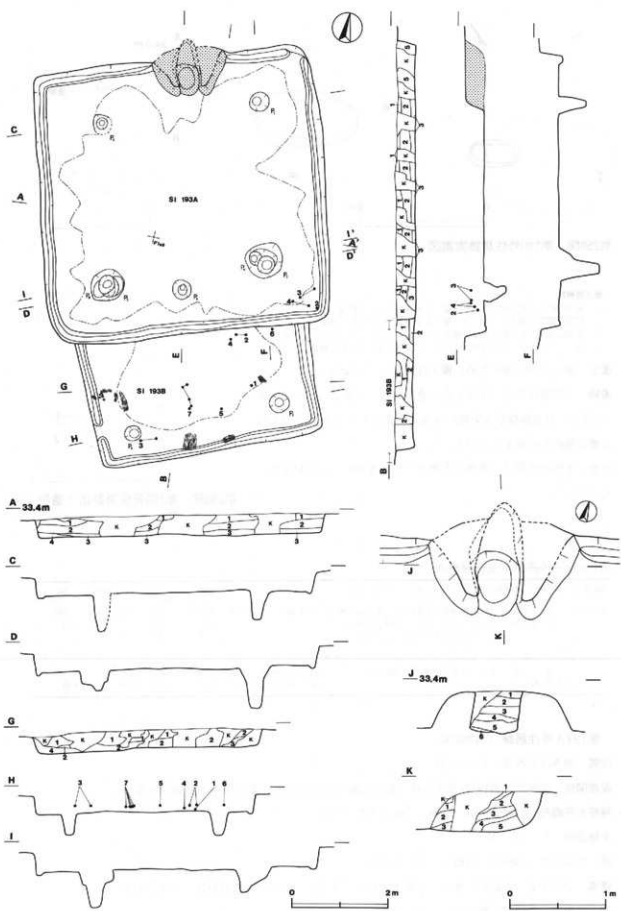
**主軸方向** N-17°-W

**壁** 壁高は32～44cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝** 全周する。上幅20～30cm，下幅4～12cm，深さ2～10cmで，断面形はU字状である。

**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。

**ピット** 5か所（P1～P5）。P1～P4は，長径24～43cm，短径24～42cmの楕円形，深さ44～89cmである。見



第260图 第193A·193B号住居跡実測图

模と配列から支柱穴と考えられる。P5は径40cmの円形、深さ48cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**竈** 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部から両袖基部にかけて、耕作により攪乱を受けほとんど残存していない。天井部は崩落している。規模は、煙道部から焚き口部まで約119cm、両袖最大幅約155cm、壁外への掘り込みは48cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を12cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。

**竈土層解説**

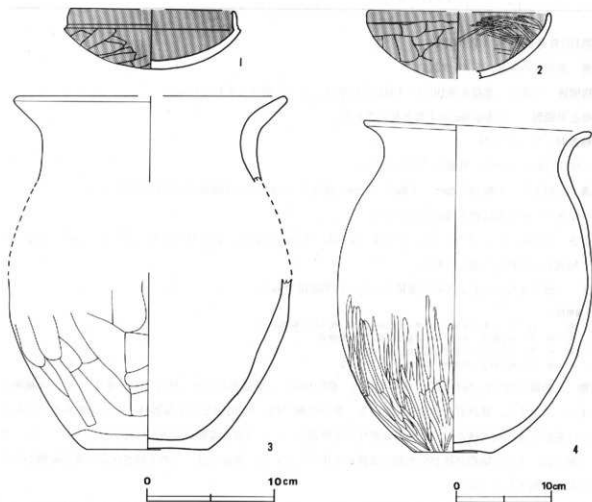
- 1 褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 焼土粒子・焼土小ブロック、ローム中・小ブロック・ローム粒子微量、炭化粒子微量
- 3 赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量、ローム粒子微量、炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 4 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子・灰微量、炭化粒子極微量

**覆土** 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量・ローム中ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量、焼土中ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量、焼土・炭化粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量、炭化物極微量

**遺物** 土師器片284点(坏片75点、高台付坏片9点、甕片200点)、須恵器片12点(坏片12点)、鉄滓50g、含鉄



第261図 第193A号住居跡出土遺物実測図

洋30gが出土している。覆土中層では、第261図2の土師器環、3の土師器甕、4の土師器甕が南東コーナ部から出土している。その他、覆土中から、1の土師器環が出土している。

所見 本跡は、第193C号住居跡の主柱穴や壁溝の配列、床面の高さ、竈の位置から、第193C号住居跡の南、東壁の二方を拡張して構築したものと考えられる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後半と考えられる。

第193A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第261図 1	土師器 環	A 13.2 B 4.7	底部から口縁部片、丸底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な線を付す。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ割り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スロリア 黒褐色 普通	P1170 35% 覆土中
2	土師器 環	A 14.6 B 5.3	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ割り、内面へウ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P1171 25% 覆土中
3	土師器 甕	A 21.6 B 28.6 C 9.6	体部上辺欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面中位から下位にかけてへウ割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 不良	P1173 30% 覆土中 内面器面割痕
4	土師器 甕	A 24.0 B 34.8 C 8.1	体部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は大きく外反し、肩部はわずかに外方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から下位にかけてへウ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1172 60% 覆土中 PL132

#### 第193B号住居跡(第260図)

位置 調査区の西部、F1e9区。

重複関係 本跡は、北部を第193A・193C号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 一辺が4.8mの方形と推定される。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は38~42cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上縁18~29cm、下幅7~12cm、深さ2~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 4か所(P6~P9)。P6~P9は、長径30~43cm、短径25~40cmの楕円形、深さ43~78cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

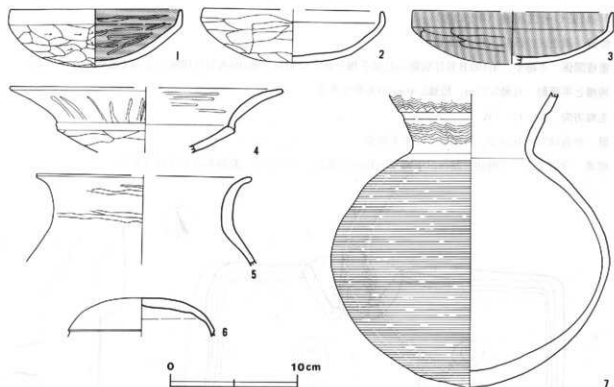
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子散見、焼土粒子散見
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化・ローム粒子少量、炭化物散見
- 3 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子散見
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子少量

遺物 土師器片226点(坏片48点、高坏片18点、甕片160点)、須恵器片21点(坏片1点、甕片20点)、灰釉陶器片1点、土玉1点、鉄滓37gが出土している。覆土中層では、第262図2の土師器環、5の土師器甕、6の須恵器坏蓋が中央部北東側から、3の土師器環が南壁部から、7の須恵器甕が中央部付近から出土している。覆土下層では、4の土師器高坏が中央部北東側から出土している。床面では、1の土師器環が中央部東側から逆位の状態でも出土している。

所見 本跡の竈は、第193A・193C号住居跡に北側を掘り込まれた時に壊されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。



第262図 第193B号住居跡出土遺物実測図

第193B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	坏 土 脚 器	A 14.1 B 4.6	口縁部一部欠損片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ、内面へラ磨き、内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 床面 褐色 普通	P1174 90% 床面 PL132 二次焼成
2	坏 土 脚 器	A [14.1] B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア にふい褐色 普通	P1175 45% 覆土中 PL132 二次焼成
3	坏 土 脚 器	A [16.0] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き、内面ナデ、内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P1176 45% 覆土中 PL133 二次焼成
4	高 坏 土 脚 器	A [11.6] B (5.2)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は大きく外反する。	口縁部外面腹位のへラ磨き、内面横位のへラ磨き。体部外面へラ削り後横位のへラ磨き。内面横位のへラ磨き。	長石・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P1177 20% 覆土中 PL132 二次焼成
5	姜 土 脚 器	A [17.0] B (7.0)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部外面へラ磨き、内面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P1178 10% 覆土中
6	坏 蓋 須 器	B (3.0)	天井部片。天井部は全体に丸みを持つ。天井部と口縁部の境に明瞭な稜を持つ。	天井部内面口ロナテ。外面自然釉。	長石 オリブ黒色 普通	P1179 35% 覆土中
7	姜 須 器	B (23.2)	底部から頸部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、頸部は外傾する。頸部と口縁部の境に凹稜を持つ。	頸部外面に7本1条の櫛歯波状文を2段に配する、内面ナデ、体部外面カキ目調整。	長石・小礫 オリブ灰色 不良	P1180 30% 覆土中 PL132 外面部面刺磨

第193C号住居跡 (第263図)

位置 調査区の西部, F1d9区。

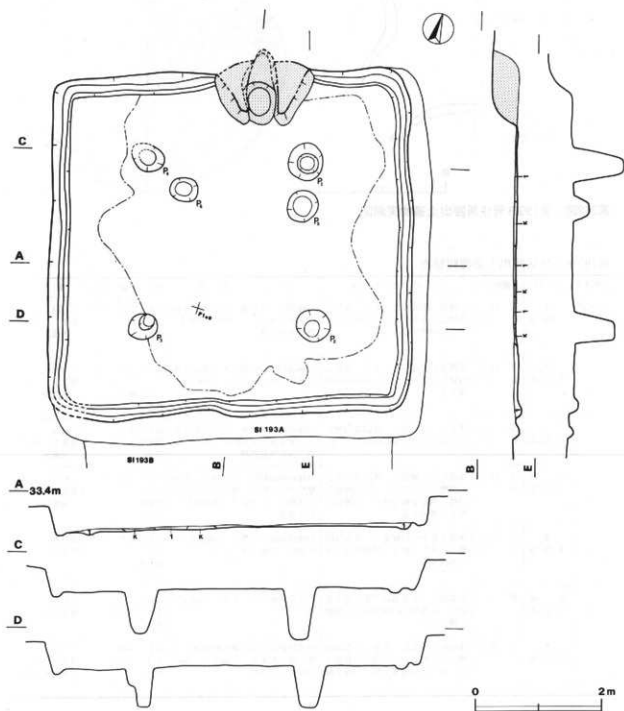
重複関係 本跡が, 第193B号住居跡の北部を掘り込んでおり, 第193A号住居跡によって拡張されている。

規模と平面形 長軸5.75m, 短軸5.40mの方形である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は38~46cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅19~28cm, 下幅5~15cm, 深さ5~9cmで, 断面形はU字状である。



第263図 第193C号住居跡実測図

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は、長径42～60cm、短径41～55cmの楕円形、深さ63～81cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5、P6は長径44～52cm、短径37～50cmの楕円形、深さ14～81cmで、性格は不明である。P1～P6の覆土は、ロームブロック・ローム粒子が含まれており、埋め戻されているものとみられる。

竈 床面を調査したが竈の痕跡がみつからなかったことから、第193A号住居跡と同位置に存在したと思われる。

覆土 単一層で、人為堆積である。

#### 土層解説

1 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量

遺物 土師器片2点（壺片2点）が出土しているが、細片であるため図示できるものはない。

所見 本跡の床面は、第193A号住居跡の床面下部から検出され、主柱穴は、人為的に埋め戻されている。これらのことから、本跡は第193A号住居跡の拡張以前のものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉以前の第193A号住居跡と時間差がない時期と考えられる。

### 第194号住居跡（第264図）

位置 調査区の西部、F1h9区。

規模と平面形 長軸4.52m、短軸4.35mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は38～54cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁下を除いてほぼ巡っている。上幅15～21cm、下幅5～9cm、深さ6～12cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は、長径39～52cm、短径34～48cmの楕円形、深さ67～82cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径36cmの円形、深さ32cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東袖部と煙道部は耕作による擾乱を受けている。規模は、煙道部から焚き口部まで100cm、両袖最大幅146cm、壁外への掘り込みは37cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受け、赤変硬化している。

#### 覆土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 灰褐色 ローム・粘土粒子少量、炭化種子・ローム小ブロック微量

3 暗褐色 粘土粒子少量、焼土・炭化種子微量

4 褐色 粘土粒子中量、炭化種子微量

5 暗赤褐色 焼土粒子少量、粘土粒子少量

6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

7 暗赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量

8 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量

9 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

覆土 7層からなり、ローム中・小ブロックやローム粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量

2 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量

3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

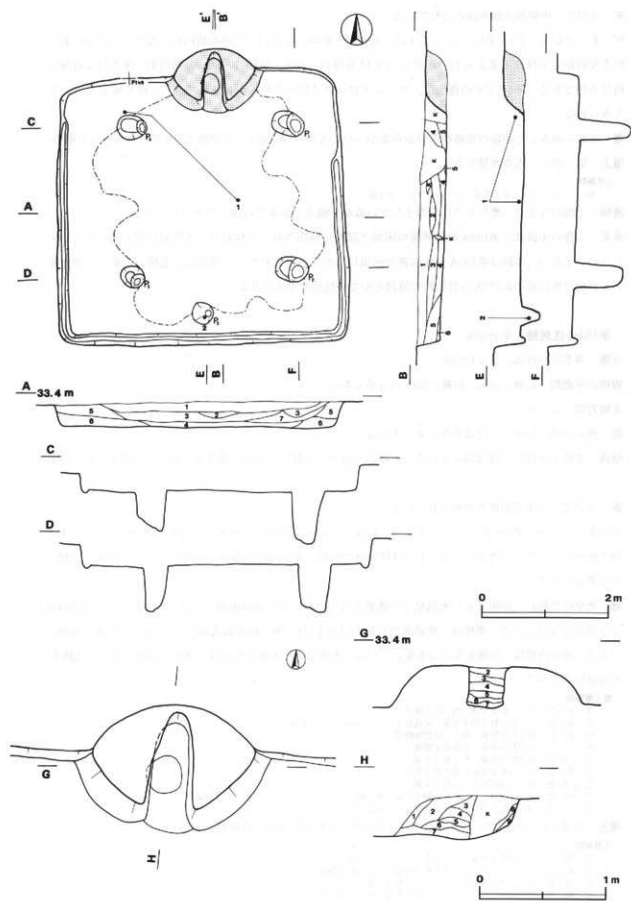
4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量

7 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

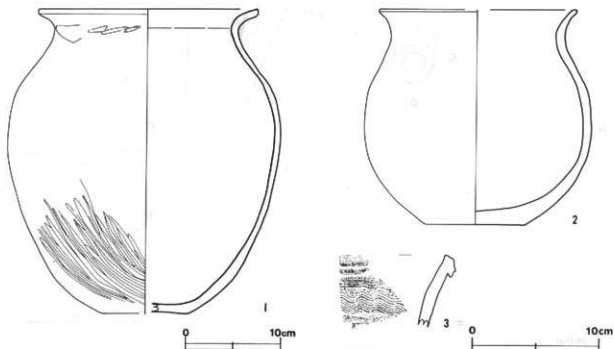




第264图 第194号住居跡実測图

遺物 土師器片150点(坏片24点, 甕片126点), 須恵器片2点(甕片2点)が出土している。覆土下層では, 第265図1の土師器甕が中央部から出土している。P5内からは, 2の土師器甕が横位の状態で出土している。3の須恵器甕の口縁部片は頭部に11本1条の柳掻き波状文が施されている。

所見 本跡は, 覆土にローム小ブロック・ローム粒子を含んでいることから人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第265図 第194号住居跡出土遺物実測図

#### 第194号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	甕 土師器	A 23.3 B 32.1 C [ 8.2]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し。肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面の中段から下位にかけてヘラ磨き, 内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1182 75% 覆土中 PL132 外面灰付着
2	甕 土師器	A [15.6] B 17.0 C 8.0	底部から口縁片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。内・外面器面摩耗。	長石・石英・雲母 褐色 不良	P1181 70% ビット内PL132

#### 第195号住居跡 (第266図)

位置 調査区の西部, E3e7区。

規模と平面形 掘り込みが浅いため, 竈の火床部と床面が一部残存しているのみで, 規模と平面形は不明である。

主軸方向 [N-0°]

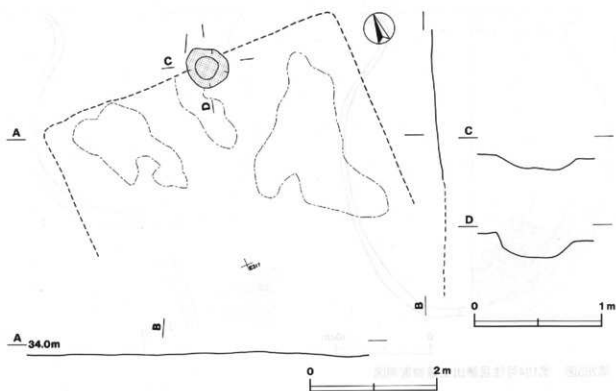
床 平坦で, 北壁下と東壁側が一部踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 砂泥じりの褐色粘土で構築されている。耕作により攪乱を受けているため, 火床部のみ残存している。火床部の規模は長径70cm, 短径61cmである。火床部は, 床面を16cm掘りくぼめており, 火熱を受け, 赤変硬化している。

覆土 覆土はほとんど残存していない。

遺物 出土遺物はない。

所見 本跡の時期は、出土遺物がないため不明である。



第266図 第195号住居跡実測図

#### 第198号住居跡 (第267図)

位置 調査区の北部, C 3 c 6 区。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸3.94mの方形である。

主軸方向 N-19°-E

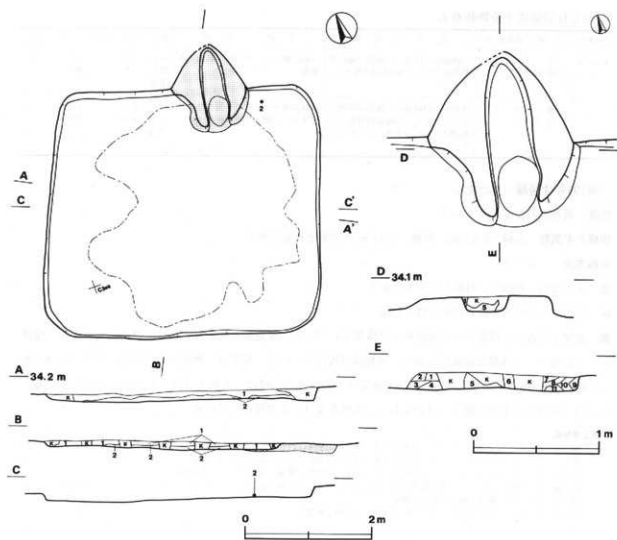
壁 壁高は7~17cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部付近に, 砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで138cm, 両袖最大幅117cm, 壁外への掘り込みは70cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, ほぼ垂直に立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量・ローム・粘土粒子少量・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量・焼土小・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量



第267図 第198住居跡実測図

- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量  
 8 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量  
 9 暗褐色 ローム粒子多量  
 10 暗褐色 焼土小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 11 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

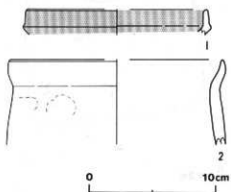
**覆土** 2層からなるが、覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、  
 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土  
 粒子少量、焼土中・小ブロック・ローム大ブロック微量

**遺物** 土師器片113点(坏片34点、甕片79点)、須恵器片1点(坏片1点)、縄文土器片1点、鉄滓25gが出土している。床面では、第268図2の土師器甕が北東コーナー部付近から出土している。その他、覆土中から1の土師器坏が出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第268図 第198住居跡出土遺物実測図

第198号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	坏 土加器	A [14.4] B (2.0)	口縁部片。体部と口縁部の境に明瞭な稜を持ち、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒色 普通	F1183 覆土中 5%
2	甕 土加器	A [17.0] B (6.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面へう崩り後ナデ、内面ナデ。外面指頭痕。	長石・雲母 ふいふい赤褐色 普通	F1184 床面 5%

第199号住居跡 (第269図)

位置 調査区の北部, C 3 e 6 区。

規模と平面形 長軸 [2.74]m, 短軸 [2.35]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-0°]

壁 壁高は11~16cmで、外傾して立ち上がる。

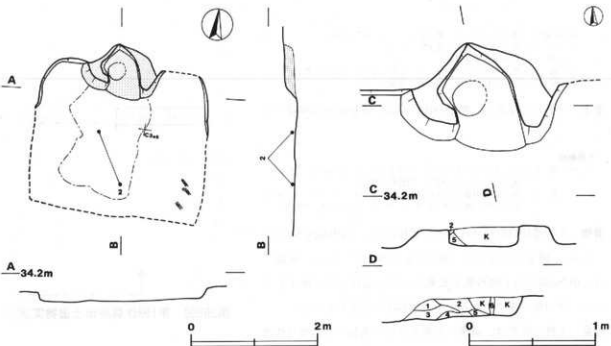
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部と火床部上面は、耕作により攪乱を受け残存していない。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで82cm, 両袖最大幅103cm, 壁外への掘り込みは35cmと推定される。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け、赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化物・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量, 焼土小ブロック極微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極微量

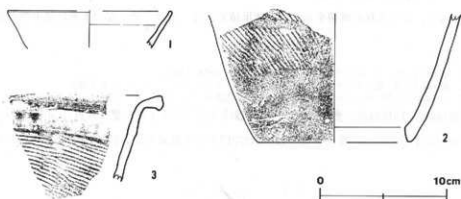
覆土 耕作による攪乱を受けているため、覆土はほとんど残存していない。



第269図 第199号住居跡実測図

遺物 土師器片57点(坏片7点, 甕片49点, 甌片1点), 須恵器片12点(坏片3点, 甌片9点), 含鉄滓25gが出土している。床面では, 第270図2の須恵器甌が中央部南側から出土している。その他, 覆土中から1の須恵器坏が出土している。3の須恵器鉢の口縁部片は外面に横位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から9世紀前葉と考えられる。



第270図 第199号住居跡出土遺物実測図

#### 第199号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	坏 須恵器	A [13.0] B (2.9)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がり, 口縁部は外傾する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1185 覆土中 5%
2	甌 須恵器	B (10.2) C [12.0]	体部片。体部はわずかに内彎して立ち上がる。	体部外面平行叩き, 体部下位へラ削り, 内面ナデ。	長石 灰色 普通	P1186 床面 5%

#### 第200号住居跡 (第271図)

位置 調査区の北部, C 3 g1 区。

規模と平面形 長軸4.36m, 短軸4.05mの方形である。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は10~21cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東壁下を除いて巡っている。上幅14~20cm, 下幅4~8cm, 深さ4~7cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は, 長径40~52cm, 短径27~40cmの楕円形, 深さ45~69cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈 北西壁中央部に, 砂泥じりの褐色粘土で構築されている。煙道部は, 調査区域外になるため不明である。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 火床部から焚き口部まで81cm, 両袖最大幅96cm, 壁外への掘り込みは不明である。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を6cm掘りくぼめており, 火熱を受け, わずかに赤変硬化している。

**覆土層解説**

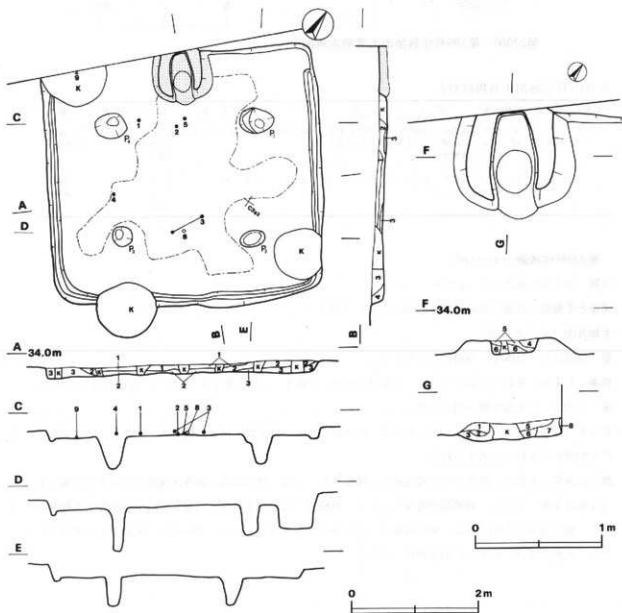
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土・粘土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム・粘土粒子中量
- 7 暗褐色 焼土・ローム・粘土粒子中量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量

**覆土** 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。南コーナー部の下層に焼土塊が検出されている。

**土層解説**

- 1 紫暗褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量

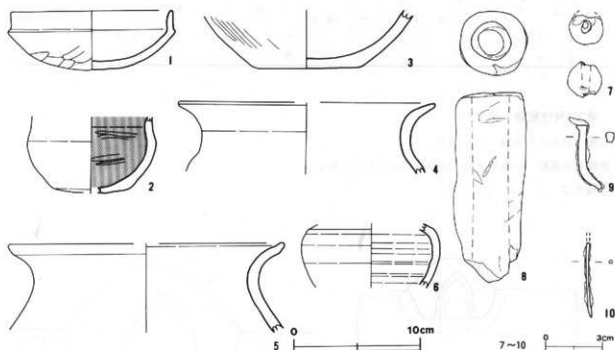
**遺物** 土師器片184点（坏片44点、甕片140点）、須恵器片7点（坏片1点、甕片6点）、土玉1点、管状土錘1点、鉄製釘1点が出土している。覆土下層では、第272図1の土師器坏が正位の状態に甕前方から、4の土師



第271図 第200号住居跡実測図

器蓋が中央部北西側から、3の土師器甕、8の管状土鍾が中央部南東側から出土している。床面では、2の土師器碗、5の土師器甕が竈の前方部から、9の釘が竈の西側から出土している。その他、覆土中から6の須恵器匙、7の土玉が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第272図 第200号住居跡出土遺物実測図

第200号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	土師器 碗	A 12.9 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り後ナデ、内面ナデ。内面刺摩。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P1187 95% 覆土中 PL133 二次焼成
2	土師器 碗	B (6.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ、内面へう磨き、体部内面へう磨き。内面黒色処理、外面器面刺摩。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P1188 45% 床面
3	土師器 甕	B (4.7) C 8.4	底部から体部下位片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へう磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P1191 10% 覆土中
4	土師器 甕	A [20.2] B (5.5)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P1190 5% 覆土中
5	土師器 甕	A [21.9] B (7.0)	口縁部片。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1189 5% 床面
6	須恵器 匙	B (5.0)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P1192 5% 覆土中



図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第272図7	土 玉	1.9	1.9	0.5	( 3.9)	覆 土 中	DP1096 80%
8	管状土錘	( 9.8)	3.6	1.8	(128.0)	覆 土 中	DP1097 90% PL170

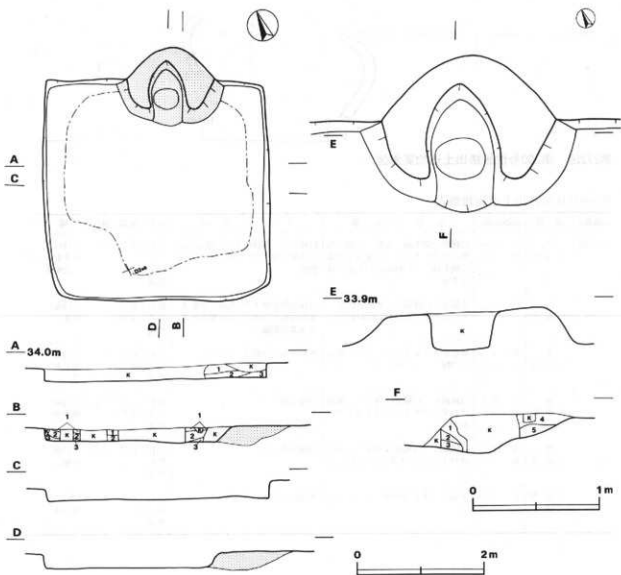
図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
9	釘	( 3.9)	0.7	0.5	( 2.8)	床 面	M1022 95% PL179
10	針	( 2.0)	0.1	-	( 0.4)	覆 土 中	M1047 95% PL179

### 第201号住居跡 (第273図)

位置 調査区の北西, C 2 j 8 区。

規模と平面形 長軸3.56m, 短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-23°-E



第273図 第201号住居跡実測図

壁 壁高は19~23cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。耕作により攪乱を受けており、両袖部先端部、焚き口部、煙道部のみが残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで100cm、両袖最大幅150cm、壁外への掘り込みは52cmである。焚き口部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 4 灰褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量

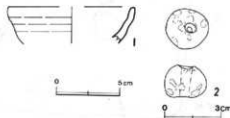
覆土 3層からなるが、耕作により攪乱をかなり受けているため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土器器片153点(坏片18点、甕片135点)、須恵器片10点(坏片7点、甕片3点)、土玉1点が出土しているが、ほとんどが細片であるため図示できるものは2点のみであった。覆土中から、第274図1の須恵器坏、2の土玉が出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が細片であるため明確でないが、奈良時代と考えられる。



第274図 第201号住居跡出土遺物実測図

第201号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第274図 1	坏 須恵器	A [10.0] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1193 覆土中 5%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
2	土玉	1.7	2.3	0.5	7.3	覆土中	DP1098 100%	PL169

第202号住居跡(第275図)

位置 調査区の北東部、D2d4区。

重複関係 本跡は、第40号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.22m、短軸4.97mの方形である。北西コーナー部は調査区域外に延びる。

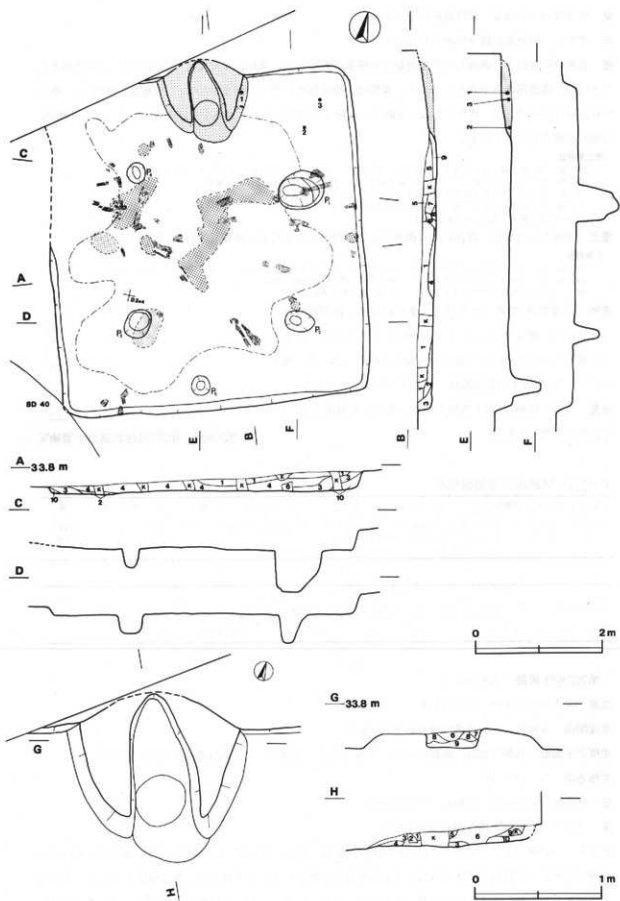
主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は12~30cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径34~74cm、短径30~62cmの楕円形、深さ31~67cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P1は配列が南側にわずかにずれるが、他に検出できなかったことから主柱穴とした。P5は径31cmの円形、深さ48cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。



第275图 第202号住居跡实测图

規模は、煙道部から焚き口部まで134cm、両袖最大幅138cm、壁外への掘り込みは29cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

**覆土層解説**

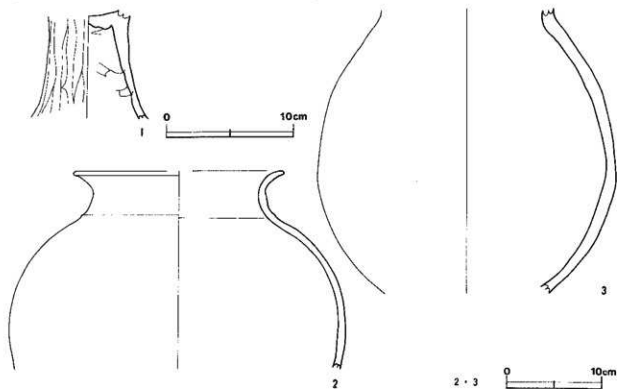
- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 にぶい赤褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 8 にぶい赤褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量

**覆土** 10層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。住居中央部下層から床面にかけて炭化材や焼土塊が検出されている。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化材微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化材少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子少量
- 8 にぶい赤褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土少量

**遺物** 土師器片42点(坏片6点、甕片36点)が出土している。覆土下層では、第276図3の土師器甕が北東コーナー部から横位の状態で出土している。床面では、2の土師器甕が北西コーナー部から正位の状態で出土している。竈内からは、1の土師器高坏が出土している。



第276図 第202号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることから、焼失家屋と思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第202号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第276図 1	高 土 師 器	E ( 8.5)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1195 20% 甕内
2	甕 土 師 器	A [21.9] B (20.9)	体部からは縁部片。体部は内壁して立ち上がる。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面器面荒れ。	長石・雲母・スコリア にふい黄褐色 不良	P1196 40% 床面 PL133
3	甕 土 師 器	B (30.1)	体部片。体部は内壁して立ち上がる。	体部外面ナデ。内面器面荒れ。	長石・スコリア 褐色 不良	P1197 40% 覆土中

第203A号住居跡(第277図)

位置 調査区の北東部、D2g2区。

重複関係 本跡が、第203B・203D号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸 [3.45]m、短軸 [2.83]mの方形と推定される。

主軸方向 N-111°-E

壁 壁高は10cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、竈南側にわずかに踏み固められた部分が見られる。

竈 南東端中央部に、火床部のみ残存する。焚き口部、両袖部は第203D号住居跡に掘り込まれている。火床部の規模は径74cmの円形で、床面を5cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、ローム小ブロック、ローム・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土 掘り込みが浅いため、堆積状況は不明である。

土層解説

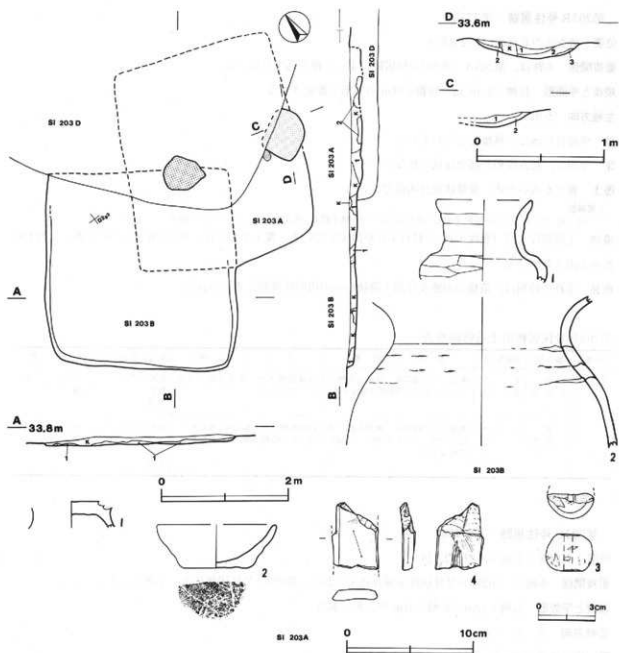
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物 土師器片282点(坏片60点、高台付坏片1点、甕片220点、椀片1点)、須恵器片13点(坏片9点、蓋片2点、甕片2点)、土玉1点が出土している。覆土中からは第277図、1の土師器高台付坏、2の手捏土器、3の上玉、4の砥石が出土している。

所見 覆土中から竈の袖部補強材とみられる熱を受けた雲母片岩が出土していることから、竈は耕作等によって削平されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

第203A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	高台付坏 土師器	B ( 2.0)	高台部。高台はハの字状に開く。	高台部貼付け。	長石・雲母 明赤褐色 不良	P1199 5% 覆土中 二次焼成



第277図 第203A・203B号住居跡・出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 2	手捏土器 土 鉢器	A [ 9.5] B 3.5 C 5.1	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は内彎する。	口縁部。体部内・外面ナデ。底部は木炭灰。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1198 覆土中 45%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	土 玉	1.9	2.5	0.5	(5.7)	覆土中	DP1099 50%

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	砥 石	(5.3)	(3.7)	0.9	(21.9)	緑色凝灰岩	覆土中	Q1009 PL174

### 第203B号住居跡（第277図）

位置 調査区の北東部，D2g2区。

重複関係 本跡は，第203A・203D号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸[3.10]m，短軸3.01mの方形と推定される。

主軸方向 不明

壁 壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固めた部分は見られない。

覆土 覆土が浅いため，堆積状況は明確でない。

#### 土層解説

1 層 褐色 炭化・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片1点（甍片1点），軽石1点が出土している。覆土中からは，第277図2の上師器甕，1の土師器壺が出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

### 第203B号住居跡出土遺物観察表

図面番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・装束	備考
第277図 1	甍 土師器	A [7.4] B [6.4]	体部から1縁部片。体部は内押しして立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へツ削り，内面ナデ。	長石・炭母 棕色 普通	P1200 覆土中 20%
2	甍 土師器	B (11.9)	体部から1縁部片，端部欠損。体部は内押しして立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面輪襷み紙，外面器面刷毛。	長石・石英・炭母・スコリア 棕色 不良	P1201 覆土中 15%

### 第203D号住居跡（第278図）

位置 調査区の北東部，D2f2区。

重複関係 本跡が，第203B号住居跡を掘り込んでおり，第203A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.42m，短軸5.01mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は20~40cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固められた部分は見られない。

ピット 4か所（P1~P4）。P1~P4は，長径40~60cm，短径39~47cmの楕円形，深さ30~61cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈 北西壁中央部に，砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで102cm，両袖最大幅102cm，壁外への掘り込みは37cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受け赤変炭化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 遺土層解説

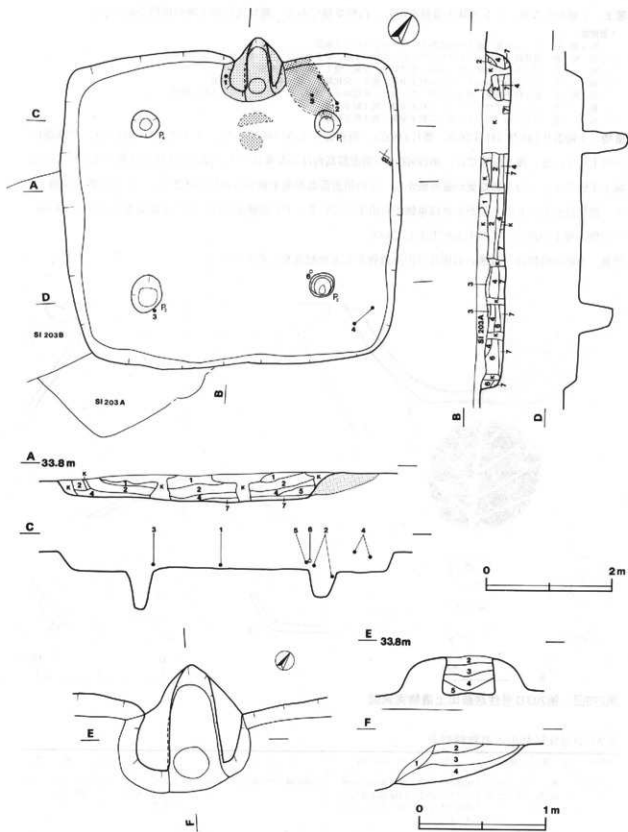
1 層 褐色 ローム・粘土粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

2 層 褐色 焼土・粘土粒子少量，炭化物微量

3 層 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量，炭化物微量

4 層 暗褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

5 層 暗赤褐色 焼土粒子少量，炭化・ローム粒子微量



第278图 第203D号住居跡実測図



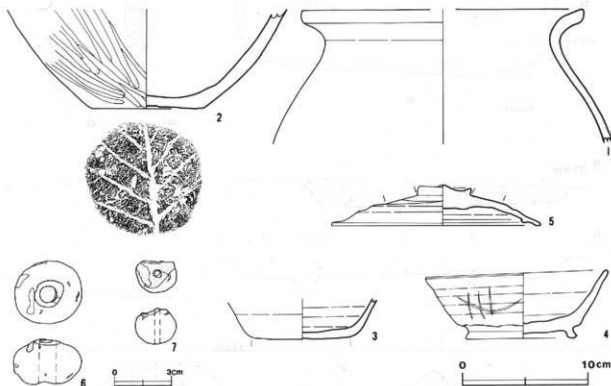
覆土 7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。竈付近に焼土塊の堆積が見られる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片185点(坏片36点、甕片149点)、須恵器片1点(坏片1点)、土玉2点、砥石1点、合鉄洋15gが出土している。覆土上層では、第279図4の須恵器高台付坏が東コーナー部から正位の状態出土している。覆土下層では、1の土師器甕が竈西側から、5の須恵器蓋が竈東側から逆位の状態、3の須恵器坏が南コーナー部付近から、6の土玉が中央部東側から出土している。P1北側からは、2の土師器甕が出土している。その他、覆土中から、7の土玉が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第279図 第203D号住居跡出土遺物実測図

第203D号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第279図 1	甕 土師器	A [10.6] B (22.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にふい橙色 普通	P1202 15% 覆土中
2	甕 土師器	B (7.9) C 9.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へう磨き、内面ナデ。底部木葉痕。	長石・雲母・スクリアにふい橙色 普通	P1203 15% 覆土中
3	坏 須恵器	B (3.2) C 8.0	底部から体部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。底部回転へう磨り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P1205 10% 覆土中

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第279図 4	高台付環須恵器	A 14.6	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部はわずかに内巻して立ち上がり、11層部は外巻する。	口縁部、体部内・外面ロクロナテ。底部回転へう閉り状。高台粘付け。体部外面にへう記号。	灰石・小礫 黄灰色 普通	P1204 70% 覆土中 PL123 へう記号
		B 5.3				
		C 8.7				
		E 1.1				
5	須恵器	A 16.6	口縁部一部欠損。つまみはボタン状である。天井部は丸く、11層部内側に短いきえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナテ天井部回転へう閉り。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1206 90% 覆土中 PL123
		B 3.2				
		F 4.3				
		G 0.8				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	土	2.4	3.5	0.9	23.4	覆土中	DP1100 100% PL169
7	土	1.9	2.2	0.3	(6.6)	覆土中	DP1101 90%

### 第204号住居跡(第280図)

位置 調査区の北西部、D1j0区。

規模と平面形 一辺が7.95mの方形と推定される。竈、西壁等の遺構の3分の2は、調査区域外に延びている。

主軸方向 不明

壁 壁高は55~67cmで、垂直に立ち上がる。

発溝 調査区域外を除いてはほぼ巡っている。上幅20~31cm、下幅7~12cm、深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、P1、P2の西端は踏み固められている。

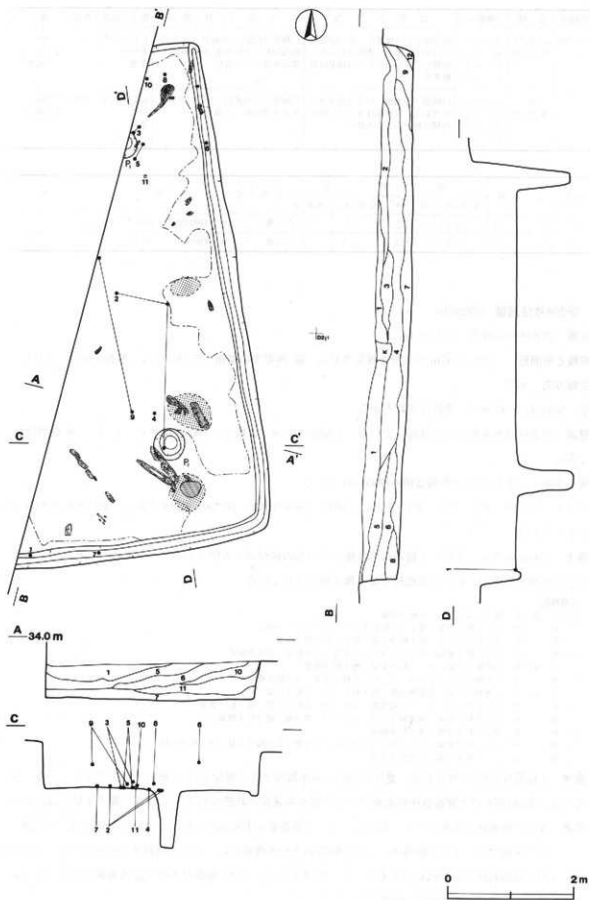
ピット 2か所(P1、P2)。P1、P2は、径41~50cmの円形、深さ86~89cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。

覆土 12層からなり、1層と7層が自然堆積、その他の層がローム中・小ブロックを含む人為堆積である。壁周辺の下層から床面にかけて炭化材や焼土塊が検出されている。

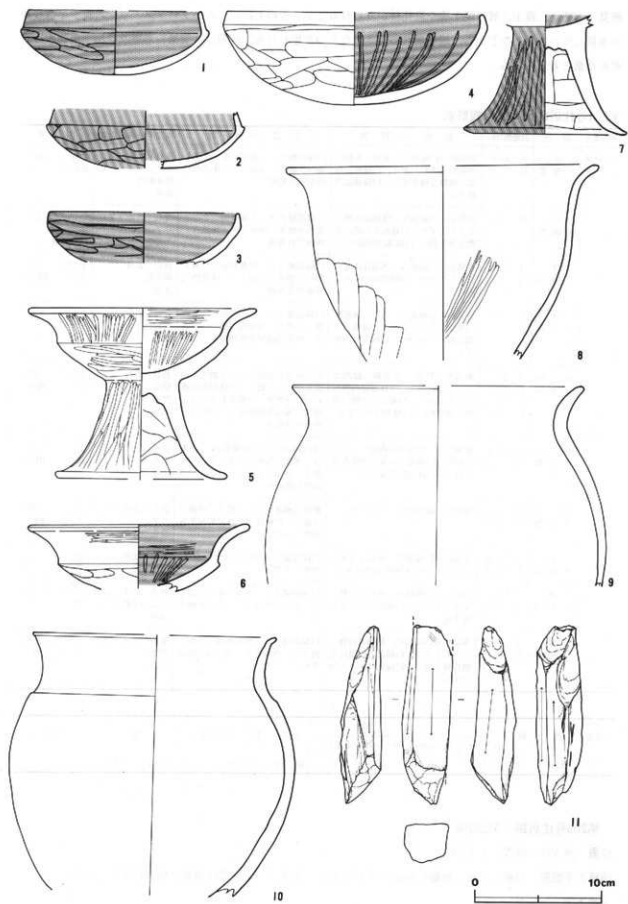
#### 土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 褐色 炭化粒子多量、炭化物中量、焼土粒子・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム中・小ブロック・炭化物・炭化・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 土師器片202点(坏片45点、爨片157点)、須恵器片2点(爨片2点)、砥石1点が出土している。覆土上層では、第281図6の土師器高坏が北東コーナー部から逆位の状態で出土している。覆土下層では、10の土師器爨、8の土師器鉢が北東コーナー部から、9の土師器爨が中央部から出土している。10は斜位の状態で出土している。床面では、1の土師器坏、7の土師器高坏が南壁部から、2の土師器坏が中央部から、3の土師器坏、5の上師器高坏、11の砥石が北東コーナー部付近から、4の土師器坏が中央部南東側から出土している。1は正位、5は逆位、7は横位の状態で出土している。



第280图 第204号住居跡実測图



第281图 第204号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、覆土下層に焼土塊や炭化材がみられること、その上にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから、焼土後期ものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

第204号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	手法の特徴	胎土・色調・産成	備考
第281回 1	坏土師器 土師器	A 13.6; B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に明確な線を伴つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。内面ナデ。体部内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1207 60% 床面
2	坏土師器 土師器	B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に明確な線を伴つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。内面ナデ。体部内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P1208 45% 床面 二次焼成
3	坏土師器 土師器	A [13.0]; B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。内面ナデ。体部内・外面黒色処理。	長石・雲母 褐色 普通	P1209 50% 床面 PL133
4	坏土師器 土師器	A 20.2; B 7.3	短頸から口縁部片。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に明確な線を伴つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。内面放射状のへラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・雲母 灰褐色 普通	P1210 30% 床面
5	高坏土師器 土師器	A 18.1; B 13.5; D [13.5]; E 7.6	脚部及び坏部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に明確な線を伴つ。口縁部は外反する。	坏口縁部外面縦位のへラ磨き。内面縦位のへラ磨き。坏部外面縦位のへラ磨き。内面放射状のへラ磨き。脚部外面縦位のへラ磨き。内面へラ削り。	長石・雲母 褐色 普通	P1211 85% 床面 PL133
6	高坏土師器 土師器	A 17.4; B (5.3)	脚部欠損。坏部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に明確な線を伴つ。口縁部は外反する。	坏口縁部内・外面縦位のへラ磨き。坏部外面へラ削り後、へラ磨き。内面放射状のへラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母 褐色 普通	P1212 55% 覆土中 PL133
7	高坏土師器 土師器	B (9.6); D 12.9	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のへラ磨き。内面へラ削り。内面坏部・外脚部黒色処理(うるし?)。	長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P1213 35% 床面 PL133
8	鉢土師器 土師器	A [24.6]; B (15.3)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P1216 20% 覆土中
9	类土師器 土師器	A [23.2]; B (15.7)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後、内面ナデ。内面器面完成。	長石・石英・雲母 淡黄色 普通	P1215 20% 覆土中
10	壺土師器 土師器	A [19.2]; B (20.5)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に明確な線を伴つ。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内・外面器面完成。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1214 90% 覆土中 PL134

図録番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
11	砥石	(14.2)	3.4	3.1	(192.5)	凝灰岩	床面	Q1016 PL175

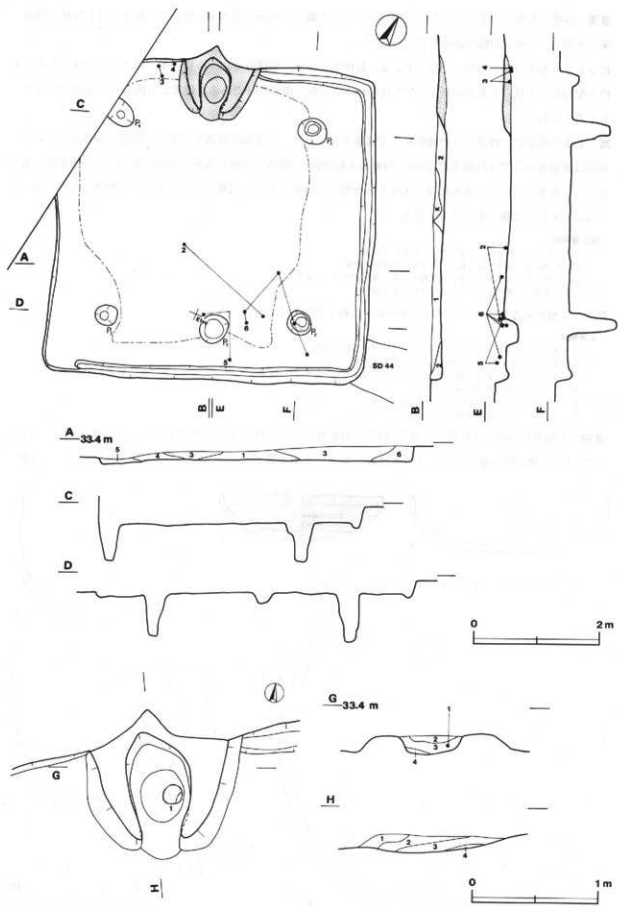
第205号住居跡(第282回)

位置 調査区の西部、E I d9区。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸4.60mの方形である。北西コーナー部は調査区域外に延びている。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は10~21cmで、外傾して立ち上がる。



第282图 第205号住居跡实测图

壁溝 西壁下を除いて巡っている。上幅18~25cm, 下幅6~11cm, 深さ4~15cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径35~46cm, 短径31~42cmの楕円形, 深さ58~74cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は径49cmの円形, 深さ20cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで119cm, 両袖最大幅121cm, 壁外への掘り込みは34cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を8cm掘りくぼめており, 火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

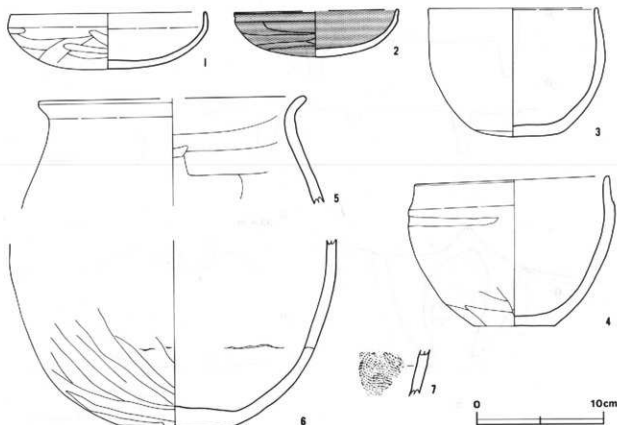
- 1 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗 赤 褐色 焼土・粘土粒子・灰少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 4 に近い赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量

覆土 6層からなり, ロームブロックやローム粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗 褐色 炭化材・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック, ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片73点(坏片17点, 壺片56点), 須恵器片3点(坏片3点)が出土している。覆土下層では, 第283図1の土師器坏が竈内から, 2の土師器坏が中央部南東側から出土している。床面では, 3, 4の土師器



第283図 第205号住居跡出土遺物実測図

鉢が竈の西側から正位の状態で、5の土師器甕が中央部南側から、6の土師器甕が中央部南東側から出土している。7の須恵器鉢の体部片は外面に同心円状印きが施されている。

所見 本跡は、覆土にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから、埋め戻されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。

第205号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第283図 1	坏 土師器	A 15.4 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1217 95% 覆土中 二次焼成 PL134
2	坏 土師器	A [13.1] B 3.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母・ 白色針状物 黒褐色 普通	P1218 50% 覆土中 PL134
3	鉢 土師器	A 13.4 B 10.2 C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部内・外面器面充れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 不良	P1220 85% 床面 PL134
4	鉢 土師器	A 15.5 B 11.8 C 6.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り。底部ナデ。内面器面充れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1219 85% 床面 PL134
5	甕 土師器	A [21.2] B (8.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面へラナデ。	長石・石英・雲母 に灰い褐色 普通	P1221 10% 床面
6	甕 土師器	B [14.7] C 9.1	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り、内面器面潤滑。	長石・石英・雲母・ スクリヤ 赤褐色 不良	P1222 30% 床面

### 第206号住居跡 (第284図)

位置 調査区の西部、E1h0区。

規模と平面形 掘り込みが浅く耕作による攪乱を受けているため、規模と平面形は明確ではないが、残存している壁や床面から一辺が2.36mの方形と推定される。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は4cmである。

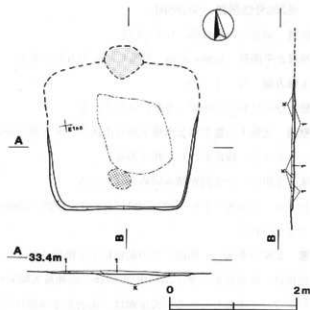
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に、火床部のみ残存する。火床部は長径62cm、短径53cmの楕円形で、熱を受け赤変硬化している。

覆土 単一層であり、覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

1 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量



第284図 第206号住居跡実測図



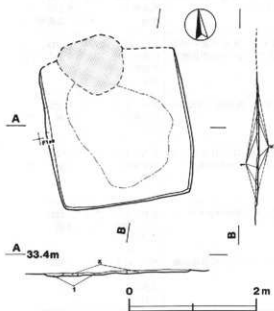
遺物 土師器片16点(甕片16点)が出土しているが、ほとんど細片であるため、図示できるものはない。

所見 本跡は出土遺物も少ないため、時期不明である。

#### 第207号住居跡 (第285図)

位置 調査区の西部, F1a9区。

規模と平面形 掘り込みが浅く耕作による攪乱などを受けているため、規模と平面形は明確ではないが、残存している壁や床面から一辺が2.26mの方形と推定される。



主軸方向 N-0°

壁 壁高は7cmである。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に、わずかに焼土、粘土が残存している。

範囲は長径104cm、短径92cmの不整形円形である。

覆土 単一層であり、覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

1 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片16点(坏片2点、甕片14点)、須恵器片1点(坏片1点)が出土しているが、ほとんどが細片であるため、図示できるものはない。

所見 本跡は出土遺物も少ないため、時期不明である。

第285図 第207号住居跡実測図

#### 第208号住居跡 (第286図)

位置 調査区の南西部, G1a9区。

規模と平面形 長軸4.80m、短軸4.71mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

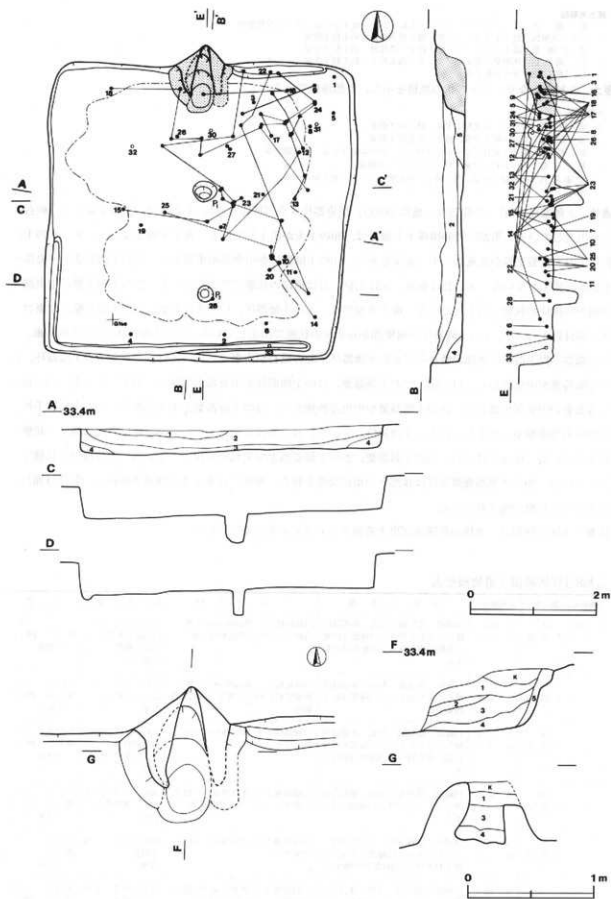
壁 壁高は46~51cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁下の竈東側と南壁下から南西コーナー部にかけて巡っている。上幅12~25cm、下幅6~14cm、深さ2~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 2か所(P1, P2)。P1, P2は、径25~37cmの円形、深さ42~55cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで107cm、両袖最大幅91cm、壁外への掘り込みは34cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床面は、床面を4cm掘りくぼめており、火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。



第286图 第208号住居跡実測图

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化材微量
- 2 にいり赤褐色 焼土中ブロック中量、焼土粒子少量、粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・粘土粒子少量
- 4 灰褐色 ローム中量、焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

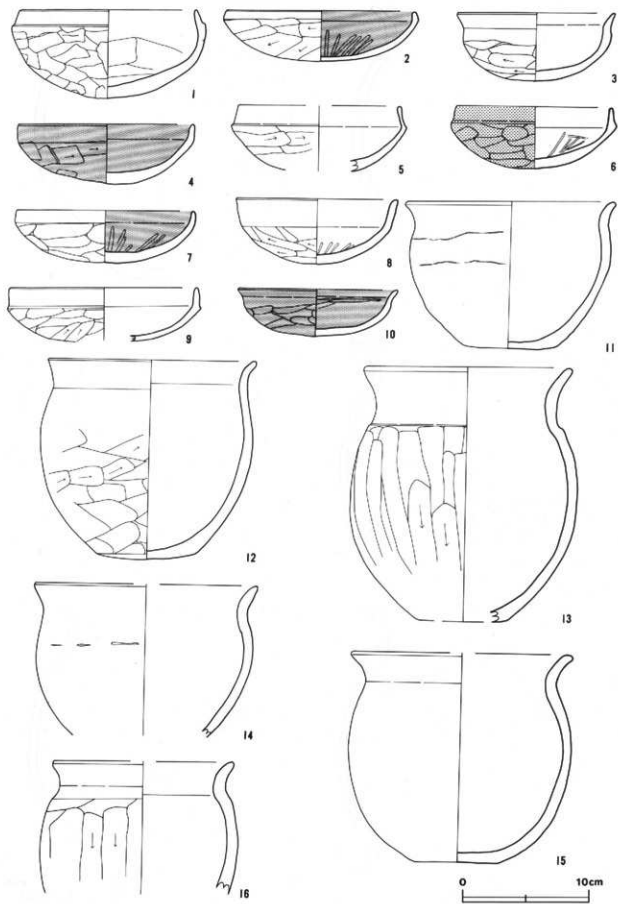
- 1 暗褐色 ローム・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土粒子・炭化物・ローム・粘土粒子少量

遺物 土師器片565点（坏片75点、甕片490点）、須恵器片6点（坏片6点）、土玉1点、土製支脚2点、砥石1点が出土している。第287～290段覆土上層では、30の上玉が出土している。覆土中層では、5、8、9の土師器坏、31の土製支脚が北東コーナ部付近から、10の土師器坏が中央部南東側から、12の土師器甕が中央部北東側から出土している。8、12は斜位、10は正位、31は横位の状態で出土している。32の主製支脚が中央部北西側から横位の状態で出土している。覆土下層では、1の上師器坏、17の土師器甕、24の土師器甕は北東コーナ部付近から、2、4の土師器坏が南壁部から正位の状態で出土している。3の土師器坏、26の土師器甕、27の土師器手裡上器が中央部北側から、6の土師器坏、33の砥石が南東コーナ部付近から、7の土師器坏、16の土師器甕が中央部から、14、20、22の土師器甕、11の土師器鉢が中央部南東側から出土している。13、18の土師器甕が中央部東側から、19の土師器甕が中央部西側から、21の土師器甕が中央部から、28の土師器手裡上器が中央部南側から出土している。1は斜位、6、7、11、27は正位、3、17、28は逆位、24は横位の状態で出土している。床面では、15、23の土師器甕、25の土師器甕が中央部から出土している。25は横位の状態で出土している。29の須恵器甕頸部片は体部との境に突帯を持ち、頸部に11本1条の飾溝き波状文、体部外面に同心円の当て具痕が施されている。

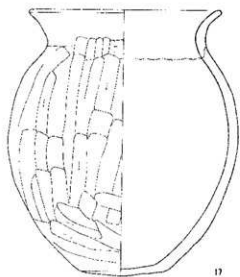
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第208号住居跡出土遺物観察表

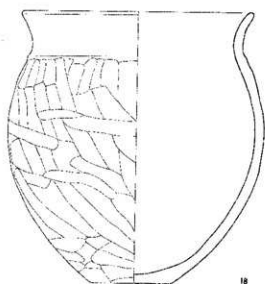
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第287段 1	坏 土師器	A 14.0 B 7.0	口縁部・部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ヘラナデ。外面輪縁のみ直。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1224 98% 覆土中 PL131 二次焼成
2	坏 土師器	A 15.0 B 4.0	口縁部・部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1225 98% 覆土中 PL134 二次焼成
3	坏 土師器	A 12.3 B 5.5	口縁部・部欠損。丸底。外郭は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外長する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・白色針状物にふい黄褐色 普通	P1226 98% 覆土中 PL131 二次焼成
4	坏 土師器	A 14.0 B 4.7	口縁部・部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面出色処理。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1229 95% 覆土中 PL135 二次焼成
5	坏 土師器	A [12.8] B (5.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・赤褐色 普通	P1233 20% 覆土中 二次焼成
6	坏 土師器	A 12.3 B 4.9	口縁部・部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面細なヘラ磨き。外面赤彩。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1227 98% 覆土中 PL131 二次焼成



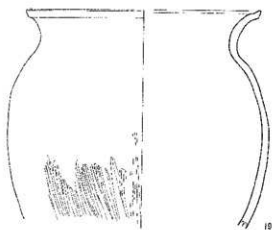
第287图 第208号住居跡出土遺物実測図(1)



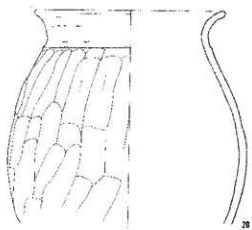
17



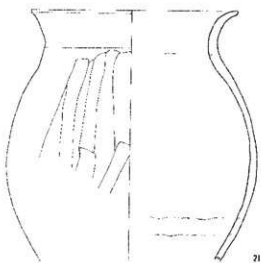
18



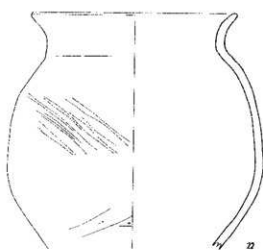
19



20



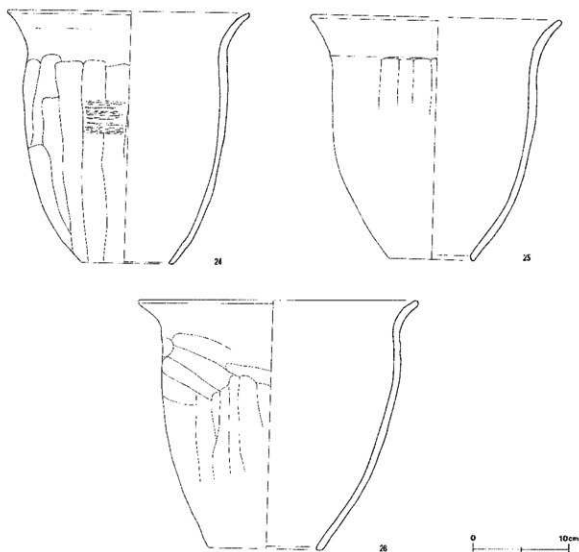
21



22

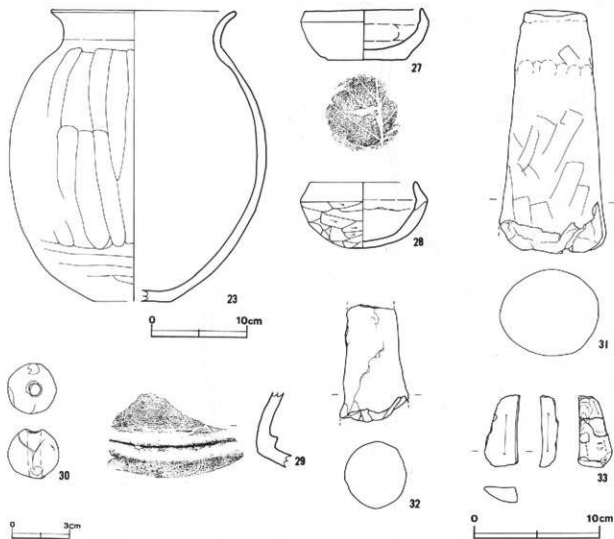


第288图 第208号住居跡出土遺物実測図(2)



第289図 第208号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第287図 7	杯 土師器	A 14.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は短く直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面へう割り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 棕色 普通	P1231 90% 覆土中 PL135 二次焼成
		B 4.2				
8	杯 土師器	A 12.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に倒い様を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面へう割り。	長石・石英・雲母 にぶい灰色 普通	P1228 98% 覆土中 PL135 二次焼成
		B 5.1				
9	杯 土師器	A 14.9	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1232 55% 覆土中 PL135
		B (4.2)				
10	杯 土師器	A 12.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り、後へう割り。内面へう割り。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1230 100% 覆土中 PL134
		B 3.7				
11	鉢 土師器	A 16.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面器面荒れ。輪轆み直。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1448 90% 覆土中
		B 11.8				
12	甕 土師器	A 16.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は小さく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へう割り。内面器面荒れ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P1241 95% 覆土中 PL135
		B 15.7				
		C 7.8				



第290図 第208号住居跡実測図(4)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第287図 13	甕 土師器	A 16.8 B 20.1 C [ 7.1 ]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に鋭い稜を持つ。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り。内面器面荒れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 不良	P 1242 70% 覆土中 PL135
14	甕 土師器	A [17.6] B [12.0]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面輪積み状。内・外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1243 80% 覆土中 PL135
15	甕 土師器	A [17.6] B 16.6 C [ 6.4 ]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	P 1244 40% 覆土中 PL135
16	甕 土師器	A [14.4] B (10.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に鋭い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り。外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1245 30% 覆土中 PL135
第288図 17	甕 土師器	A 20.2 B 28.0 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。内面器面荒れ。	長石・雲母 にふいい橙色 普通	P 1234 90% 覆土中 PL135
18	甕 土師器	A [24.4] B 28.7 C 8.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に鋭い稜を持つ。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 にふい橙色 普通	P 1236 70% 覆土中 PL136

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第298図 19	甕 土師器	A [24.6] B (22.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、踵部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘウ磨き。内面器面荒れ。	長石・雲母にふい黄色 普通	P1237 40% 覆土中 PL136
20	甕 土師器	A 20.1 B (22.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に深い稜を持つ。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨り。内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1238 60% 覆土中
21	甕 土師器	A 21.6 B (26.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨り。内面輪積み痕。内面器面荒れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1239 45% 覆土中 PL136
22	甕 土師器	A 21.6 B (24.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨き。内面ナデ。	長石・雲母 にふい黄色 普通	P1240 30% 覆土中 PL136
第299図 23	甕 土師器	A 19.4 B 30.8 C [ 8.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨り。内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1235 85% 床面 PL137
第299図 24	甕 土師器	A 24.9 B 26.4 C 9.4	底部から口縁部片。無底式。体部はわずかに内彎して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨り。中位に縦毛目痕。内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰青褐色 普通	P1246 90% 覆土中 PL135
25	甕 土師器	A [26.5] B 25.5 C 8.9	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に深い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨り。内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1247 85% 床面 PL136
26	甕 土師器	A 29.2 B 26.2 C [11.7]	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨り。内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P1248 45% 覆土中 PL136
第299図 27	手捏土器 土師器	A 9.0 B 4.1 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。底部木置痕。	長石・雲母 黒褐色 普通	P1249 95% 覆土中 PL134
28	手捏土器 土師器	A 8.4 B 5.3	口縁部、底部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘウ磨り。内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・雲母 にふい黄色 普通	P1250 80% 覆土中 PL134

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
30	土 玉	2.7	2.5	0.7	16.0	覆土中 DP102 100% PL169	
31	支 脚	19.3	(7.6)	-	(161.5)	覆土中 DP103 90% PL173	
32	支 脚	(9.2)	(3.3)	-	(246.5)	覆土中 DP104 70%	

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
33	瓶 石	(5.7)	(2.6)	(1.2)	(29.3)	安山岩	覆土中 Q1012	

### 第209A号住居跡(第291図)

位置 調査区の南西部、G2c1区。

重複関係 本跡が、第209B号住居跡を掘り込んでいる。

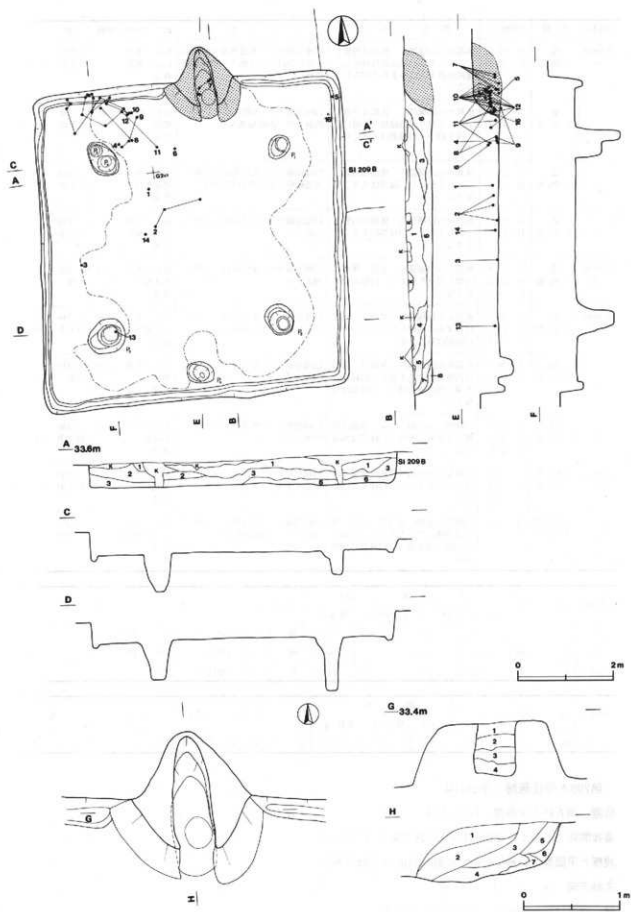
規模と平面形 長軸6.66m、短軸6.35mの方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は25~56cmで、垂直に立ち上がる。

趾溝 全周する。上幅13~26cm、下幅5~12cm、深さ5~18cmで、断面形はU字状である。





第291图 第209 A号住居跡实测图

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は、長さ53~81cm、短径43~73cmの楕円形、深さ51~104cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径33cmの円形、深さ93cmである。位置から補助柱穴と考えられる。P6は長さ71cm、短径44cmの楕円形、深さ28cmである。位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂泥じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで152cm、両袖最大幅153cm、壁外への掘り込みは71cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を7cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 焼土小ブロック少量、焼土・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土・粘土粒子・灰中灰
- 5 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 6 暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子少量
- 7 暗赤灰色 灰多量、焼土・粘土粒子微量

覆土 8層からなり、ロームブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

#### 土層解説

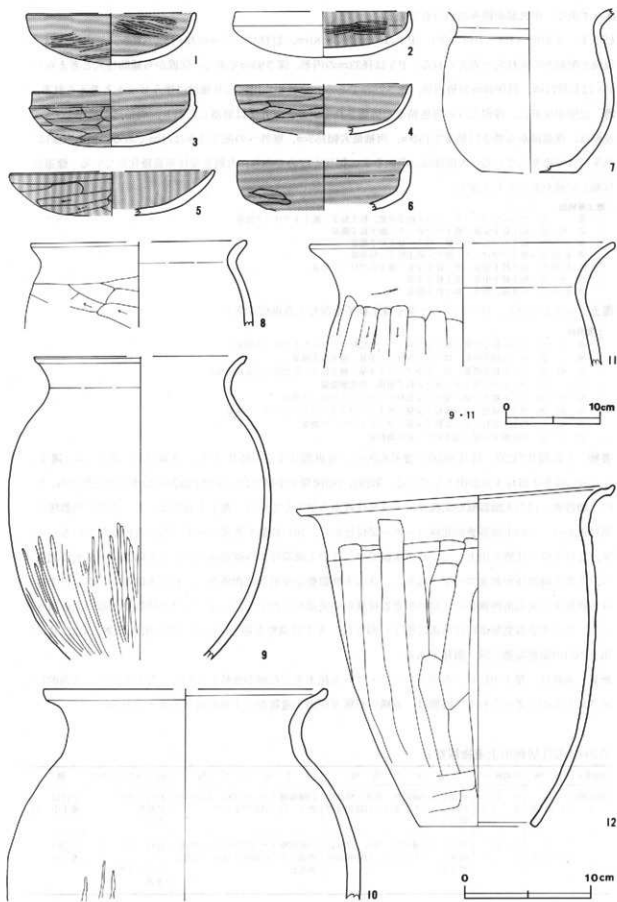
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物微量

遺物 土師器片742点(坏片103点、甕片639点)、須恵器片4点(坏片4点)、鉄鏝2点、鉄滓35g、縄文土器片5点、弥生土器片4点が出土している。第292、293両覆土中層では、6の土師器坏が中央部北側から、10、11の土師器甕、12の土師器甕が北西コーナー部付近から出土している。覆土下層では、1、2の土師器坏が中央部付近から、8の土師器甕が北西コーナー部付近から、16の鉄鏝が北東コーナー部から出土している。1は斜位、2は正位の状態出土している。床面では、3の土師器坏が西端部から、4の土師器坏が中央部北西側から、5の土師器坏が北東コーナー部から、9の土師器甕が中央部北西側から、13の土師器ミニチュア土器が斜位の状態中央部南西側から、14の須恵器提版が中央部から出土している。7の土師器甕が竈内から出土している。15の須恵器甕胴部片は外面に格子目叩き後、カキ目調整を施している。15の須恵器甕は第225号住居跡出土の14の須恵器甕と同一個体である。

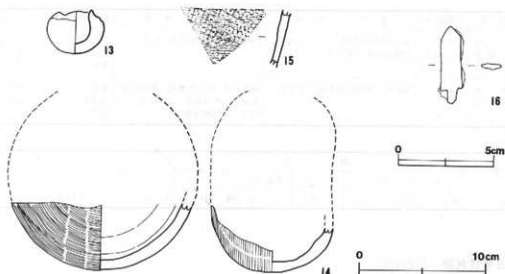
所見 本跡は、覆土中にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。

#### 第209A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第292図 1	土師器 坏	A 13.4	底部から口縁部片、丸底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面へラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 無褐色 普通	P1252 70% 覆土中 PL137
		B 4.1				
2	土師器 坏	A 13.7	底部から口縁部片、丸底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ磨き。内面ナデ。内面黒色処理。内面器面荒れ。	長石・雲母・スクリヤ にぶい黄褐色 普通	P1264 70% 覆土中
		B 3.6				



第292図 第209A住居跡出土遺物実測図(1)



第293図 第209A号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第292図 3	坏 土 器	A [12.6] B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P1253 40% 床面 PL137
4	坏 土 器	A [14.0] B (8.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外彎する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P1254 20% 床面
5	坏 土 器	A [16.2] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外彎する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P1255 30% 床面
6	坏 土 器	A [13.6] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立し、口唇部は内閉き状で、内面に弱い稜を持つ。	口縁部横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P1256 20% 覆土中
7	壺 土 器	B (12.8) C [7.7]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面磨面荒れ。	長石・雲母 褐色 普通	P1260 75% 畿内 PL137
8	壺 土 器	A [17.2] B (6.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P1261 10% 覆土中
9	壺 土 器	A [22.4] B (32.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1257 50% 床面 PL137
10	壺 土 器	A [22.4] B (16.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・雲母 にぶい黄色 普通	P1258 30% 覆土中 PL137
11	壺 土 器	A [32.2] B (13.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は大きく外反し、端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1259 20% 覆土中
12	瓶 土 器	A 25.4 B 27.0 C 9.3	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反し、端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P1262 70% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	釉上・色調・成成	備考
第292回 13	ミナホリ土師器	A 2.7 B 3.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は反り外反する。	口縁部傾ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・赤緑にふい黄褐色 青浦	P1449 100% 床面 PL137 ミニチュア雙
14	提須器	B (5.2)	体部片。体部は円形状を呈する。	巻き上げ、ロクロ整形。体部外面、表面にカキ目調整。裏面に指子目印。自然釉付着。	長石・赤褐色 良好	P1263 20% 床面 PL137

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	鉄 織	(4.1)	1.4	0.4	(3.0)	覆上中	M1023 95% PL178

### 第209B号住居跡(第294回)

位置 調査区の南西部、G 2 b 2 区。

重複関係 本跡は、第209A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.70m、短軸4.66mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は35~47cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅17~25cm、下幅6~13cm、深さ4~12cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径33~44cm、短径32~37cmの楕円形、深さ50~64cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径33cm、短径28cmの楕円形、深さ31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から狭き口部まで108cm、両袖最大幅125cm、壁外への掘り込みは30cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

#### 竈土層解説

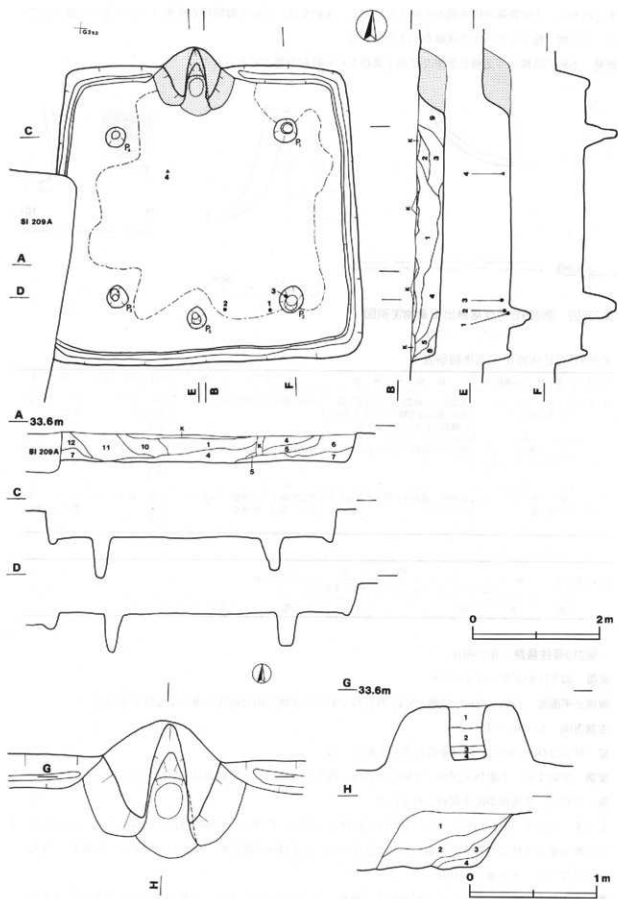
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量

覆土 12層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

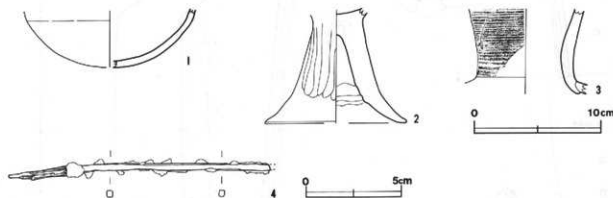
遺物 土師器片163点(坏片37点、甕片126点)、須臾器片5点(甕片5点)、鉄織2点、鉄片5g、縄文土器片3点が出土している。覆土下層では、第295回2の土師器高坏が中央部南側から、3の須臾器提瓶が南東コー



第294图 第209B住居跡実測图

ナ一部から、4の鉄鏝が中央部から出土している。床面では、1の上師器が南東コーナー部から出土している。その他、覆土中から4の鉄鏝が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。



第295図 第209B号住居跡出土遺物実測図

第209B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第295図 1	坏 土師器	B ( 5.1)	底部から口縁部片、口唇部欠損。 丸底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母 暗灰黄色 普通	P1265 10% 床面
2	高 坏 土師器	E ( 9.1) D [11.1]	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・雲母 にふい赤褐色 普通	P1266 25% 覆土中
3	提 須 瓶 土師器	B ( 6.7)	頸部片。頸部はわずかに外反して 立ち上がる。	頸部外面カキ目調整、内面クロク ナデ。頸部二段構成。	長石・石英・小礫 灰色 普通	P1040 10% 覆土中 PL137

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鉄 鏝	(13.9)	0.7	0.4	( 6.1)	覆土中 M1024	95%

#### 第210号住居跡 (第296図)

位置 調査区の南部、G 2 b 7区。

規模と平面形 長軸3.88m、短軸3.85mの方形である。北側上面は近代の溝による攪乱を受けている。

主軸方向 N-30°-E

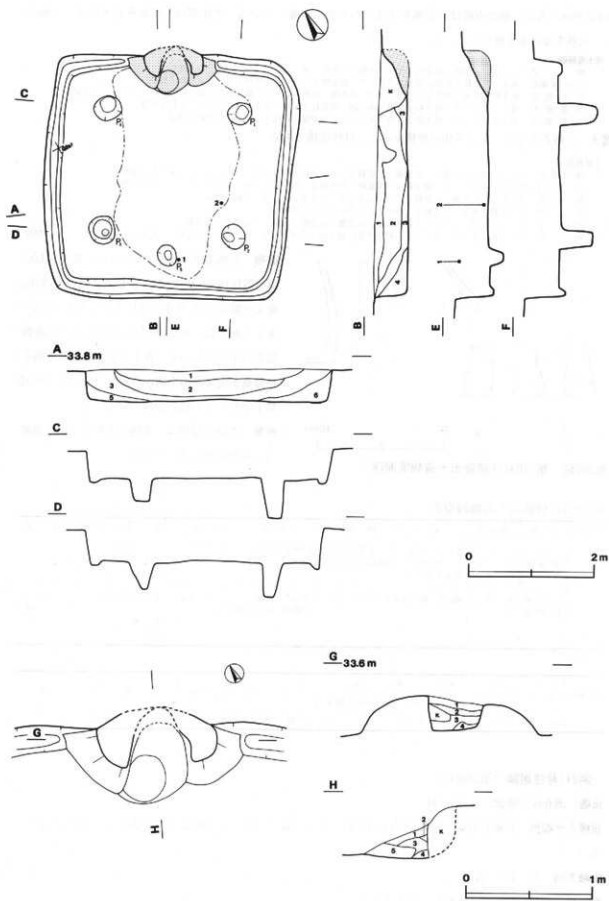
壁 壁高は48~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~30cm、下幅6~15cm、深さ6~12cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径37~43cm、短径35~43cmの楕円形、深さ37~63cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径35cm、短径31cmの楕円形、深さ24cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道部は、近代の溝により攪乱を受け残存していない。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで(78)cm、両袖最



第296图 第210住居跡実測図



大層132cmである。前の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。

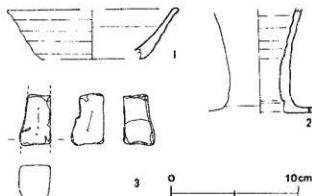
**覆土層解説**

- 1 紫 色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 2 に近い赤褐色 焼土・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化物・炭化・ローム・粘土粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化・ローム・粘土粒子微量

**覆土** 7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大ブロック微量



**遺物** 土師器片278点(坏片34点、壺片244点)、須恵器片18点(坏片18点)、砥石1点、鉄滓70g、縄文土器片6点、弥生土器片1点が出土している。覆土上層では、第297図1の須恵器の坏が両面壁部から出土している。覆土下層では、2の須恵器長頸瓶が中央部南東隅から出土している。その他、覆土中から3の砥石が出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。

第297図 第210号住居跡出土遺物実測図

**第210号住居跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第297図 1	須恵器 坏	A 12.6 B 3.9 C 8.0	体部から口縁部片、体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P1267 10% 覆土中
2	長頸瓶 須恵器	B (8.3)	頸部片、頸部は緩やかに外に開く。	頸部内・外面ロクロナデ。頸部二段焼成。内・外面自然釉。	長石・黒色吹き出し 灰白色 普通	P1268 15% 覆土中 PL137

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	砥石	(4.0)	2.5	2.6	(32.3)	凝灰岩	覆土中 Q1013	PL174

**第211号住居跡(第288図)**

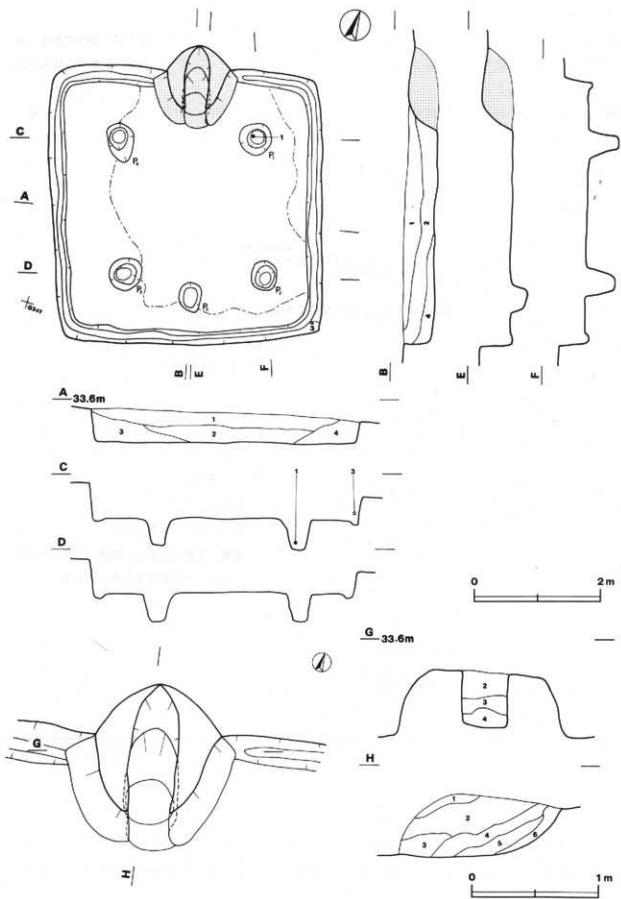
**位置** 調査区の南部、G3c2区。

**規模と平面形** 長軸4.31m、短軸4.27mの方形である。東コーナー部上面は近代の溝による擾乱を受けている。

**主軸方向** N-16°-W

**壁** 壁高は48~57cmで、外傾して立ち上がる。

**壁溝** 全周する。上幅20~27cm、下幅6~13cm、深さ4~6cmで、断面形はU字状である。



第298图 第211住居跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径46~62cm、短径40~52cmの楕円形、深さ47~49cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径46cm、短径35cmの楕円形、深さ27cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで132cm、両袖最大幅130cm、壁外への掘り込みは40cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

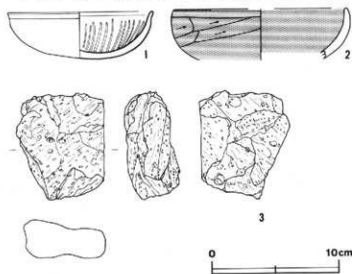
竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 2 褐色 粘土粒子中量、焼土・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック・灰少量、炭化物微量
- 5 暗赤褐色 灰中量、焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 6 褐色 ローム・粘土粒子少量

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量



遺物 土師器片301点 (坏片59点、甕片242点)、須恵器片3点 (坏片3点)、軽石1点が出土している。覆土下層では、第299図2の土師器坏、3の軽石が南東コーナー部から出土している。P1内では、1の土師器坏が正位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。

第299図 第211号住居跡出土遺物実測図

第211号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第299図 1	土師器 坏	A 11.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は、内傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ、体部外面ナデ、内面放射状のヘラ磨き。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P1269 95% ピット内PL137
		B 3.7				
2	土師器 坏	A [14.2]	体部から口縁部片。体部は、内傾して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 黒褐色 普通	P1270 20% 覆土中
		B (4.2)				

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	軽石	8.5	7.0	3.1	69.7	流紋岩	覆土中	Q1014 PL175

茨城県教育財団文化財調査報告第152集

北浦複合団地造成事業地内  
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

木工台遺跡2  
上巻

平成11(1999)年6月24日 印刷  
平成11(1999)年6月30日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
TEL 029-223-6587  
印刷 (有)川田プリント  
〒310-0041 水戸市上水1丁目6-53  
TEL 029-253-5551